

法務総合研究所

研 究 部 報 告

46

青少年の生活意識と価値観に関する研究

2 0 1 2

法務総合研究所

は し が き

非行や犯罪をした者の問題を理解し、その再発を防止し、彼らを健全な成長や改善更生に導く方策を検討する上で、非行や犯罪に関わる外的諸要因の客観的な把握とともに、非行や犯罪をした主体の側の意識や価値観の把握は欠かせない。そこで、法務総合研究所では、平成2年及び10年に「青少年の生活と価値観に関する調査」という表題により、17年には「青少年の生活意識と価値観に関する調査」という表題により調査を行い、非行少年の意識や価値観の特徴や時代的变化について分析してきた。本報告は、平成23年に法務総合研究所が実施した「青少年の生活意識と価値観に関する調査」の結果を報告するものであり、一連の調査の中では第4回目の調査の報告に当たる。

初回報告から20年余りが経過したが、この間、我が国は少子高齢化が進行し、有責少年人口も当時の水準から6割程度に減り、一般刑法犯少年の検挙人員も逐年低下傾向にある。しかし、人口比から見ると、少年期や若年成人期は非行や犯罪に及ぶ可能性が高いハイリスク期に当たり、この時期における適切な対応が、次代を担う若者の健全育成や再犯防止対策上も重要なことは、近年の犯罪白書が繰り返し指摘してきたところである。

今回の調査は、平成23年版犯罪白書において「少年・若年犯罪者の実態と再犯防止」というテーマで特集を組むに当たり、少年院出院者の出院後の刑事処分状況に関する追跡調査とともに実施した特別調査でもある。同白書が、少年及び30歳未満の若年者の非行や犯罪に焦点を当てて分析を実施したことから、今回の調査は、非行少年だけでなく若年受刑者をも調査対象とし、非行や犯罪に至った原因やその再発にまつわる要因等に関しても分析を行い、少年期から成人期にかけての指導や支援の課題についても明らかにすることを試みている。本報告は、同白書において紹介した分析のほか、男女の別による分析や心理検査の結果を用いた分析等を含んでおり、非行や犯罪により矯正施設に収容された30歳未満の青少年の生活意識や価値観は、本調査結果により、ある程度把握できるものとする。なお、本調査は、平成23年版犯罪白書における少年院出院者の追跡調査結果から得られた客観的なリスク要因等に関する知見を、非行や犯罪をした者の主観の側面から相補的に裏付けるという役割も果たしているので、平成23年版犯罪白書も併せて御覧いただければ幸いである。

今回の調査は、東日本大震災の対応で非常に繁忙を極める中、全国各地の刑事施設及び少年鑑別所に御協力いただいた。御尽力を賜った各施設を始め、法務省矯正局及び保護局に対し、心からの謝意を表する次第である。

平成24年6月

法務総合研究所長 清 水 治

要 旨 紹 介

本報告は、非行・犯罪をした青少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握するとともに、非行・犯罪のリスク要因や立ち直りに必要なニーズ等を明らかにすることを目的とし、少年鑑別所在所少年及び若年受刑者を対象として実施した意識調査（「青少年の生活意識と価値観に関する調査」）について、平成2年、10年、17年に実施された非行少年に対する同種調査との経年比較のほか、今回調査において初めて調査対象とした若年犯罪者と非行少年との対比や処分歴別の比較等の分析を行った。

1 非行少年・若年犯罪者の生活意識等

（１）家庭関係

非行少年の家庭生活に対する満足度は、上昇傾向にあり、今回調査において、約75%の者が「満足」（選択肢5項目のうち、「満足」又は「やや満足」を指す。以下この要旨紹介において同じ。）と回答している。一方、若年犯罪者の家庭生活に対する満足度は約58%と、非行少年に比して低い。男女別に見ると、非行少年においては、男子に比して女子の満足度は低く、若年犯罪者においては、男女で差は見られない。

家庭生活を「不満」（選択肢5項目のうち、「不満」又は「やや不満」を指す。以下この要旨紹介において同じ。）とする者について、その理由を見ると、非行少年、若年犯罪者共に、経済的不満、家族間葛藤及び親の無理解が、不満の主要な要因であることがうかがえる。

（２）交友関係

友人関係に対する満足度は、漸増傾向にあり、今回調査において、非行少年の約78%の者が「満足」と回答している。一方、若年犯罪者の友人関係の満足度は約60%と、非行少年に比して低い。

友人との関係については、非行少年は、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、「お互いに悪いところは悪いと言い合える」を選択する者の比率が高く、前回調査から大きな変動はない。なお、若年犯罪者は、非行少年に比して、「相手にけっこう気をつけている」、「お互いに張り合う気持ちがある」、「自分のすべてをさらけだすわけではない」を選択する者の比率が高く、友人との間に心理的距離がある状態であることがうかがえる。

友人関係を「不満」とする者について、その理由を見ると、非行少年、若年犯罪者共に、親密かつ建設的な関わりではないことを示すものが多いが、非行少年・若年犯罪者の別及び男女の別により差が見られるものもある。

（３）周囲の人々との関係

周囲の人々との関係についての意識では、非行少年、若年犯罪者共に、青少年期の特徴として、ふだんの相談相手に友達や交際相手等が選択される傾向がある。非行少年では、

将来のモデルとして最も重視されているのは同性の親であり、親の存在は大きいですが、非行の問題性が進行している者においては、家庭外の交友関係によりどこをを求める傾向が見られる。

（４）学校生活に対する意識

学校生活に対する意識では、非行少年の８割を超える者が勉強が分からないと回答し、半数近くの者が登校意欲も減退しているなど、多くの者が学校不適應を体験している。また、非行少年、若年犯罪者共に、少年期に非行の問題性が進行している者ほど、学校生活で対人的な疎外感も持ちやすい傾向にある。

（５）就労に対する意識

就労に対する意識では、非行少年、若年犯罪者共に、対象者の８割を超える者が就労を通じた自立や資格・免許の取得に前向きな態度を示すが、安直な職業観を持つ者や職場の対人関係を煩わしいと感じる者も３～４割認められた。また、非行・犯行時に無職であった者は、有職であった者に比べて、職場での対人関係に忌避的であるなど、対人面での課題を抱える者が少なくないことがうかがえる。

（６）地域社会に対する意識

地域社会に対する意識では、非行少年、若年犯罪者共に、地域社会におけるスポーツや清掃等のボランティア活動等によく参加したと回答した者ほど地域社会における人的支援への信頼も厚く、地域貢献に肯定的な態度を示す傾向にあり、地域社会の活動への参加体験が地域貢献に前向きな態度を後押しすることが認められる。

（７）社会に対する意識

現在の社会に対する満足度は、「満足」と肯定的な態度を示す者が非行少年で約３７％、若年犯罪者では約１６％と大きな開きがあり、不満の理由では、非行少年、若年犯罪者共に、経済的格差を指摘する者が６割を超える。また、社会に対する満足度は、非行少年、若年犯罪者共に、家庭生活、交友関係、自分の生き方の満足度と相互に関連性を有していることが認められた。

（８）態度・価値観

対人関係や生き方に関する態度・価値観を見ると、非行少年では、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」や「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」といった意見に賛成する者の比率が低下しており、従前に比べるとまじめで堅実な生き方を志向する傾向が見られる。また、非行少年は、特に男子の特徴として、若年犯罪者に比して、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」との意見に賛成する者の比率が高く、伝統的な性役割観の強さが見られ、若年犯罪者は、男性、女性共に、「義理人情を大切にすべきだ」との意見に賛成する者の比率が高く、人とのつながりを重視する傾向が強いことがうかがえた。

(9) 対人感情

対人感情については、非行少年では、従前に比べて、何をやってもだめだと感じる者の比率が上昇し、努力が実ってきていると感じている者の比率が低下するなど、自信や達成感・充足感の低下傾向が見られる。若年犯罪者は、非行少年に比して、世の中から取り残されていると感じたり、心のあたたま思いが少ないと感じている者の比率が高く、社会からの疎外感や孤独感を覚えていることがうかがえる。

(10) 非行・犯罪に対する意見

青少年の非行や犯罪の主な原因が自分自身であるとする者の比率は、非行少年では約67%、若年犯罪者では約63%であり、非行や犯罪をした者の扱いについては、厳しく罰するべきとする者の比率が、非行少年では約25%、若年犯罪者では約35%であった。非行少年においては、従前と比べると、主な原因が自分自身であるとする者及び非行・犯罪をした者を厳しく罰するべきとする者の比率が上昇していた。

(11) 非行・犯罪等をする者に対する意見

薬物を使用する者や不良集団に入る者、振り込め詐欺等の犯罪をする者に対する意見を見ると、非行少年は、若年犯罪者に比して、「自分には無関係」とする者の比率が高く、「気持ち理解できる」とする者の比率が低いなど、各種の問題行動に親和していないことがうかがえる。また、非行少年、若年犯罪者共に、薬物使用者については、自らが使用歴のある薬物を使用している者に対する共感度は高いが、それ以外の薬物を使用している者に対する共感度は低く、暴力団等の不良集団に入る者についても同様に、当該集団が自らが所属する不良集団ではない場合は、共感度が低い。

(12) 心のブレーキ

非行・犯罪をしようとしたときに心のブレーキとなるものとしては、非行少年、若年犯罪者共に、家族を選択した者が約7割を占めており、家族が非行・犯罪の防止に重要な意味を持っていることがうかがえる。

(13) これからの生活で大切なこと

これからの生活で大切と思えることは、非行少年、若年犯罪者共に、規則正しい生活を送ることや学校生活や就労の継続を選択する者が多い。非行少年では、不良交友の断絶がこれに次いでおり、若年犯罪者では、金銭管理や資格・技術の習得など、自立した生活に必要な項目を選択する者が多くなっている。

(14) 自分の生き方に対する満足度

自分の生き方への満足度は、過去の調査と比べると大きな変化はなく、今回調査において、非行少年では約36%の者が満足していた。若年犯罪者では、約24%の者が満足していたが、不満である者は約45%に上り、非行少年に比べて、自分の生き方に満足していない傾向が見られた。

2 非行少年・若年犯罪者の非行・犯罪に対する意識

(1) リスク領域別の非行・犯罪要因についての認識

非行や犯罪の要因に関する自己認識を見ると、非行少年、若年犯罪者共に、非行や犯罪の問題が進行している者では、生活態度や平素の行動傾向等の問題とともに不良交友関係や就労等の多様な問題を抱えていると認識している。また、非行少年では、非行や犯罪の要因として多様な問題が関与していると認めている者ほど、自己評価が低く、安逸な生活志向が高い傾向にあるなど、指導面の課題も大きいことが確認された。

(2) 処分の重さに対する意識と処分後の態度

保護処分歴又は刑事処分歴を有する者について、処分を言い渡されたときの思いを見ると、非行少年、若年犯罪者共に、社会内処遇については軽いと感じ、施設内処遇については重いと感じる傾向があった。処分後の態度について見ると、非行少年については、処分による違いはなかったが、若年犯罪者については、社会内処遇の方が施設内処遇に比べ、まじめに生活していなかった者の比率が高かった。

(3) 処分を受けて役に立ったことに関する認識

処分が役に立ったとする者の比率は、非行少年の方が、若年犯罪者に比べて総じて高く、非行少年においては、少年院送致歴を有する者の方が、保護観察歴を有する者に比べて総じて高かった。若年犯罪者についても、処分歴のうち最も重い処分が少年院送致である者は、学業や仕事の知識・技能の習得、健康や体力の向上、他人の気持ちを考えて行動できるようになるなどの点で、処分が役に立ったとする者の比率が高かった。

(4) 再非行・再犯に及んだ要因に関する認識

再非行や再犯に及んだ要因に関する非行少年・若年犯罪者自身の認識を見ると、非行少年では、不良交友が継続したことが最も多く、学校や仕事が続かないこと、まじめな友達が少ないことが続いているが、若年犯罪者では、処分を軽く考えていたことを要因とする者が最も多く、仕事が続かない・見つからないこと、問題にぶつかると諦めていたことが続いており、非行少年では交友関係が、若年犯罪者では自己の問題が、再非行・再犯の主な要因として認識されていることがうかがえる。

(5) 今後の生活や立ち直りに必要なことに関する認識

今後の生活や立ち直りに必要なことについて、自由記述の結果をまとめたところ、記載された内容として多いものは、非行少年、若年犯罪者共に、家族、就労、交友関係、自己の問題に関するものであった。また、不良交友の断絶、健全・健康な生活等については、若年犯罪者よりも非行少年の方が、必要であるとする者の比率が高く、薬物・ギャンブル離脱、金銭管理等については、非行少年よりも若年犯罪者の方が、必要であるとする者の比率が高かった。

研究部長 畔 柳 章 裕

青少年の生活意識と価値観に関する研究

研 究 官 寺 村 堅 志

研 究 官 瀧 澤 千 都 子

研究官補 石 川 ゆかり

研究官補 重 山 智 保

筑紫少女苑首席専門官（前研究官） 藤 原 尚 子

目 次

第1	調査の実施概要	1
1	調査の目的	1
2	調査実施方法	1
(1)	調査対象者	1
(2)	調査方法	3
(3)	調査内容	3
(4)	分析方法	4
第2	非行少年・若年犯罪者の生活意識等	5
1	家庭関係	5
(1)	家庭生活に対する満足度	5
(2)	家庭生活での不満の理由	7
(3)	家族との関係	10
2	交友関係	13
(1)	友人関係に対する満足度	13
(2)	友人関係の不満の理由	15
(3)	友人との関係	18
(4)	大切な友人	21
3	周囲の人々との関係	24
(1)	経年比較等	24
(2)	保護処分歴別の比較	27
4	学校生活に対する意識	30
(1)	経年比較等	30
(2)	保護処分歴別の比較	31
5	就労に対する意識	33
6	地域社会に対する意識	38
7	社会に対する意識	42
(1)	社会に対する満足度	42
(2)	社会に対する不満の理由	44
(3)	社会に対する満足度と他領域における満足度との関連	46
8	態度・価値観	47
(1)	経年比較等	47
(2)	保護処分歴別の比較	50
9	対人感情	53

(1) 経年比較等	53
(2) 保護処分歴別の比較	56
10 非行・犯罪に対する意見	58
(1) 経年比較等	58
(2) 保護処分歴別の比較	59
11 非行・犯罪等をする者に対する意見	61
(1) 非行少年・若年犯罪者別の比較	61
(2) 薬物を使用する者に対する意見	63
(3) 暴走族・暴力団に入る者に対する意見	64
(4) 保護処分歴別の比較	65
12 心のブレーキ	66
(1) 経年比較等	66
(2) 保護処分歴別の比較	67
13 これからの生活で大切なこと	69
(1) 経年比較等	69
(2) 保護処分歴別の比較	71
14 自分の生き方に対する満足度	73
(1) 経年比較等	73
(2) 保護処分歴別の比較	74
第3 非行少年・若年犯罪者の非行・犯罪に対する意識	75
1 リスク領域別の非行・犯罪要因についての認識	75
(1) 質問の設定趣旨等	77
(2) クロス表による比較	78
(3) リスク領域合計得点	83
(4) リスク領域得点と審判決定との関係	85
(5) 主観的リスク水準と性格特徴との関係	85
(6) 主観的リスク水準と社会的態度の関係	87
(7) 主観的リスク水準と各種の満足感の関係	88
2 処分の重さに対する意識と処分後の態度	90
3 処分を受けて役に立ったことに関する認識	93
4 再非行・再犯に及んだ要因に関する認識	97
5 今後の生活や立ち直りに必要なこと	101
(1) 属性等	101
(2) 初入・再入別	104
第4 まとめ	105

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

法務総合研究所では、非行少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握することを目的として、定期的に意識調査を実施している。平成2年から始まった同調査（以下「2年調査」という。）は、10年に第2回（以下「10年調査」という。）、17年に第3回（以下「17年調査」という。）が実施され、調査結果については、犯罪白書¹において概要を紹介しているほか、法務総合研究所研究部報告等²にまとめてきたところである。今回実施した第4回（以下「今回調査」という。）では、非行少年における生活意識等の経年変化を把握するだけでなく、調査対象を若年犯罪者まで拡大することにより、非行少年と若年犯罪者の生活意識等を対比させるなどして、その特徴を捉えること、また、非行や犯罪に至った要因やその後の処分等に関して、当事者である非行少年及び若年犯罪者の意識を分析することにより、非行や犯罪のリスク要因や立ち直りに必要なニーズ等を明らかにすることを目的としている。

なお、今回調査の結果の概要については、平成23年版犯罪白書³に掲載している。

2 調査実施方法

（1）調査対象者

今回の意識調査の対象者は、以下のとおりであり、1-2-1表は、調査対象者の属性等を示したものである。

ア 非行少年調査

平成23年3月中⁴に全国の少年鑑別所に観護措置により入所した少年899人のうち、調査協力に同意した者730人（回収率81%、回答者の平均年齢16.7歳）

イ 若年犯罪者調査

平成23年3月中に全国の刑事施設において刑執行開始時の処遇調査を終了し、又は刑執行開始時の指導に編入された年齢30歳未満の受刑者439人のうち、調査協力に同意した者372人（回収率85%、回答者の平均年齢24.7歳）

1 法務総合研究所（1990）「平成2年版犯罪白書」291-330頁、法務総合研究所（1998）「平成10年版犯罪白書」308-341頁、法務総合研究所（2005）「平成17年版犯罪白書」211-227頁

2 法務総合研究所（1991）「非行少年の生活・価値観に関する研究（第1報告）」法務総合研究所研究部紀要34：55-111頁、法務総合研究所（1992）「非行少年の生活・価値観に関する研究（第2報告）」法務総合研究所研究部紀要35：187-202頁、法務総合研究所（1999）「非行少年の特質に関する研究 非行少年の生活意識と価値観」法務総合研究所研究部報告4：85-225頁、法務総合研究所（2006）「最近の非行少年の特質に関する研究 非行少年の生活意識と価値観（第3報告）」法務総合研究所研究部報告32：3-79頁

3 法務総合研究所（2011）「平成23年版犯罪白書」292-317頁

4 調査期間中、東日本大震災が発生しているが、可能な範囲で調査を実施した（若年犯罪者調査も同じ。）。

1-2-1表 調査対象者の属性等

① 属性

区 分		総 数		非行少年調査		若年犯罪者調査	
調査対象者総数		1,102	(100.0)	730	(66.2)	372	(33.8)
性別	男子	993	(90.1)	643	(88.1)	350	(94.1)
	女子	109	(9.9)	87	(11.9)	22	(5.9)
年齢	年少少年	193	(17.5)	193	(26.4)	...	
	中間少年	282	(25.6)	282	(38.6)	...	
	年長少年	255	(23.1)	255	(34.9)	...	
	24歳以下	190	(17.2)	...		190	(51.1)
	25～29歳	182	(16.5)	...		182	(48.9)
入所回数	初 回	822	(74.6)	509	(69.7)	313	(84.1)
	2回以上	280	(25.4)	221	(30.3)	59	(15.9)
保護処分歴		627	(56.9)	463	(63.4)	164	(44.1)
児童自立支援施設等送致		19	(1.7)	15	(2.1)	4	(1.1)
保護観察		270	(24.5)	180	(24.7)	90	(24.2)
少年院送致		186	(16.9)	72	(9.9)	114	(30.6)

② 非行名・罪名

区 分		総 数		非行少年調査		若年犯罪者調査	
総 数		1,102	(100.0)	730	(100.0)	372	(100.0)
刑 法	犯 人	890	(80.8)	598	(81.9)	292	(78.5)
	殺 害	7	(0.6)	3	(0.4)	4	(1.1)
	強 盗	46	(4.2)	21	(2.9)	25	(6.7)
	傷 害 ・ 暴 行	196	(17.8)	162	(22.2)	34	(9.1)
	窃 盗	416	(37.7)	276	(37.8)	140	(37.6)
	詐 欺	39	(3.5)	14	(1.9)	25	(6.7)
	恐 喝	48	(4.4)	40	(5.5)	8	(2.2)
	強 姦 ・ 強 制 わ い せ つ	43	(3.9)	17	(2.3)	26	(7.0)
	放 火	8	(0.7)	2	(0.3)	6	(1.6)
	公 務 執 行 妨 害	12	(1.1)	11	(1.5)	1	(0.3)
	住 居 侵 入	6	(0.5)	5	(0.7)	1	(0.3)
	暴 力 行 為 等 処 罰 法	15	(1.4)	12	(1.6)	3	(0.8)
	そ の 他 刑 法 犯	54	(4.9)	35	(4.8)	19	(5.1)
	特 別 法 犯	183	(16.6)	103	(14.1)	80	(21.5)
	覚 せ い 剤 取 締 法	61	(5.5)	9	(1.2)	52	(14.0)
	道 路 交 通 法	86	(7.8)	68	(9.3)	18	(4.8)
	そ の 他 特 別 法 犯	36	(3.3)	26	(3.6)	10	(2.7)
ぐ 犯		29	(2.6)	29	(4.0)	-	

- 注 1 少年鑑別所退所時又は刑事施設入所時の年齢による。
 2 ①において、「年少少年」は、14歳未満の者を含み、「年長少年」は、20歳に達している者を含む。
 3 ①において、「児童自立支援施設等」は、児童自立支援施設及び児童養護施設をいう。
 4 ①において、複数の保護処分歴を有する場合は、少年院送致、保護観察、児童自立支援施設等送致の順に最も先に該当するものに計上している。
 5 ②において、複数の非行名又は罪名を有する場合は、法定刑の最も重いもの（ぐ犯については、法定刑の最も軽いものとして扱う。）に計上している。
 6 （ ）内は、①は、施設別又は区分別の構成比で、②は、区分別の構成比である。

（２）調査方法

調査は、調査対象者の協力意思を確認後、無記名で実施し、別途、調査対象者の非行名・罪名、保護処分歴等の基本的情報を調査対象者の在所施設の職員の回答により確認した。

（３）調査内容

これまでの調査結果との比較により非行少年の意識の変化が明らかになるよう、質問項目の多くは、17年調査で使用したものと同一のものを用いた。ただし、非行少年及び若年犯罪者の特質を捉えるため、関係機関が実施した同種調査の内容等を参考として、新たな質問項目を追加する一方、削除した質問項目もある。また、再非行・再犯の要因を分析するため、保護処分（児童自立支援施設・児童養護施設（以下「児童自立支援施設等」という。）送致を除く。）歴又は刑事処分（罰金以上）歴を有する者に対する過去の処分に関する質問項目も追加した。

17年調査で使用した調査票と異なる質問項目については、次のとおりである。

ア 新設した質問項目（質問項目の追加・変更を含む）

- Q 7 学校生活
- Q 8 就労
- Q 9 地域社会に対する態度⁵
- Q14 非行・犯罪をする者等に対する意見
- Q15 非行・犯罪の原因
- Q16 処分歴
- Q17 保護観察に対する意識・態度
- Q18 少年院送致に対する意識・態度
- Q19 罰金に対する意識・態度
- Q20 執行猶予に対する意識・態度
- Q21 実刑に対する意識・態度
- Q22 処分を受けて役立ったこと
- Q23 再非行・再犯の原因
- Q26 非行や犯罪から立ち直るために必要なこと

イ 削除した質問項目

- 地域社会
- 人の暮らし方
- 同世代の者に対する見方

5 17年調査においても「地域社会」という項目はあったが、質問内容は、今回調査とは異なり、地域社会において性的なものや違法なものに接近しやすいと認識しているか、地域社会の人々が身近なトラブルに介入してくれると認識しているか等を問うものであった。

（４）分析方法

調査結果の分析は、過去３回の調査結果との比較、非行少年と若年犯罪者との比較のほか、少年時の非行性の進度による違いを見るため、非行少年及び若年犯罪者の双方について保護処分歴別の比較を行い、必要に応じてその他の分析を行った。

なお、保護処分歴別の分析に当たっては、「少年院送致」、「保護観察」及び「保護処分歴なし」の３区分に分類し⁶、標本数の少ない児童自立支援施設等送致歴のみを有する者（１－２－１表①参照）については、保護処分歴別の統計的分析からは除外している。

分析において、クロス表分析等による統計的検定を行った場合、検定結果を図表中又は本文に付記しているが、１％水準で有意（ $p < 0.01$ ）の場合は「**」を付し、５％水準で有意（ $p < 0.05$ ）である場合は「*」を、有意差のない場合は「ns(non significant)」をそれぞれの統計量の末尾に表記している⁷。

6 保護観察と少年院送致の両方に該当する場合は、少年院送致の区分に計上している。

7 クロス表分析で有意差が見られた場合は、残差分析の結果により検定結果の解釈を行っており、分散分析を実施している場合には、多重比較の結果を本文解釈に反映させている。

第2 非行少年・若年犯罪者の生活意識等

1 家庭関係

(1) 家庭生活に対する満足度

Q1 あなたは、家庭生活にどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

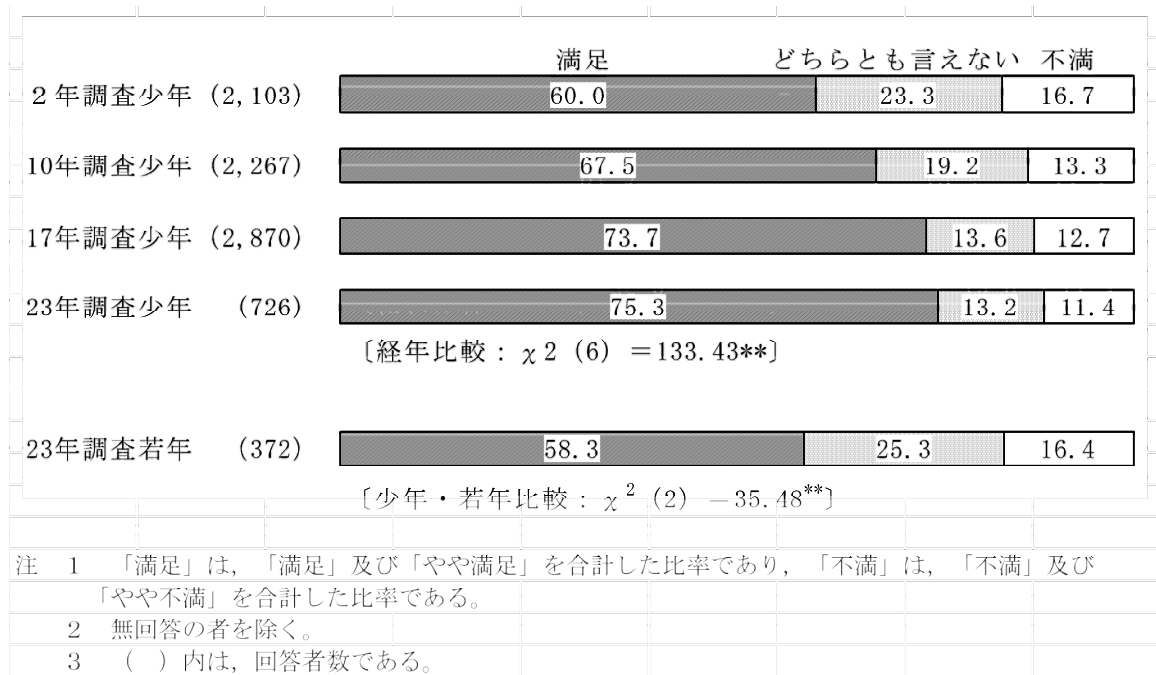
ア 経年比較等

2-1-1図は、家庭生活にどのくらい満足しているかを経年比較したものである。家庭生活に対する満足度を「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。），「どちらとも言えない」，「不満」（「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果との間でクロス集計を行ったところ，「満足」の構成比が上昇傾向にあり（今回75.3%），非行少年においては，家庭生活に対する満足度が高まっていることがうかがえる。

なお，今回調査において，非行少年と若年犯罪者の満足度を比較すると，「満足」の構成比は，非行少年に比して，若年犯罪者は有意に低く，「どちらとも言えない」，「不満」の構成比は，いずれも有意に高かった。

さらに，非行少年，若年犯罪者それぞれについて，男女の差を見たところ，非行少年においては，「満足」は男子が有意に高く（男子77.6%，女子58.6%），「どちらとも言えない」は女子が有意に高かった（男子11.7%，女子24.1%）（ $\chi^2(2) = 15.49^{**}$ ）。若年犯罪者においては，男女で有意差は見られなかった（ $\chi^2(2) = 2.39^{ns}$ ）。

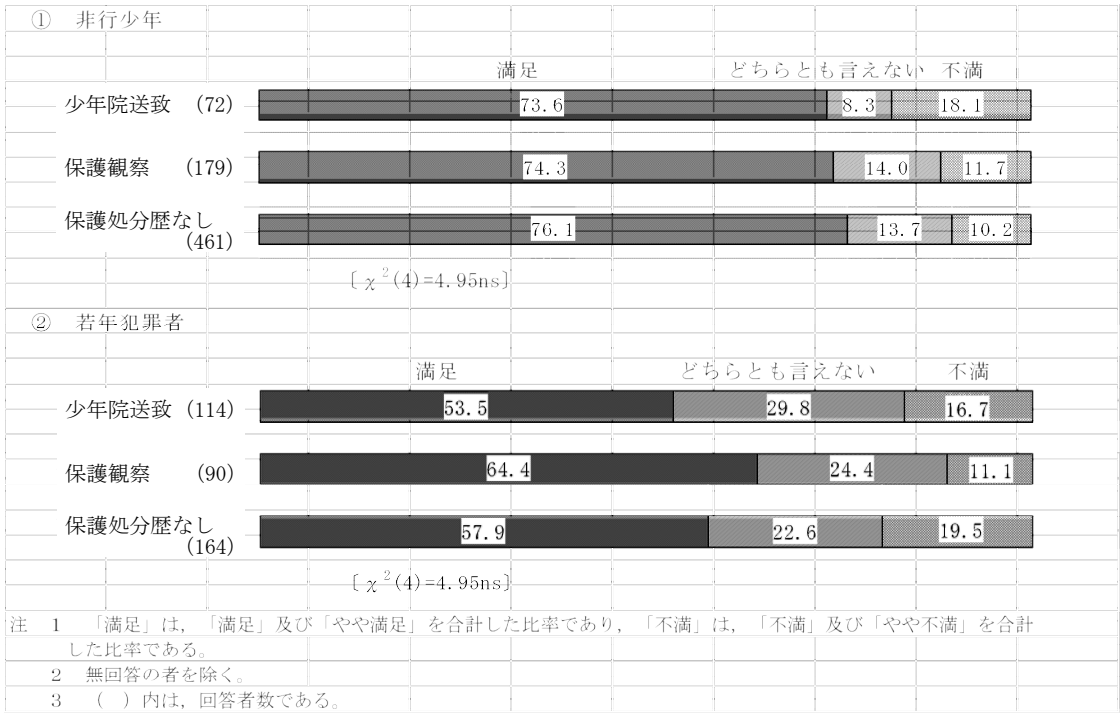
2-1-1 図 家庭生活に対する満足度（経年比較等）



イ 保護処分歴別の比較

2-1-2 図は、家庭に対する満足度を非行少年，若年犯罪者のそれぞれについて，保護処分歴別に見たものである。非行少年，若年犯罪者共に，有意差は見られなかった。

2-1-2図 家庭生活に対する満足度（保護処分歴別）



(2) 家庭生活での不満の理由

Q1b 「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。
次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 家庭に収入が少ない
- 2 家庭内に争いごとがある
- 3 親の愛情が足りない
- 4 親が自分を理解してくれない
- 5 病人がいる
- 6 きょうだいと気が合わない
- 7 家の周囲の環境が悪い
- 8 家が狭すぎる
- 9 ただなんとなく
- 10 その他 ()

※本問は、Q1で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問している。

ア 経年比較等

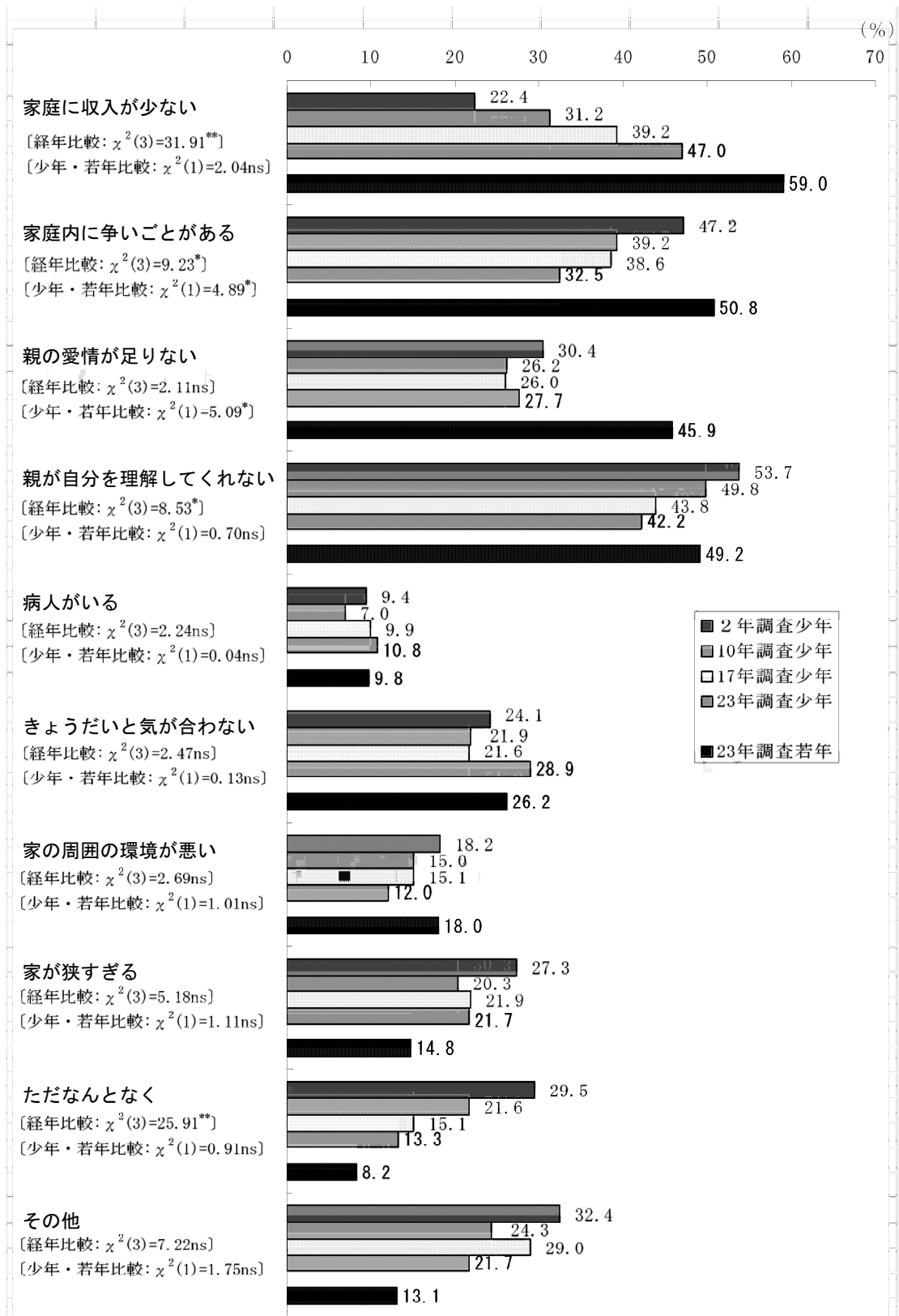
2-1-3図は、家庭生活での不満の理由として、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を経年比較したものである。

過去3回の調査において選択率が最も高かった「親が自分を理解してくれない」は、今回調査では2位（42.2%、17年調査に比して1.7pt（「ポイント」の略記であり、比率の差をいう。以下、同じ。）低下）であった。代わって、今回調査の1位は、17年調査において2位、10年調査において3位であった「家庭に収入が少ない」（47.0%、同7.8pt上昇）であり、経済的不満が大きくなっていた。3位は、17年調査と同様に「家庭内に争いごとがある」（32.5%、同6.1pt低下）であり、「きょうだいと気が合わない」（28.9%、同7.3pt上昇）、「親の愛情が少ない」（27.7%、同1.7pt上昇）が続いている。

また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に、選択率を比較すると、若年犯罪者において選択率が有意に高かったのは、「家庭内に争いごとがある」及び「親の愛情が足りない」の2項目であった。非行少年において選択率が有意に高かった項目はなかった。

なお、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、男女で有意差のある項目はなかった。

2-1-3図 家庭生活に対する不満の理由（経年比較等）



注 1 Q1において「不満」（「不満」及び「やや不満」）と回答した者に占める各項目を選択した者の比率である。

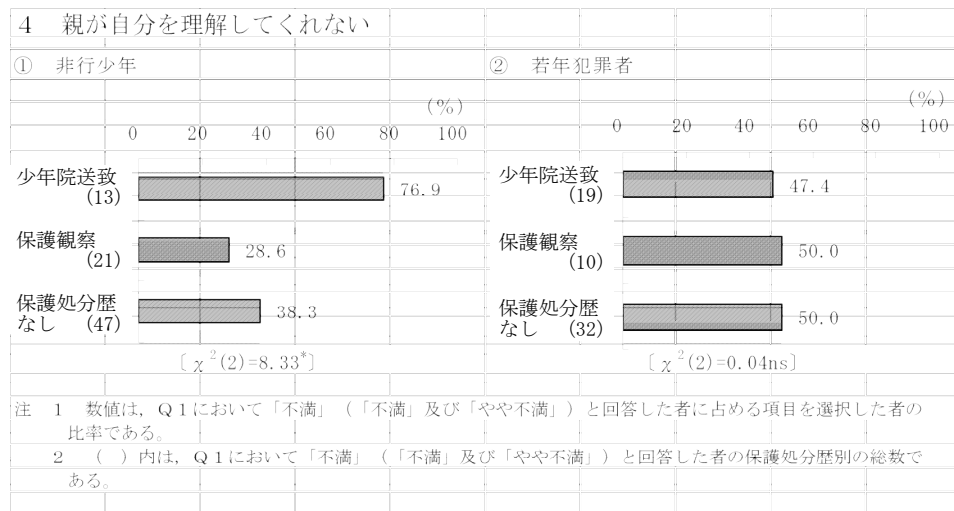
2 上限のない複数回答である。

3 「その他」は、借金、暴力等である。

イ 保護処分歴別の比較

今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、家庭生活に対する不満の理由について保護処分歴別にクロス集計を行ったところ、非行少年においては、2-1-4図のとおり、「親が自分を理解してくれない」において、有意差が見られ、少年院送致歴を有する者が有意に高かった。若年犯罪者においては、いずれの項目においても、有意差は見られなかった。

2-1-4図 家庭生活に対する不満の理由（保護処分歴別）



(3) 家族との関係

Q2 あなたは家の中で、次のこと（ア～キ）を感じたり思ったりしたことがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 家族との話を楽しいと感じることが・・・
- イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思うことが・・・
- ウ 自分の将来について、親に話したいと思うことが・・・
- エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じることが・・・
- オ 親がきびしすぎると感じる事が・・・
- カ 親のいうことは、気まぐれであると感じることが・・・
- キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる事が・・・

(選択肢)

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

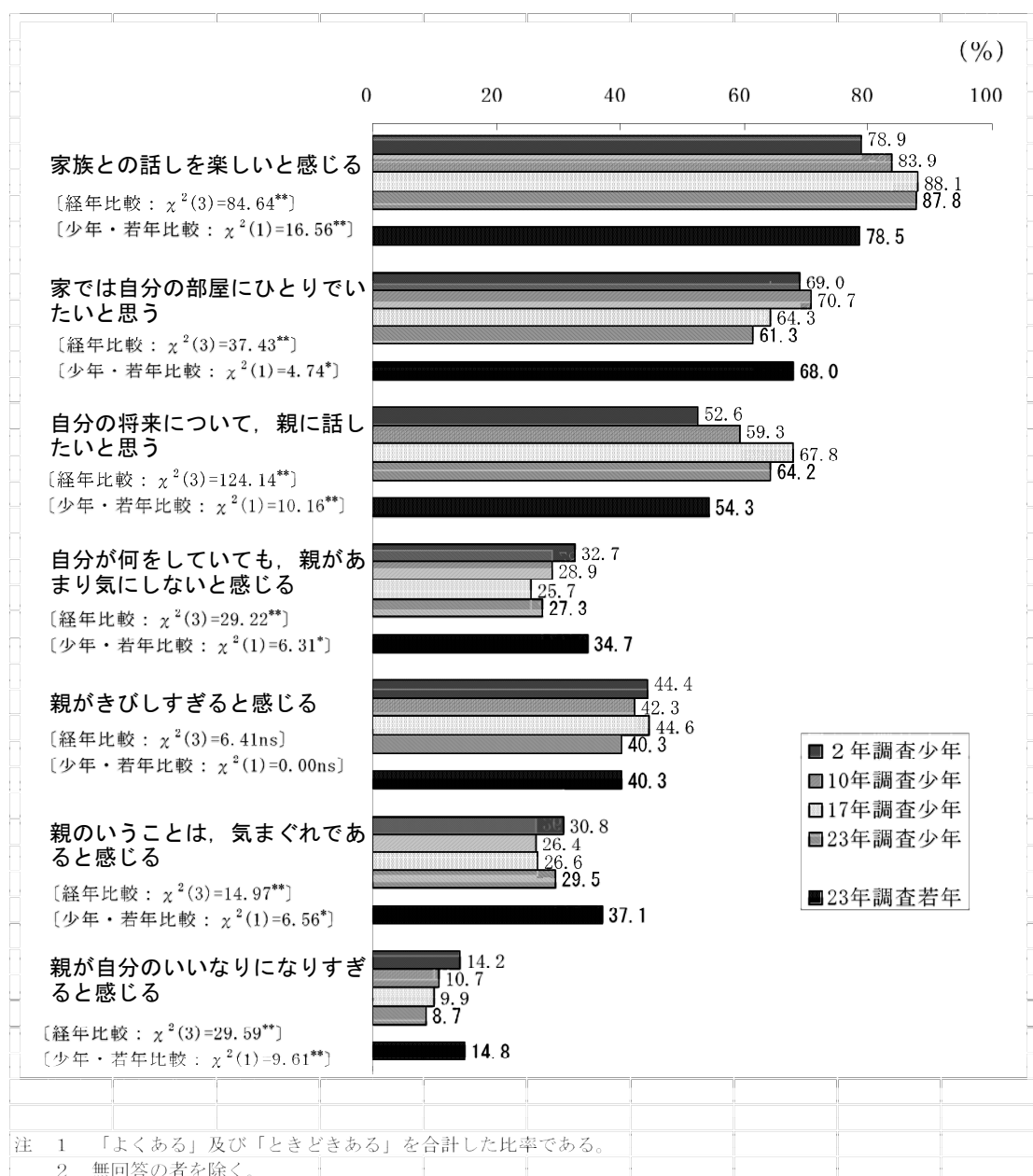
ア 経年比較等

2-1-5図は、家族との関係に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、該当率に5pt以上の上昇又は低下が見られた項目はなかった。今回調査において該当率が高かった項目は、「家族との話を楽しいと感じる」及び「自分の将来について、親と話したいと思う」であり、この2つの項目は、4回の調査を通じて上昇傾向にある。一方、該当率が低下傾向にある項目は、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」、「自分が何をしても、親があまり気にしないとを感じる」及び「親が自分のいいなりになりすぎると感じる」である。総じて、家族との関係は親和的なものとなっていることがうかがえる。

また、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に該当率を見ると、「親がきびしすぎると感じる」を除く全ての項目において有意差が見られ、若年犯罪者は、非行少年に比して、「自分の将来について親と話したいと思う」が9.4pt低く、「家族との話を楽しいと感じる」が8.6pt低いなど、家族に対して否定的感情が強いことがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、「親がきびしすぎると感じる」及び「親のいうことは、気まぐれであると感じる」について、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、女子の方が男子に比して、該当率が有意に高かった（無回答の者を除く。非行少年において、それぞれ $\chi^2(1) = 10.51^{**}$ 、 $\chi^2(1) = 5.50^*$ 、若年犯罪者において、それぞれ $\chi^2(1) = 13.27^{**}$ 、 $\chi^2(1) = 9.68^{**}$ ）。

2-1-5図 家族との関係（経年比較等）

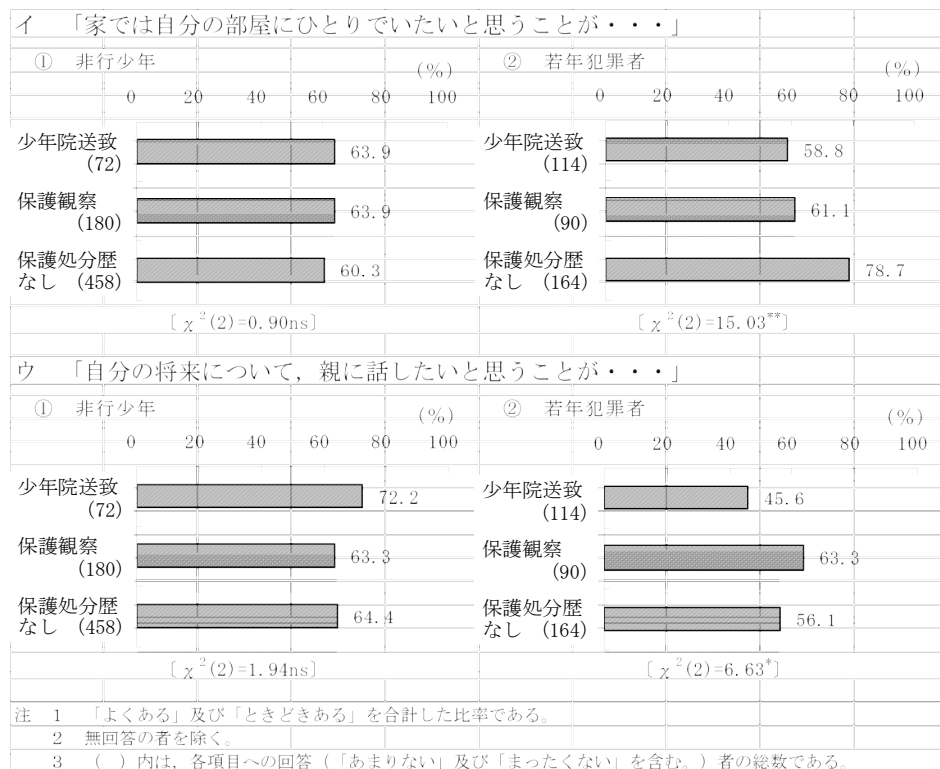


イ 保護処分歴別の比較

2-1-6図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、家族に対する不満の理由について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、該当率を見たものである。

非行少年では、保護処分歴による有意差は見られなかったが、若年犯罪者では、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」について、該当率は、保護処分歴のない者において有意に高く、少年院送致歴を有する者において有意に低かった。また、「自分の将来について、親に話したいと思う」について、該当率は、若年犯罪者において、少年院送致歴を有する者が、有意に低かった。

2-1-6図 家族との関係（保護処分歴別）



2 交友関係

Q3 あなたは、友達づきあいにどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

(1) 友人関係に対する満足度

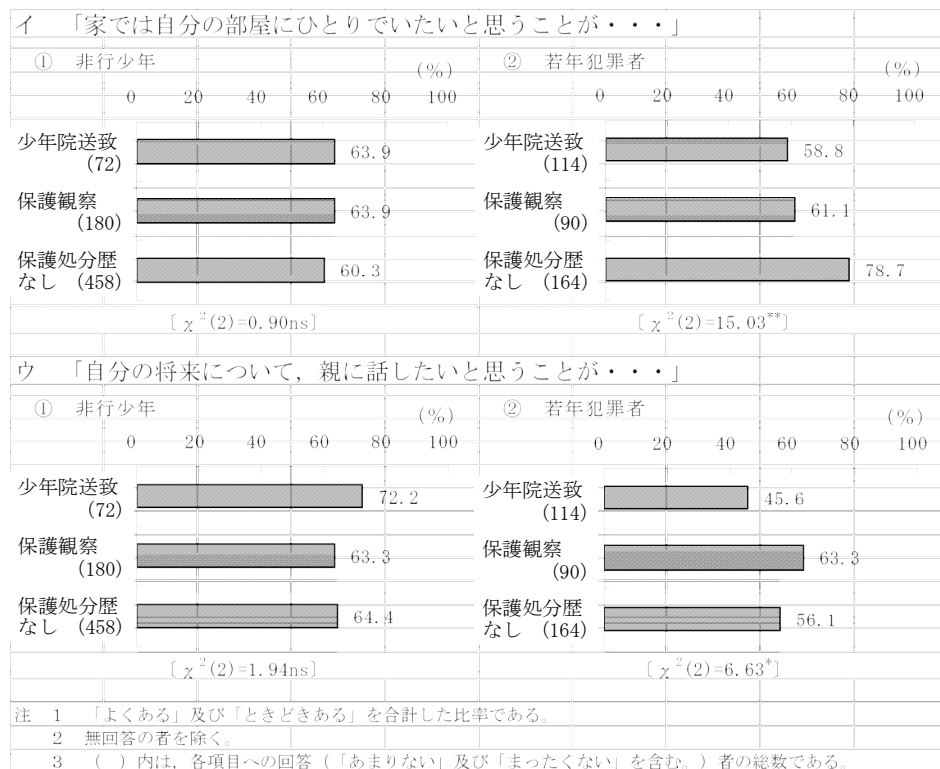
ア 経年比較等

2-2-1図は、友人関係にどのくらい満足しているかについての回答を、「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「やや不満」及び「不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、その構成比を経年比較したものである。「満足」と回答した者の構成比は、漸増傾向にあり、2年調査では70.2%であったところ、今回調査では77.7%であった。

今回調査において、非行少年と若年犯罪者の「満足」と回答した者の構成比を比較すると、非行少年に比して、若年犯罪者は有意に低く、60.2%にとどまり、「どちらとも言えない」、「不満」と回答した者の構成比は、いずれも有意に高かった。

また、非行少年、若年犯罪者のそれぞれについて、男女の差を見たところ、いずれにお

2-1-6図 家族との関係（保護処分歴別）



2 交友関係

Q3 あなたは、友達づきあいにどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

(1) 友人関係に対する満足度

ア 経年比較等

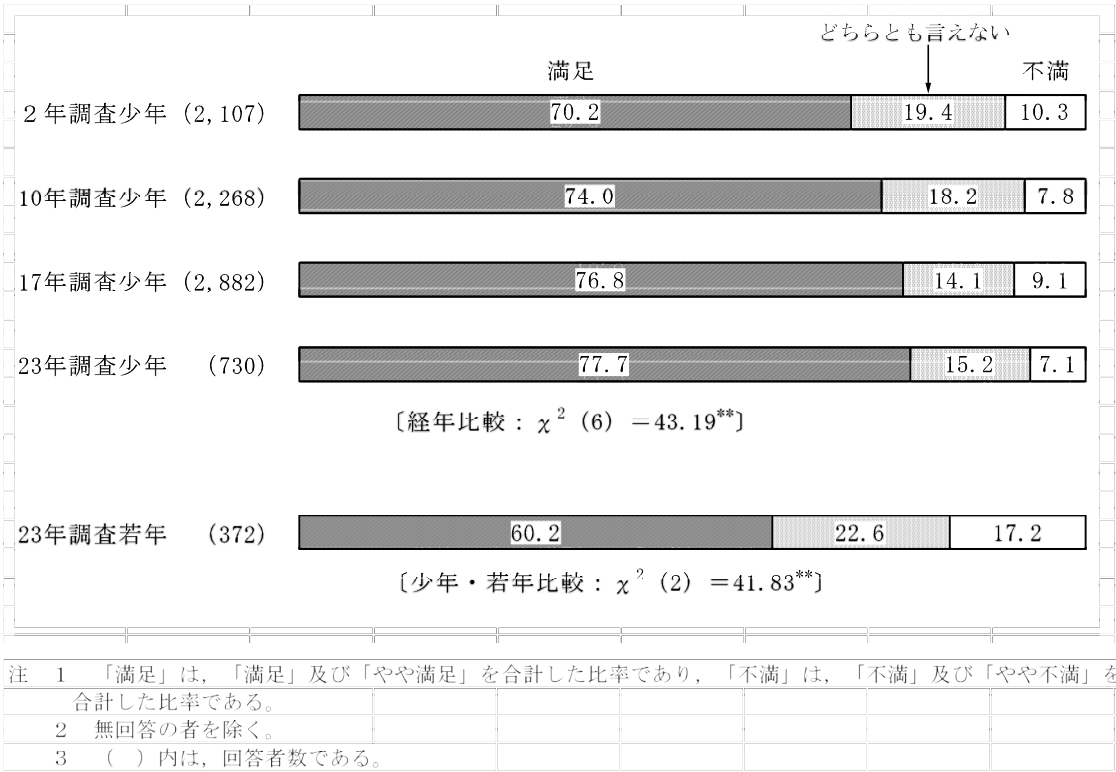
2-2-1図は、友人関係にどのくらい満足しているかについての回答を、「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「やや不満」及び「不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、その構成比を経年比較したものである。「満足」と回答した者の構成比は、漸増傾向にあり、2年調査では70.2%であったところ、今回調査では77.7%であった。

今回調査において、非行少年と若年犯罪者の「満足」と回答した者の構成比を比較すると、非行少年に比して、若年犯罪者は有意に低く、60.2%にとどまり、「どちらとも言えない」、「不満」と回答した者の構成比は、いずれも有意に高かった。

また、非行少年、若年犯罪者のそれぞれについて、男女の差を見たところ、いずれにお

いても、男女で有意差は見られなかった（それぞれ、 $\chi^2(2) = 3.71\text{ns}$, $\chi^2(2) = 3.47\text{ns}$ ）。

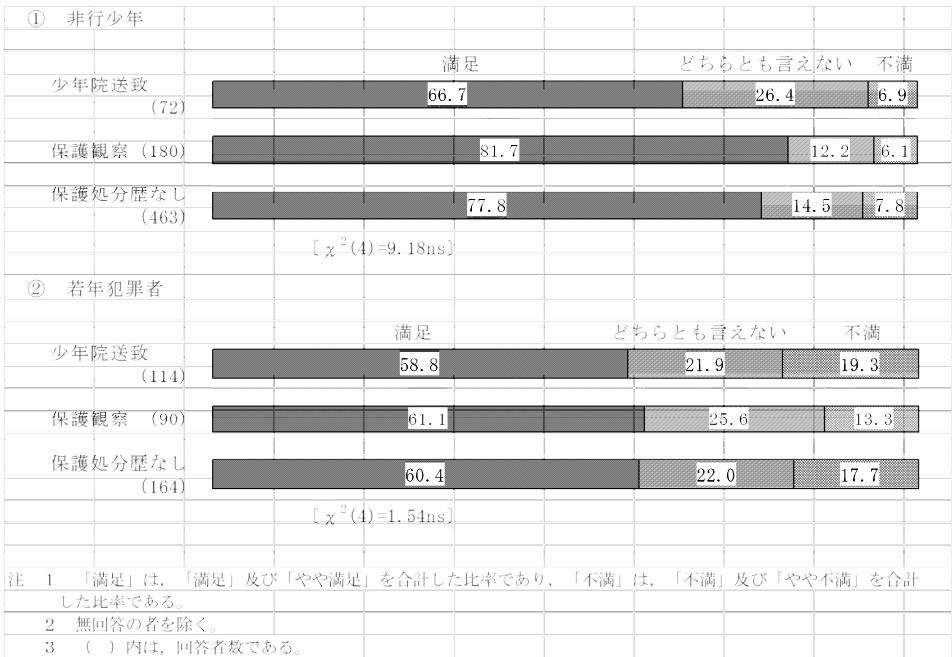
2-2-1図 友人関係に対する満足度（経年比較等）



イ 保護処分歴別の比較

2-2-2図は、今回調査における非行少年・若年犯罪者別に、友人関係に対する満足度を、保護処分歴別に見たものである。回答に有意差は見られなかったものの、非行少年において、「満足」と回答した者の構成比は、少年院送致歴を有する者では66.7%と、保護観察歴を有する者より15.0pt、保護処分歴のない者より11.1ptそれぞれ低かった。

2-2-2図 友人関係に対する満足度（保護処分歴別）



(2) 友人関係の不満の理由

Q3b 「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。
次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

1

気の合う友達がいらない

2

お互いに心を打ち明け合うことができない

3

自分よりも他の人と仲良くする

4

仲間はずれにされる

5

自分のすることに口出ししてくる

6

グループの中のまとまりが悪い

7

自分のことをわかってくれない

8

自分のいうことが通らない

9

つき合っても張り合いがなく自分が向上しない

10

自分に冷たい

11

好きでもないのにつき合わなければならない

12

その他 ()

ア 経年比較等

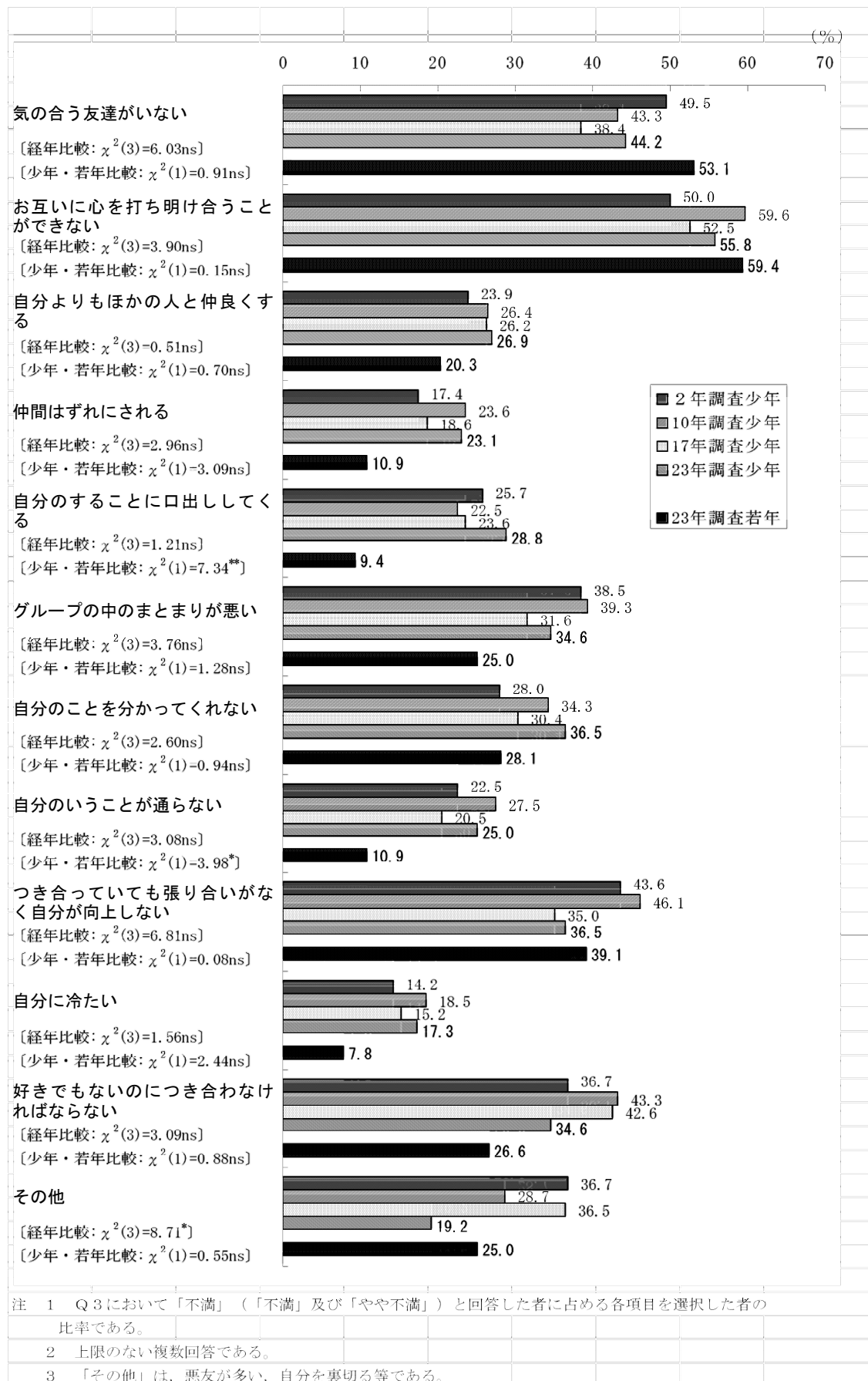
2-2-3図は、友人関係での不満の理由として、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を経年比較したものである。

過去3回の調査において選択率が最も高かった「お互いに心を打ち明け合うことができない」は、今回調査においても最も選択率が高かった（55.8%、17年調査に比して3.3pt上昇）。今回調査において2番目に選択率が高かったものは、17年調査において3位であった「気の合う友達がいらない」（44.2%、同5.8pt上昇）、3番目は同率で「自分のことをわかってくれない」（36.5%、同6.1pt上昇）及び「つき合っても張り合いがなく自分が向上しない」（36.5%、同1.6%上昇）であった。なお、17年調査において2位であった「好きでもないのにつき合わなければならない」（34.6%）は、8.0pt低下しているが、総じて、信頼感が薄く、建設的な関わりが少ない関係を不満としていることがうかがえる。

また、今回調査において、非行少年・若年犯罪者の別に見ると、非行少年において選択率が有意に高かったのは、「自分のすることに口出ししてくる」、「自分のいうことが通らない」の2項目であった。若年犯罪者において選択率が有意に高かった項目はなく、非行少年は、自己の言動を否定する友人への不満を有していることがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年においては、「仲間はずれにされる」の選択率が、女子において、男子より顕著に高く（男子19.1%、女子60.0%、 $\chi^2(1) = 4.25^*$ ）、若年犯罪者においては、「つき合っても張り合いがなく自分が向上しない」について、男性では43.1%の者が選択したが、女性で選択した者はいなかった（ $\chi^2(1) = 4.24^*$ ）。友人関係について、非行少年の女子においては、男子に比して、仲間集団への所属が、若年犯罪者の男性においては、女性に比して、自己の成長に有益であることが、それぞれ重要視されていると推察される。

2-2-3図 友人関係に対する不満の理由（経年比較等）



イ 保護処分歴別の比較

今回調査において、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、友人関係に対する不満の理由について、保護処分歴による有意差はなかった。

(3) 友人との関係

Q4 あなたと友達との関係について、次の中から当てはまるものを、いくつでも選び、番号の欄に○をつけてください。

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつかっている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何も言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互いに悪いところは悪いと言い合える
- 11 一緒にいるときでも別々のことをしている

ア 経年比較等

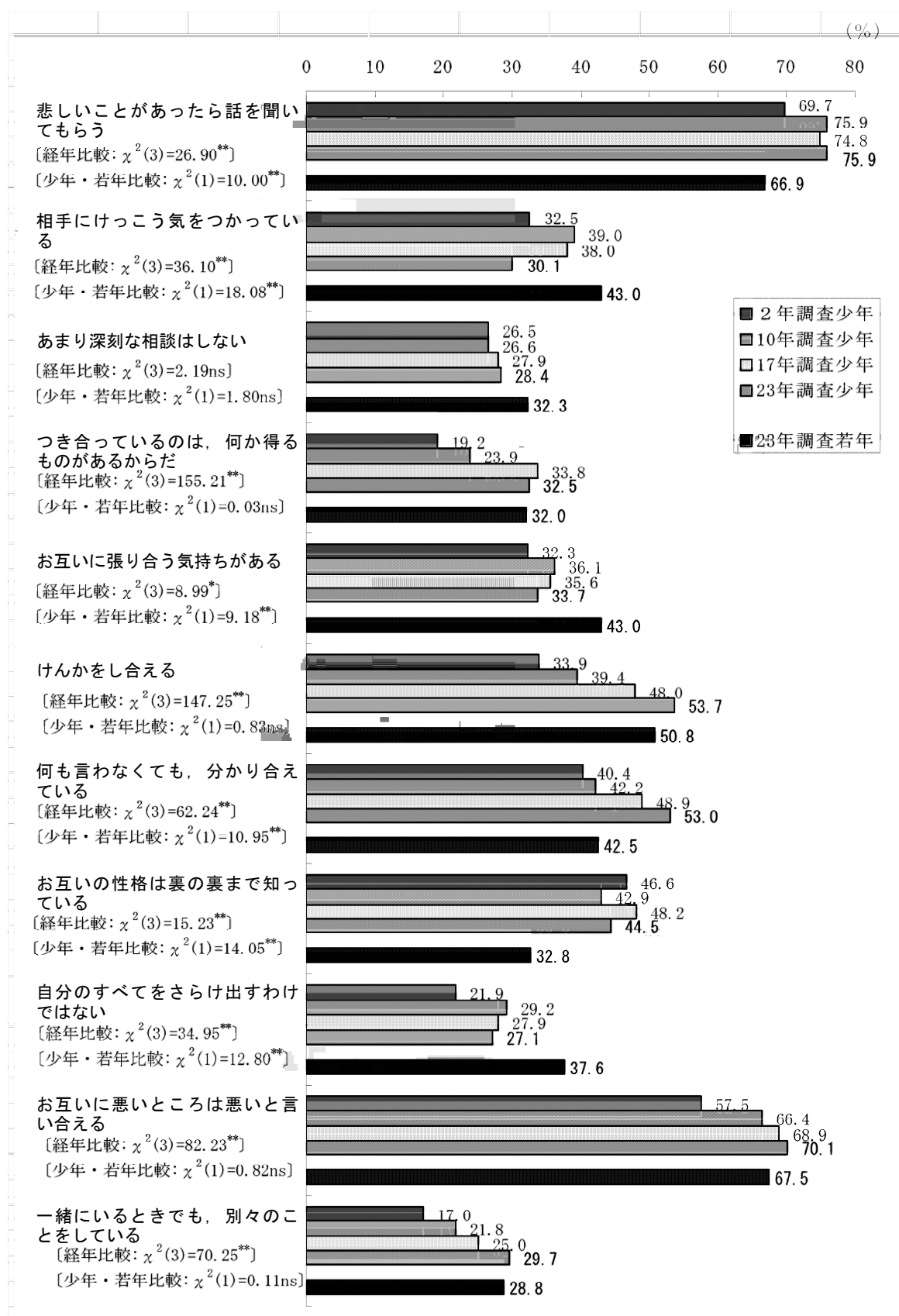
2-2-4図は、友人との関係で当てはまるものについて、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。今回調査において、選択率が最も高かったものは、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」（75.9%）であり、次いで「お互いに悪いところは悪いと言い合える」（70.1%）であった。これらの上位2位の項目は、17年調査における上位2位の項目とそれぞれ同じであり、今回調査で3位から5位に入っている項目についても、順位は異なるが、17年調査における3位から5位の項目と同じであり、友人との関係の認識に大きな変動はないことがうかがわれる。

なお、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の選択率を比較すると、若年犯罪者において、選択率が有意に高いものは、「相手にけっこう気をつかっている」（非行少年30.1%、若年犯罪者43.0%）、「お互いに張り合う気持ちがある」（同33.7%、43.0%）、「自分のすべてをさらけ出すわけではない」（同27.1%、37.6%）であり、逆に、非行少年において、選択率が有意に高いものは、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」（同75.9%、

66.9%),「何も言わなくても、分かり合えている」(同53.0%, 42.5%),「お互いの性格は裏の裏まで知っている」(同44.5%, 32.8%)であり、若年犯罪者においては、非行少年に比して、友人との間に心理的距離のある状態であることがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年において、女子が男子に比して有意に高かった項目は、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」(男子73.6%, 女子93.1%, $\chi^2(1) = 15.99^{**}$),「けんかをし合える」(同50.1%, 80.5%, $\chi^2(1) = 28.45^{**}$),「何も言わなくても、分かり合えている」(同51.0%, 67.8%, $\chi^2(1) = 8.69^{**}$),「お互いの性格は裏の裏まで知っている」(同43.1%, 55.2%, $\chi^2(1) = 4.54^*$),「お互いの悪いところは悪いと言い合える」(同68.7%, 80.5%, $\chi^2(1) = 5.03^*$),「一緒にいるときでも別々のことをしている」(同28.0%, 42.5%, $\chi^2(1) = 7.75^{**}$)であり、男子が女子に比して有意に高い項目はなかった。若年犯罪者においては、男性において、「相手にけっこう気をつかっている」(男性44.3%, 女性22.7%, $\chi^2(1) = 3.93^*$),「お互いに張り合う気持ちがある」(同45.1%, 9.1%, $\chi^2(1) = 10.98^{**}$)が、それぞれ女性に比して有意に高く、女性においては、男性に比して有意に高い項目はなかった。非行少年においては、女子は、男子に比して、本音で友人と付き合えていると感じていることがうかがわれ、若年犯罪者においては、男性は、女性に比して友人関係に距離を置いていることがうかがわれる。

2-2-4図 友人との関係（経年比較等）



注 1 各項目を選択した者の比率である。

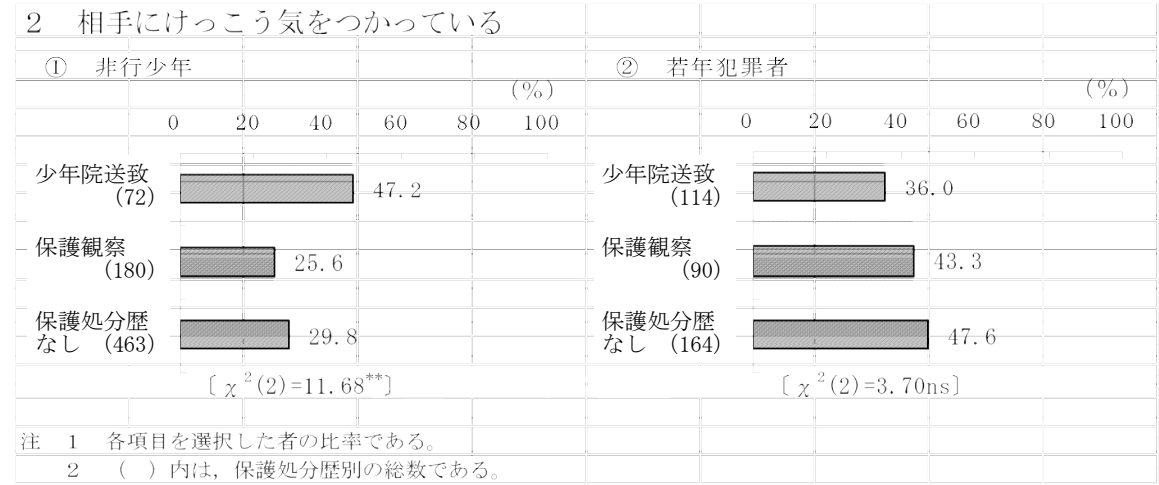
2 上限のない複数回答である。

イ 保護処分歴別の比較

2-2-5図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、友人との関係について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その選択率を見たものである。

若年犯罪者においては、保護処分歴による有意差は見られず、非行少年において、「相手にけっこう気をつけている」を選択した者の比率は、少年院送致歴を有する者において、有意に高かった。

2-2-5図 友人との関係（保護処分歴別）



(4) 大切な友人

Q5 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から、一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 いつもそばにいて相手になってくれる人
- 2 他の人にいえないことを聞いてくれる人
- 3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人
- 4 いろいろな情報を教えてくれる人
- 5 困ったときに助けてくれる人
- 6 興味や趣味が似ている人

ア 経年比較等

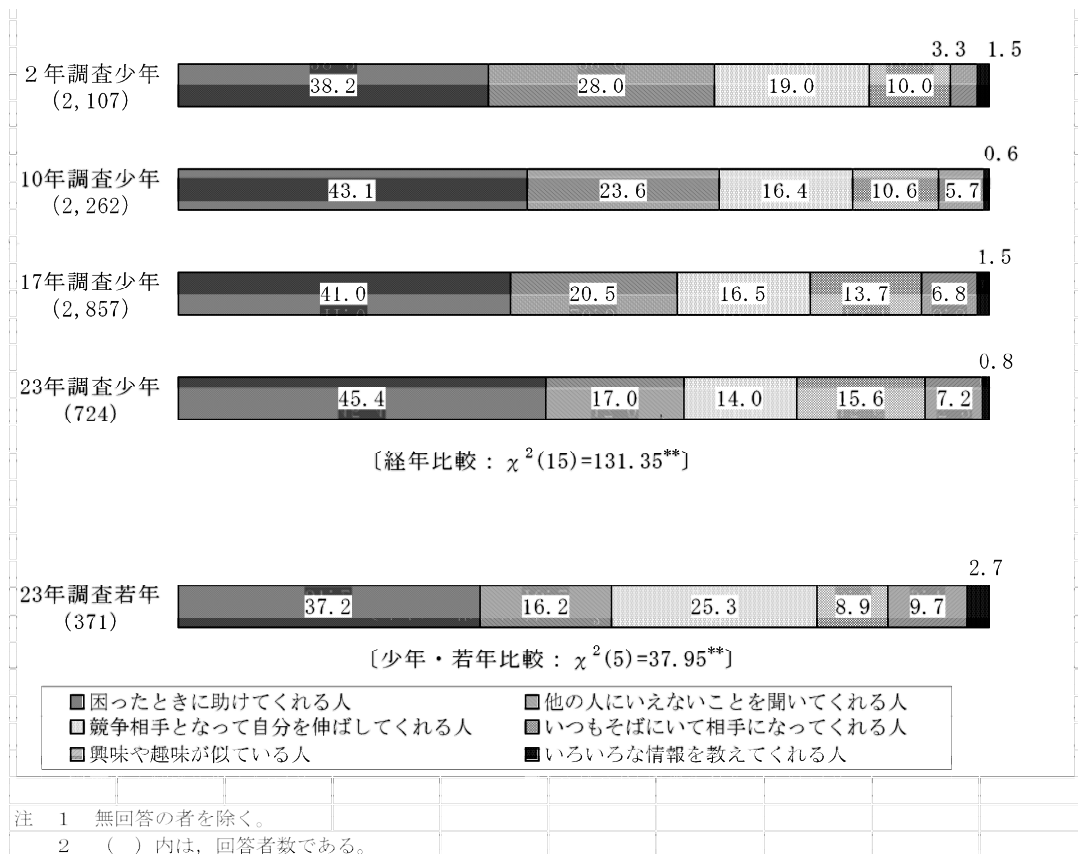
2-2-6図は、大切な友人に関する回答を経年比較したものである。いずれの調査においても、「困ったときに助けてくれる人」を選択した者の構成比が最も高く（今回調査において、45.4%）、次いで、「他の人にいえないことを聞いてくれる人」（同17.0%）で

あった。なお、これまで3位であった「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」に代わり、今回調査においては、「いつもそばにいて相手になってくれる人」が、3位（同15.6%）となった。また、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の構成比が上昇傾向にあり、「他の人に言えないことを聞いてくれる人」、「競争相手になって自分を伸ばしてくれる人」が低下傾向にある。総じて、友人関係において、相談相手や競争相手よりも、ともに過ごす時間が長く、楽しみを共有できる関係を求める傾向が強まっていることがうかがわれる。

また、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の選択状況を比較すると、若年犯罪者において、構成比が有意に高い項目は、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」（非行少年14.0%、若年犯罪者25.3%）、「いろいろな情報を教えてくれる人」（同0.8%、2.7%）であり、逆に、非行少年において、構成比が有意に高い項目は、「いつもそばにいて相手になってくれる人」（同15.6%、8.9%）、「困ったときに助けてくれる人」（同45.4%、37.2%）であった。

なお、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年においても、若年犯罪者においても、有意差はなかった（それぞれ、 $\chi^2(5) = 6.58ns$, $\chi^2(5) = 8.59ns$ ）。

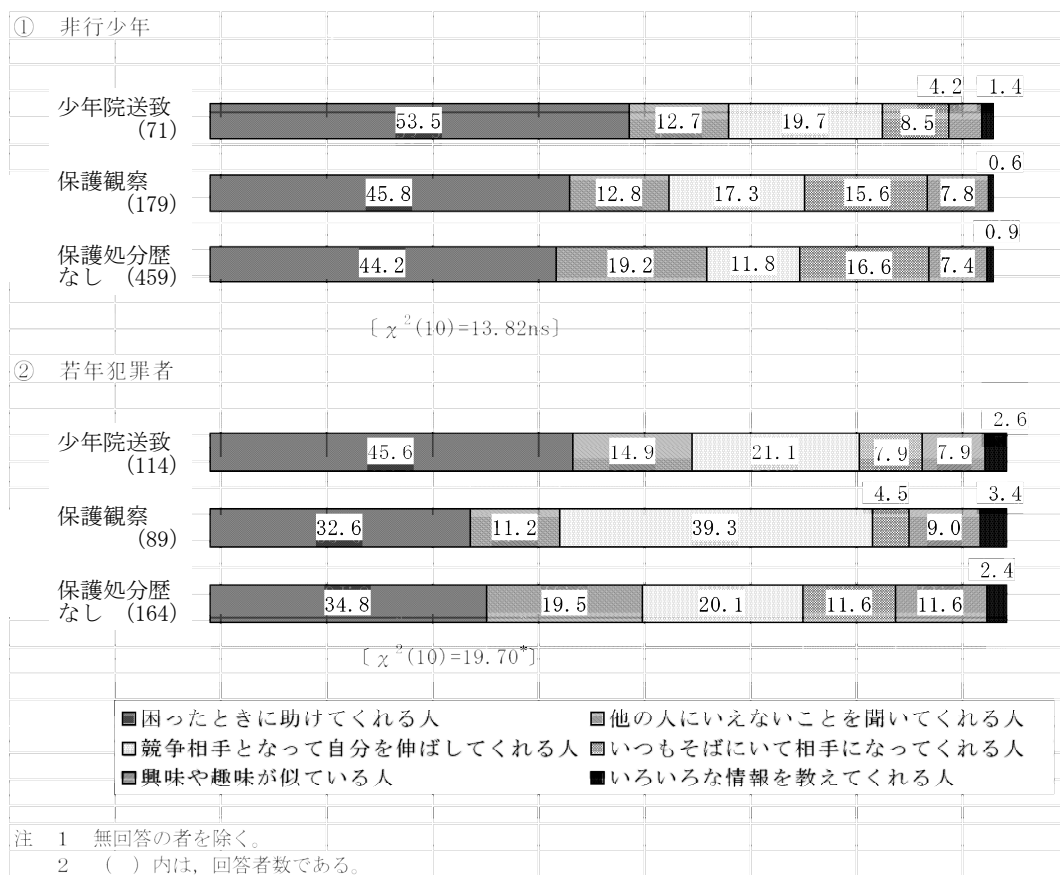
2-2-6図 大切な友人（経年比較等）



イ 保護処分歴別の比較

2-2-7図は、今回調査において、大切な友人の選択状況を、非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別に見たものである。若年犯罪者においては、保護観察歴を有する者について、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」の構成比が、少年院送致歴を有する者について、「困ったときに助けてくれる人」の構成比が、それぞれ有意に高かった。非行少年においては、保護処分歴による有意差は見られなかった。

2-2-7図 大切な友人（保護処分歴別）



3 周囲の人々との関係

Q6 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。
あてはまる人を何人でも選び、番号に○をつけてください。

- ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。
イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。
ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。
エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

（選択肢）

- | | | |
|--------------------|---------------------|---------|
| 1 父親 | 2 母親 | 3 兄弟姉妹 |
| 4 祖父母（おじいさん・おばあさん） | 5 親戚の人 | |
| 6 同性の友達・仲間 | 7 異性の友達・恋人・配偶者（夫や妻） | |
| 8 先輩 | 9 先生 | 10 近所の人 |
| 11 ネット上の友達・知り合い | 12 誰もいない | |
| 13 その他（ ） | | |

注：今回調査では、選択肢11を追加している。

（1）経年比較等

2-3-1図は、調査対象者が日常的に接している家族や友達など周囲の人々をどのように評価しているか、あるいは、どのような人物を自己の将来のモデル（同一視の対象）として見ているかなど、身近な人間関係に対する捉え方を見るため、ア～エの質問に当てはまる人物として各対象を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を経年比較したものである。

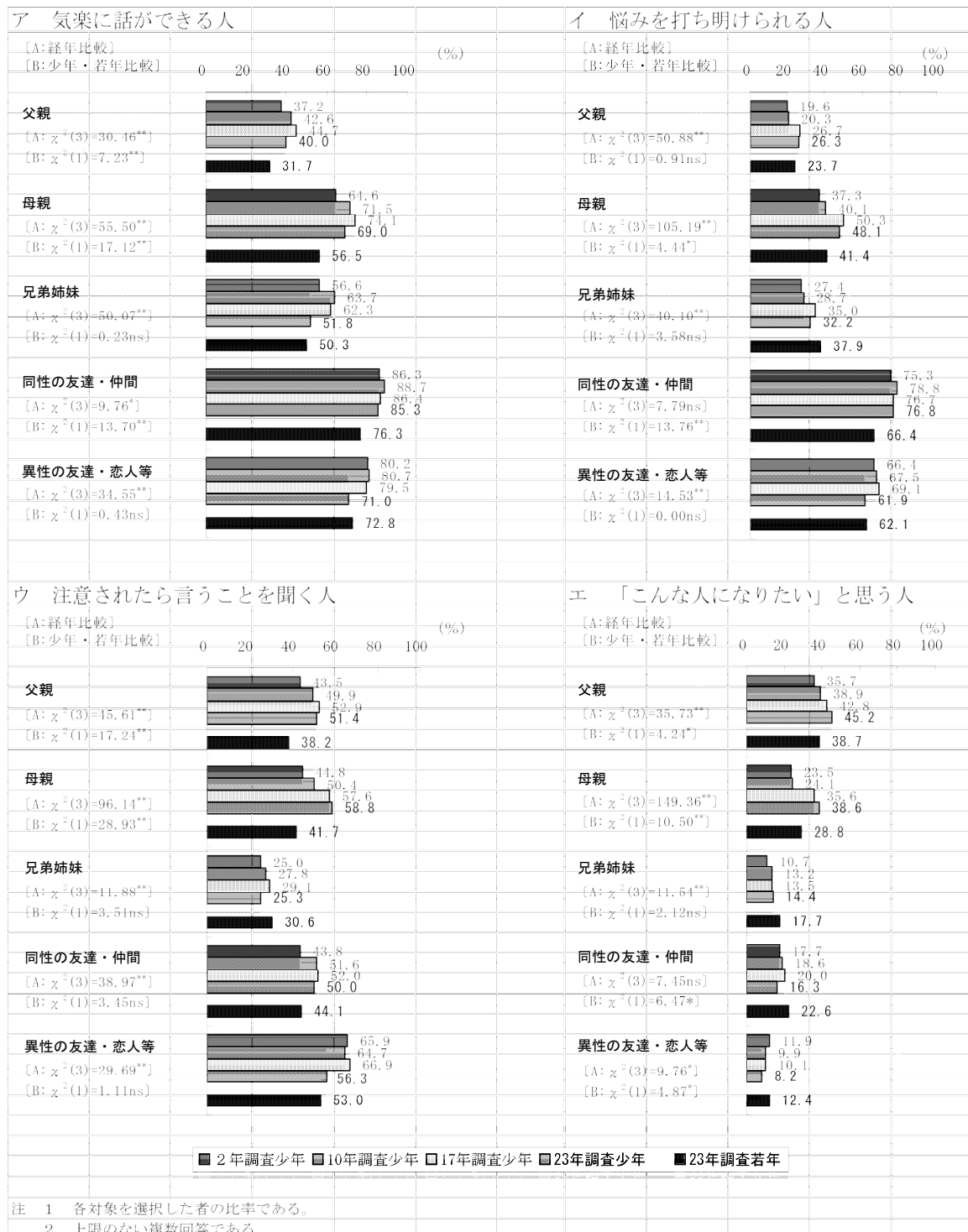
ア 気楽に話ができる人

「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」という質問に対する回答では、いずれの調査でも、同性の友達・仲間の選択率が最も高く、次いで、異性の友達・恋人等、母親、兄弟姉妹、父親の順となっている。前回の17年調査と比べ、兄弟姉妹、異性の友達・恋人等の選択率が5pt以上低下している。

また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別にこの質問への回答状況を見ると、選択対象の順序は両群で変わらないが、非行少年では、両親や同性の友達・仲間の選択率が若年犯罪者より有意に高い特徴が見られる。これには、両群の年齢差による生活基盤や対人関係の変化も影響していると推察される。

さらに、非行少年の回答を男女別に見ると、男子において、父親を選択する者（男子42.6%，女子20.7%， $\chi^2(1)=15.35^{**}$ ），母親を選択する者（男子70.6%，女子57.5%， $\chi^2(1)=6.19^*$ ）及び兄弟姉妹を選択する者（男子53.3%，女子40.2%， $\chi^2(1)=5.28^*$ ）の比率が有意に高いという特徴が見られ、女子において家族間のコミュニケーションに問題を抱える者が多い可能性が示唆される。

2-3-1図 周囲の人々との関係（経年比較等）



イ 悩みを打ち明けられる人

「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」という質問に対する回答では、いずれの調査でも、同性の友達・仲間の選択率が最も高く、次いで、異性の友達・恋人等、母親、兄弟姉妹、父親の順であった。17年調査と比べ選択率に5pt以上の差が見られた対象は、異性の友達・恋人等であり、今回は低下している。

次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別にこの質問への回答状況を見ると、両群で選択対象別の選択率の順序は変わらないが、非行少年において、母親や同性の友達・仲間の選択率が若年犯罪者より有意に高い。こうした傾向にも、両群の年齢差による生活基盤や対人関係の変化が影響していると推察される。

また、非行少年の回答を男女別に見ると、父親の選択率が男子で有意に高く（男子28.0%，女子13.8%， $\chi^2(1)=7.97^{**}$ ），同性の友達・仲間の選択率が女子で有意に高かった（男子75.6%，女子86.2%， $\chi^2(1)=4.86^{*}$ ）。

ウ 注意されたら言うことを聞く人

「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」という質問に対する回答は、前回までの調査では異性の友達・恋人等の選択率が最も高かったが、今回は母親が最も高くなっており、ここでも異性の友達・恋人等の低下傾向が大きい。

ただし、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別にこの質問への回答状況を見ると、若年犯罪者では、異性の友達・恋人等の選択率が最も高く、これに次いで、同性の友達・仲間、母親、父親、兄弟姉妹の順となっており、若年犯罪者では、加齢に伴い出身家庭の家族よりも同世代の仲間や交際相手等の影響が相対的に大きくなっていることがうかがえる。

なお、この質問に対する非行少年の回答を男女別で見ると、男子において父親の選択率が有意に高く（男子53.7%，女子34.5%， $\chi^2(1)=11.28^{**}$ ），男子の方が、父親を権威像として肯定的に捉える傾向にあることがうかがえる。

エ 「こんな人になりたい」と思う人

「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」という質問に対する回答では、いずれの調査においても父親の選択率が最も高く、父親や母親の選択率は経年で上昇傾向にある。

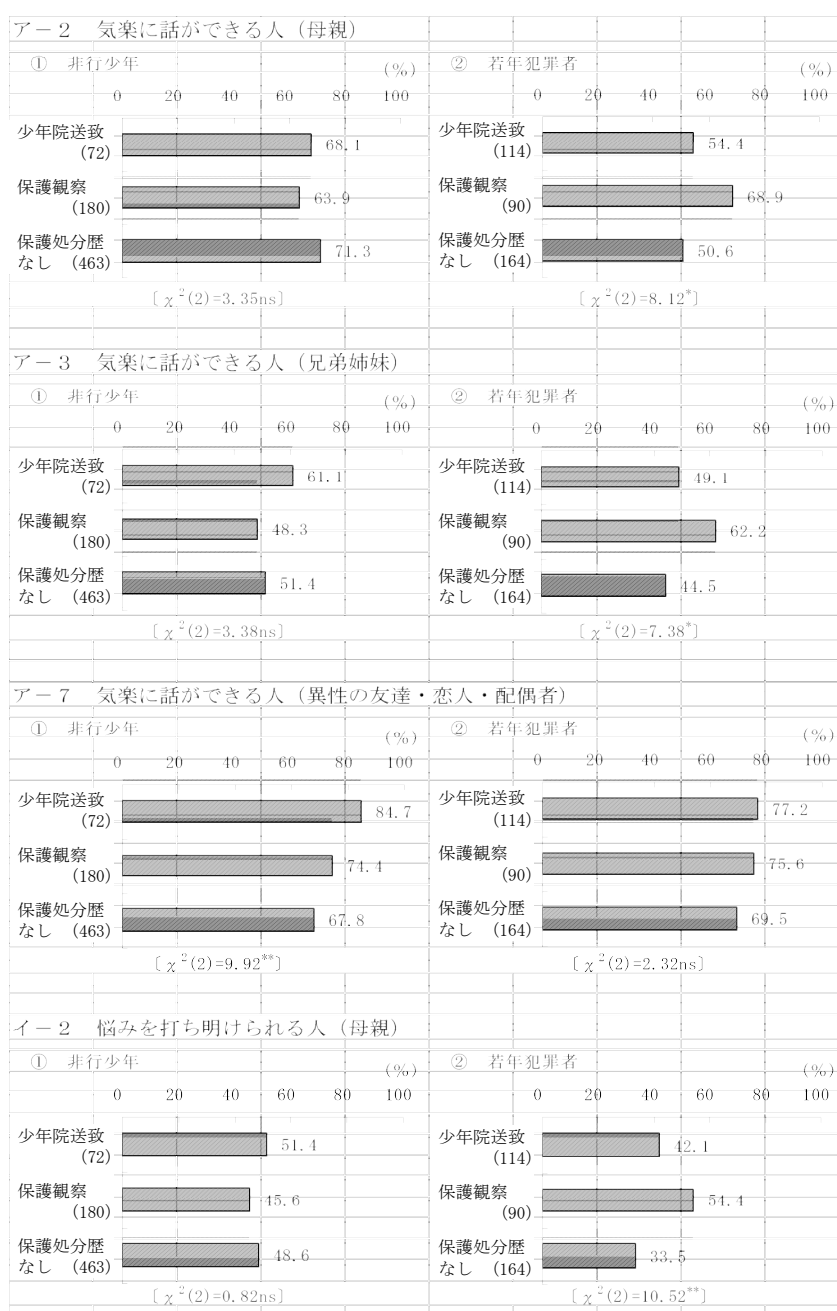
次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別にこの質問への回答状況を見ると、若年犯罪者では、選択される対象の選択率の高さの順序は非行少年と同じであり、若年犯罪者においても親が将来のモデル（同一視の対象）として最も重視されていることがうかがえる。ただし、若年犯罪者においては、父母の選択率が非行少年より有意に低く、同性の友達・仲間や異性の友達・恋人等の選択率が有意に高い傾向にあり、ここでも加齢に伴い出身家庭外の対人関係の影響が相対的に大きくなっていることがうかがえる。

さらに、非行少年の回答を男女別で見ると、男子において父親の選択率が有意に高く（男子49.0%，女子17.2%， $\chi^2(1)=31.18^{**}$ ），女子において母親の選択率が有意に高い（男子35.8%，女子59.8%， $\chi^2(1)=18.62^{**}$ ）傾向が認められ、同性の親が、肯定的な同一視のモデルと認知されていることがうかがえる。

（2）保護処分歴別の比較

2-3-2図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別にクロス集計を行い、有意差が認められたものを抜粋して示したものである。

2-3-2図 周囲の人々との関係（保護処分歴別）





非行少年で少年院送致歴を有する者では、気楽に話ができる対象として、異性の友達・恋人等を選択した者の比率が有意に高く（アー 7 ①参照）、注意されたら言うことを聞く対象としても、異性の友達・恋人等が有意に高く選択される傾向にあり（ウー 7 ①参照）、さらに、こんな人になりたいと選択される対象も異性の友達・恋人等を選択する者が他の保護処分歴区分の者より有意に高い（エー 7 ①参照）。総じて、少年院送致歴を有する者の場合、家庭外の異性の友達・恋人等をよりどころとする傾向が高いことがうかがえる。

一方、若年犯罪者を保護処分歴別に見ると、保護処分歴なしの者においては、注意されたら言うことを聞く対象として父親を選択する者の比率が有意に高い傾向が見られ（ウー 1 ②参照）、少年時に保護処分歴がなく経過した若年犯罪者では、他の区分の者に比べ父親を権威像として認識してきた者が比較的多いことがうかがえる。また、少年時に保護観察歴を有する者では、悩みを打ち明けられる対象として母親を選択する者の比率（イー 2 ②参照）が有意に高く、また、気楽に話ができる対象として母親（アー 2 ②参照）や兄弟姉妹（アー 3 ②参照）を選択する者の比率が有意に高いことに加え、注意されたら言うことをきく対象としても母親（ウー 2 ②参照）や兄弟姉妹（ウー 3 ②参照）を選択する者の比率が有意に高い。すなわち、少年時に保護観察歴を有する者では、身近な家族が比較的準拠枠となる存在として認識されてきたことがうかがえる。他方、少年院送致歴を有する者では、注意をされて言うことを聞く対象として、父母（ウー 1, 2 ②参照）や兄弟姉妹（ウー 3 ②参照）を選択する者の比率が有意に低く、親など身近な家族が準拠枠として認知されない傾向が比較的高いことがうかがえる。

4 学校生活に対する意識

Q7 あなたの中学時代や高校時代の学校生活についてうかがいます。

（高校に入ったことのある人はあなたの高校生活について教えてください。それ以外の人は、あなたの中学校生活について教えてください。）

あなたがその学校の生徒や学生だったとき、次のこと（ア～キ）がどれくらいありましたか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 学校に行くのがいやだった
- イ 勉強が分からないことが多かった
- ウ クラブ活動などうちこめるものがあった
- エ 先生から理解されていた
- オ 同級生から理解されていた
- カ 学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた
- キ 周りから悪く思われていた

（選択肢）

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|
| 1 | とても | 2 | やや | 3 | あまり | 4 | まったく |
| | あてはまる | | あてはまる | | あてはまらない | | あてはまらない |

（1）経年比較等

本質問中、アは17年調査と同じ項目を使用している（ただし、今回は中学校生活に限定した質問であり、今回は中学校又は高校の直近の学校生活経験を質問しているので、厳密な比較はできない。）。参考までに、今回調査と17年調査を比較すると、「学校に行くのがいやだった」に「あてはまる」（「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）は、平成17年が47.0%、今回が46.4%であり、該当率に有意差はない（ $\chi^2(1)=0.09ns$ ）。前回も今回も半数近くの者が学校生活に対して否定的な態度を有している。

次に、非行少年と若年犯罪者を比較する。非行少年では、8割を超える者が「勉強が分からないことが多かった」に該当しており、「学校に行くのがいやだった」の該当率も上述のとおり半数近くに及ぶ。また、学校内の対人関係では、「同級生から理解されていた」に対する肯定的回答は7割を超え、同世代の者との関係は比較的良好な印象を持っていることがうかがえるが、「周りから悪く思われていた」の該当率も5割程度に及んでおり、学校生活に対する不適応感を持つ者や対人関係に十分な肯定感が持てていなかった者が多いことがうかがえる。一方、若年犯罪者では、「勉強が分からないことが多かった」の該当

率が非行少年より有意に低い、学校内の対人関係に関する項目では、先生や同級生から理解されていたとする者の比率は非行少年より有意に低く、若年犯罪者の方が、在学時の対人的な疎外感が大きく、否定的な記憶となっていて残っていることがうかがえる。

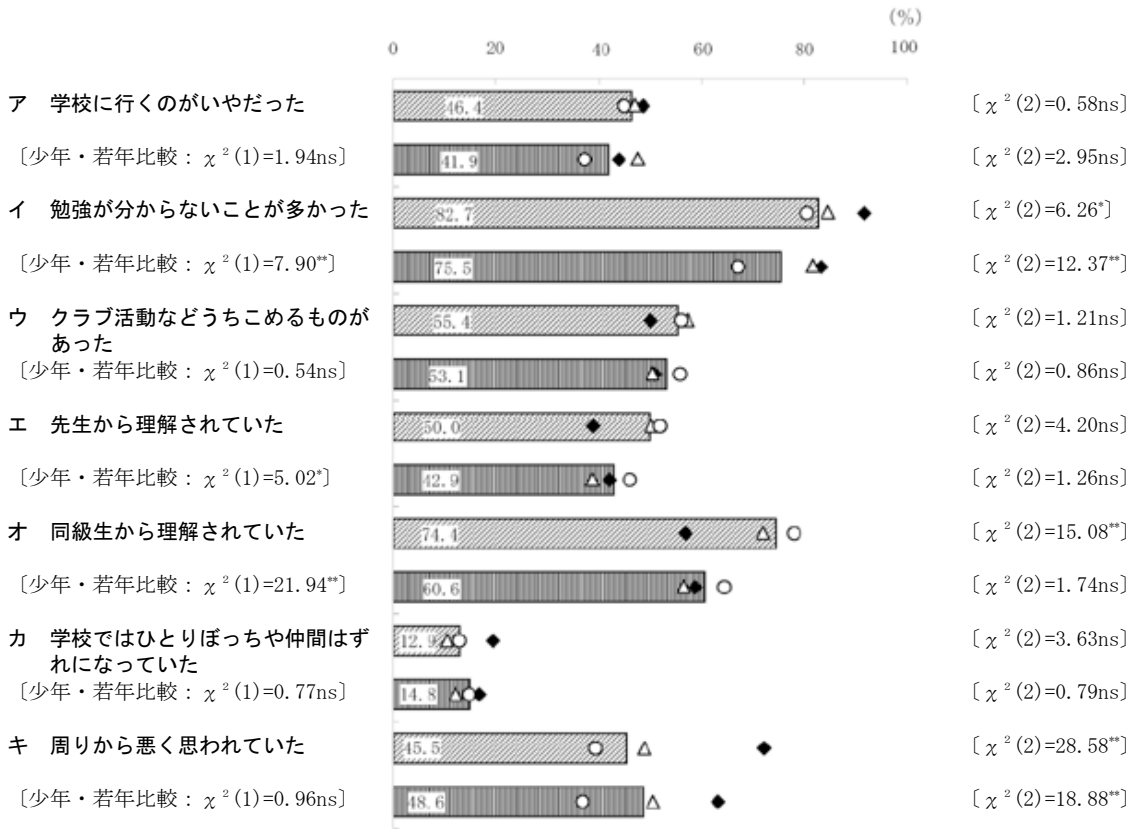
また、非行少年について男女別の回答状況を見ると、女子においては、「学校に行くのがいやだった」の該当率が有意に高く（男子43.1%，女子70.1%， $\chi^2(1)=22.44^{**}$ ），「クラブ活動などうちこめるものがあつた」の該当率が有意に低い（男子58.3%，女子34.5%， $\chi^2(1)=17.56^{**}$ ）。また、「学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた」の該当率は有意に高く（男子11.2%，女子25.3%， $\chi^2(1)=13.46^{**}$ ），女子では、学校生活に対し不適応感を持つ者の割合が、男子に比べ比較的高いことがうかがえる。

（2）保護処分歴別の比較

本質問中、イ～キまでの項目は、今回新設したものであり、**2-4-1図**は、アに対する回答を含め、非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別の該当率を示したものである。

非行少年の場合、保護処分歴による有意差が認められた項目は、イの「勉強が分からないことが多かった」（少年院送致歴を有する者では9割を超える）、オの「同級生から理解されていた」（少年院送致歴を有する者では該当率が6割にも満たない）、キの「周りから悪く思われていた」（少年院送致歴を有する者では7割を超える）であつた。つまり、非行少年を保護処分歴別に見ると、保護処分歴のない者の学校適応に関する自己評価は比較的良好であるのに対し、少年院送致歴を有する者では、学業についていけない一方で、対人的な疎外感も大きかったと自己評価する者が多く、総じて学校生活に対する不適応感が大きかったことがうかがえる。

2-4-1 図 中学生活・高校生活（保護処分歴別）



■ 非行少年 ■ 若年犯罪者		◆少年院送致 △保護観察 ○保護処分歴なし	
注 1	「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した比率である。		
2	無回答の者を除く。		
3	χ^2 検定結果のうち、右側は保護処分歴別の検定結果を示している。		

一方、若年犯罪者においては、イの「勉強が分からないことが多かった」において、少年院送致歴を有する者の該当率が8割を超え、保護処分歴なしの者より有意に高いこと、キの「周りから悪く思われていた」についても、少年院送致歴を有する者は6割を超え、対人的な疎外感も比較的大きいという特徴があり、少年期に非行が比較的進行していたと見られる若年犯罪者においては、学校不適応が比較的大きな影響を与えてきたことがうかがえる。

5 就労に対する意識

Q8 働くことや仕事について、あなたの考えをうかがいます。

次の中から、自分にもっともあてはまる番号をひとつ選んで番号を記入してください。

- ア 学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から自立すべきだ
- イ 汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事がしたい
- ウ 自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい
- エ フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない
- オ 仕事や就職に役立つ資格や免許は苦勞しても取りたい
- カ 職場の人間関係は面倒くさい
- キ 努力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ
- ク 仕事について夢や目標を持っている

(選択肢)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|----------|---|----------|---|--------|
| 1 | とても | 2 | どちらかといえば | 3 | どちらかといえば | 4 | ぜんぜん |
| | そう思う | | そう思う | | そう思わない | | そう思わない |

本質問は、就労に対する意識を検討するため、今回新設したものであり、2-5-1図は、各項目に対して肯定的回答（「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ。）をした者の比率（以下この項において「賛成率」という。）を、非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別に見たものである。

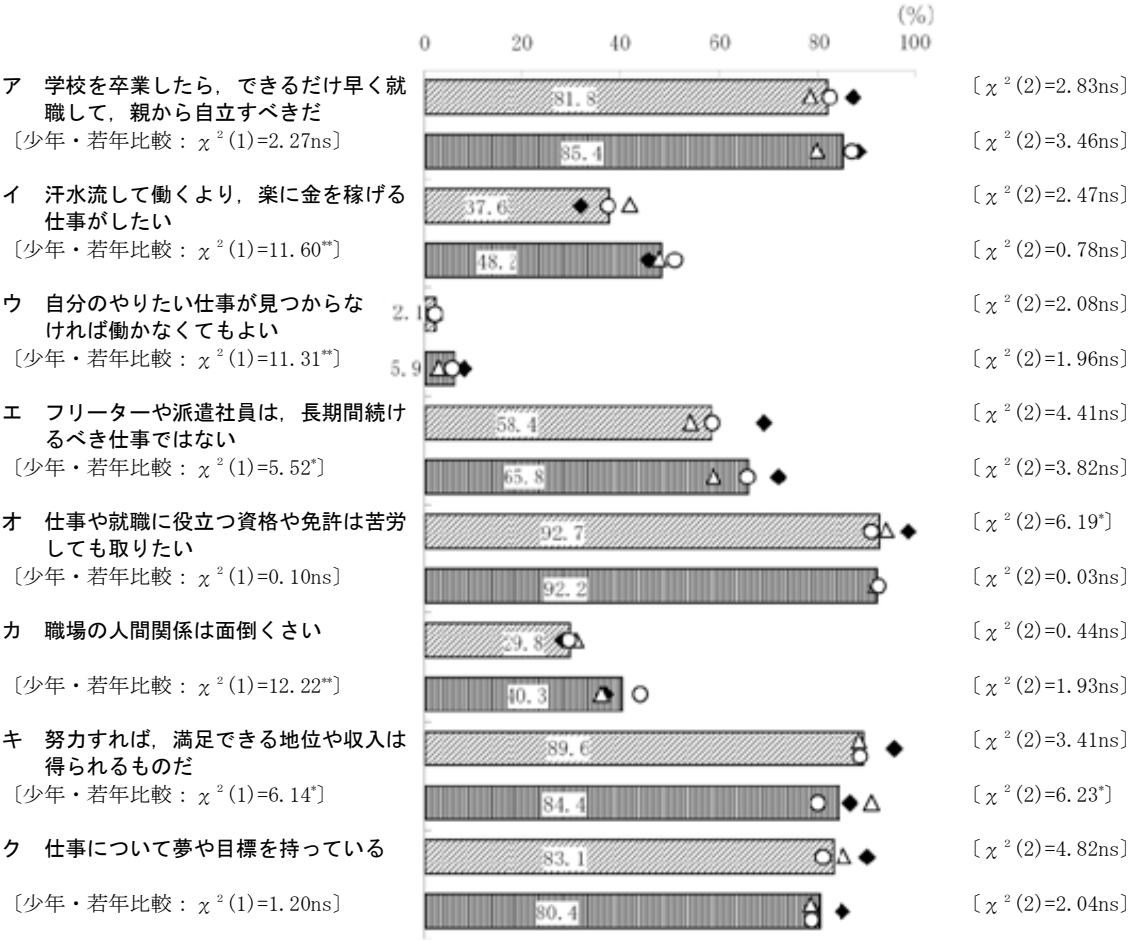
非行少年では、学校卒業後の就職や自立について、約8割を超える者が「早く就職して、親から自立すべきだ」という項目に肯定的な態度を示している。また、「仕事について夢や目標を持っている」、「努力すれば、地位や収入は得られる」、「資格や免許は苦勞しても取りたい」にも8割から9割に及ぶ高い割合で肯定的な反応が見られる。総じて、非行少年では、就労を通じた社会的自立については前向きの意欲を持つ者が多いといえる。ただ

し、「楽に稼げる仕事がしたい」という安直な志向を示す者が約4割に及び、「職場の人間関係は面倒くさい」と感じる者も3割程度存在する。

また、非行少年について、男女別に各項目への賛成率を見ると、「早く就職して、自立すべきだ」（男子80.6%、女子90.8%、 $\chi^2(1)=5.34^*$ ）及び「職場の人間関係は面倒くさい」（男子27.3%、女子48.8%、 $\chi^2(1)=16.10^{**}$ ）に有意差が認められ、女子の方が自立志向が高い反面、職場の人間関係に困難を感じる者も多いことが認められる。

なお、非行少年の各項目への賛成率を保護処分歴別に見ると、「仕事や就職に役立つ資格や免許は苦労しても取りたい」のみに有意差が認められ（ $\chi^2(1)=6.19^*$ ）、少年院送致経験のある者では、ほぼ全員に近い者が資格や免許の取得意欲を示しており、資格・免許の取得をより切実な課題として認識していることがうかがえる。

2-5-1図 就労に対する意識（保護処分歴別）



<div><div></div> 非行少年</div> <div><div></div> 若年犯罪者</div>	<div><div></div> 少年院送致</div> <div><div></div> 保護観察</div> <div><div></div> 保護処分歴なし</div>
注 1 「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した比率である。	
2 無回答の者を除く。	
3 χ^2 検定結果のうち、右側は保護処分歴別の検定結果を示している。	

一方、若年犯罪者では、非行少年と同様に、就労を通じた自立に8割を超える者が肯定的な態度を示している。不安定な雇用に否定的な態度を示す者の比率（「フリーターや派遣社員は続けるべきではない」への賛成率）は、非行少年より有意に高く、安定的雇用を志向する者の割合が高い。しかし、その一方で、「楽に稼げる仕事がしたい」を肯定する者が半数近くに及び、「職場の人間関係は面倒くさい」への賛成率も4割程度、「自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい」への賛成率も、絶対数は少ないものの非行少年よりも有意に高く、仕事に対する意欲や対人関係、職業観に問題を抱える者も少なくないことがうかがえる。

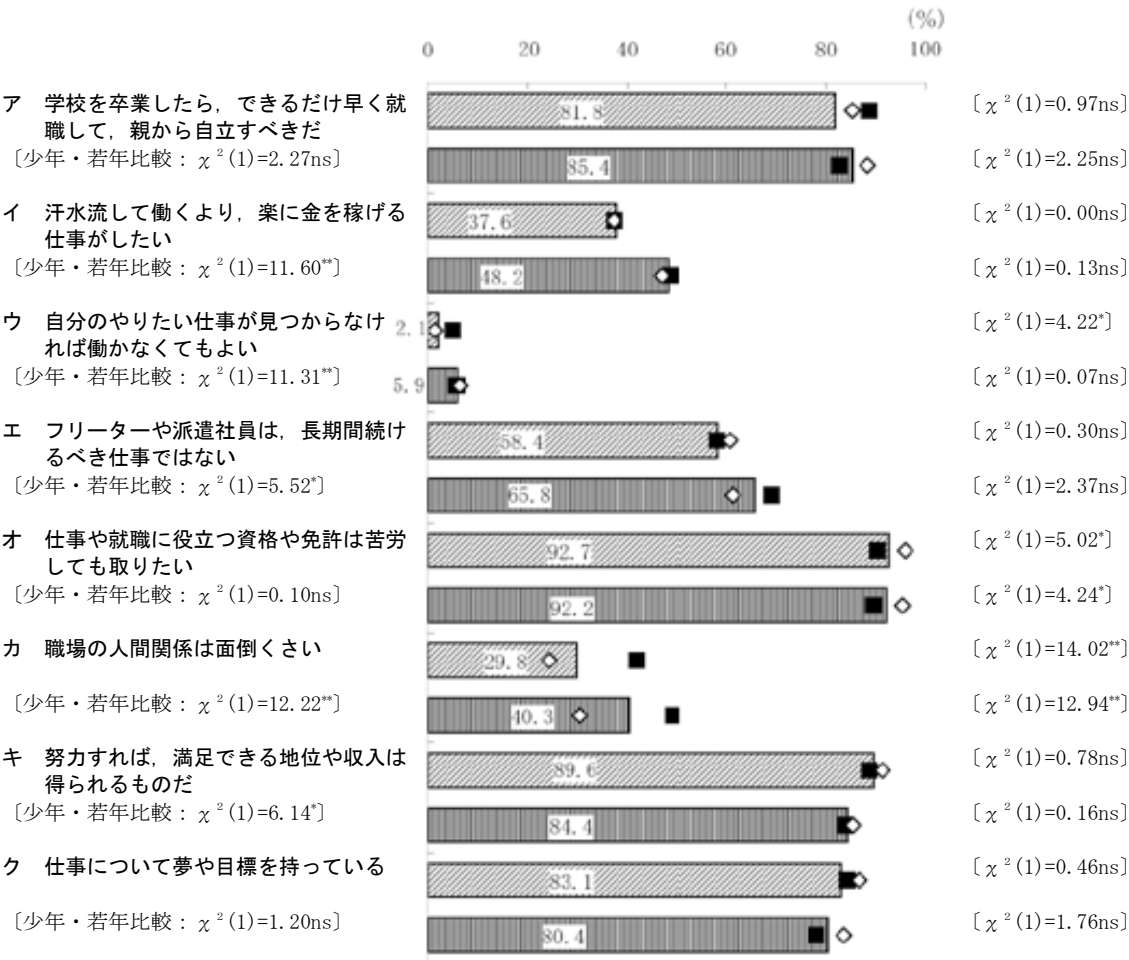
また、若年犯罪者を男女別に見ると、「汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事がしたい」にのみ有意差が認められ（男性49.6%，女性27.3%， $\chi^2(1)=4.12^*$ ），女性に比べ男性においては安直な職業観を有する者が多い特徴が見られる¹。




さらに、若年犯罪者について、保護処分歴別の賛成率の差を見ると、「努力すれば満足できる地位や収入が得られるものだ」にのみ有意差が認められ（ $\chi^2(1)=6.23^*$ ），保護処分歴のない若年犯罪者の賛成率が低く、これらの者では、就労を通じた社会的達成に消極的な態度を示す者が比較的多いことがうかがわれる。

2-5-2図は、非行少年・若年犯罪者別、非行・犯行時の有職・無職の別に、各項目への賛成率を見たものである。非行・犯行時に無職であった者においては、「職場の人間関係が面倒くさい」に肯定的な回答を示す者の比率が4割から5割程度に及び（非行少年41.8%，若年犯罪者49.0%），有職であった者（非行少年24.3%，若年犯罪者30.4%）の賛成率に比べて際立って高くなっており、無職者では、単に仕事を得られていないだけでなく、対人関係に忌避的であるなど、対人面での課題を抱える者が少なくないこともうかがえる。

1 若年犯罪者中、女性の調査対象者数が少ないので、その点に留意する必要がある。

2－5－2図 就労に対する意識（就労状況別）



 非行少年		 若年犯罪者		 無職		 有職	
注	1 「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合計した比率である。						
	2 学生・生徒、家事従事者及び無回答の者を除く。						
	3 χ^2 検定結果のうち、右側は保護処分歴別の検定結果を示している。						

6 地域社会に対する意識

Q9 あなたの住んでいた地域とのかかわりで、次のことがどれくらいあてはまりますか。

次の中から、自分にもっともあてはまる番号をひとつ選んで記入してください。

- ア 地域のお祭りなど行事にはよく参加した
- イ 地域のスポーツ活動によく参加した
- ウ 公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した
- エ 地域の人には、困ったときに力になってくれる
- オ 地域の人々が喜ぶようなことをしてあげたい

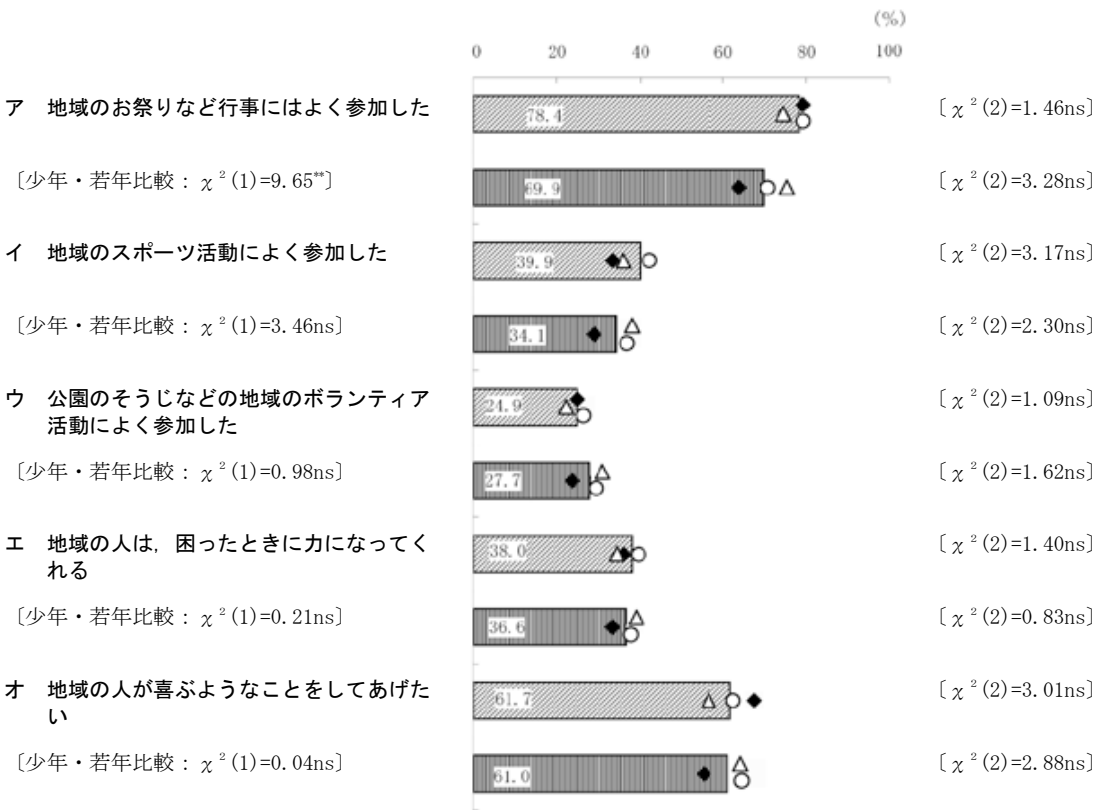
(選択肢)



- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|
| 1 | とても | 2 | やや | 3 | やや | 4 | まったく |
| | あてはまる | | あてはまる | | あてはまらない | | あてはまらない |

2-6-1図は、地域社会との関係等についての質問に対し、「とてもあてはまる」又は「ややあてはまる」と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）を非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別に示したものである。地域参加体験の程度（ア～ウ）は、非行少年及び若年犯罪者の双方でほぼ同様な傾向が示されており、地域の祭り等の行事には、非行少年の約8割、若年犯罪者の約7割の者が、参加体験があると回答しており比較的参加経験が多い。これに対し、地域のスポーツ活動への参加は3割台、ボランティア活動への参加は2割台であり、その経験者は少なくなっている。一方、エの「地域の人には、困ったときに力になってくれる」への該当率（地域からの人的支援に信頼を示す者の割合）は、約4割にとどまるが、オの「地域の人々が喜ぶようなことをしてあげたい」への該当率（地域貢献に意欲的態度を示す者の割合）は約6割に及んでいる。

これらの回答状況を非行少年・若年犯罪者別に比較すると、非行少年の方が若年犯罪者よりも、祭りなどの行事への参加に関する該当率が有意に高いことが認められる。また、非行少年を男女別に見ると、地域のスポーツ活動への参加に関する該当率が女子において男子より有意に低く（男子41.3%、女子29.9%、 $\chi^2(1)=4.13^*$ ）、オの地域貢献態度も女子が男子より有意に低い（男子63.0%、女子51.7%、 $\chi^2(1)=4.12^*$ ）といった特徴が認められた。各項目に対する保護処分歴別の該当率には有意差は見られなかった。

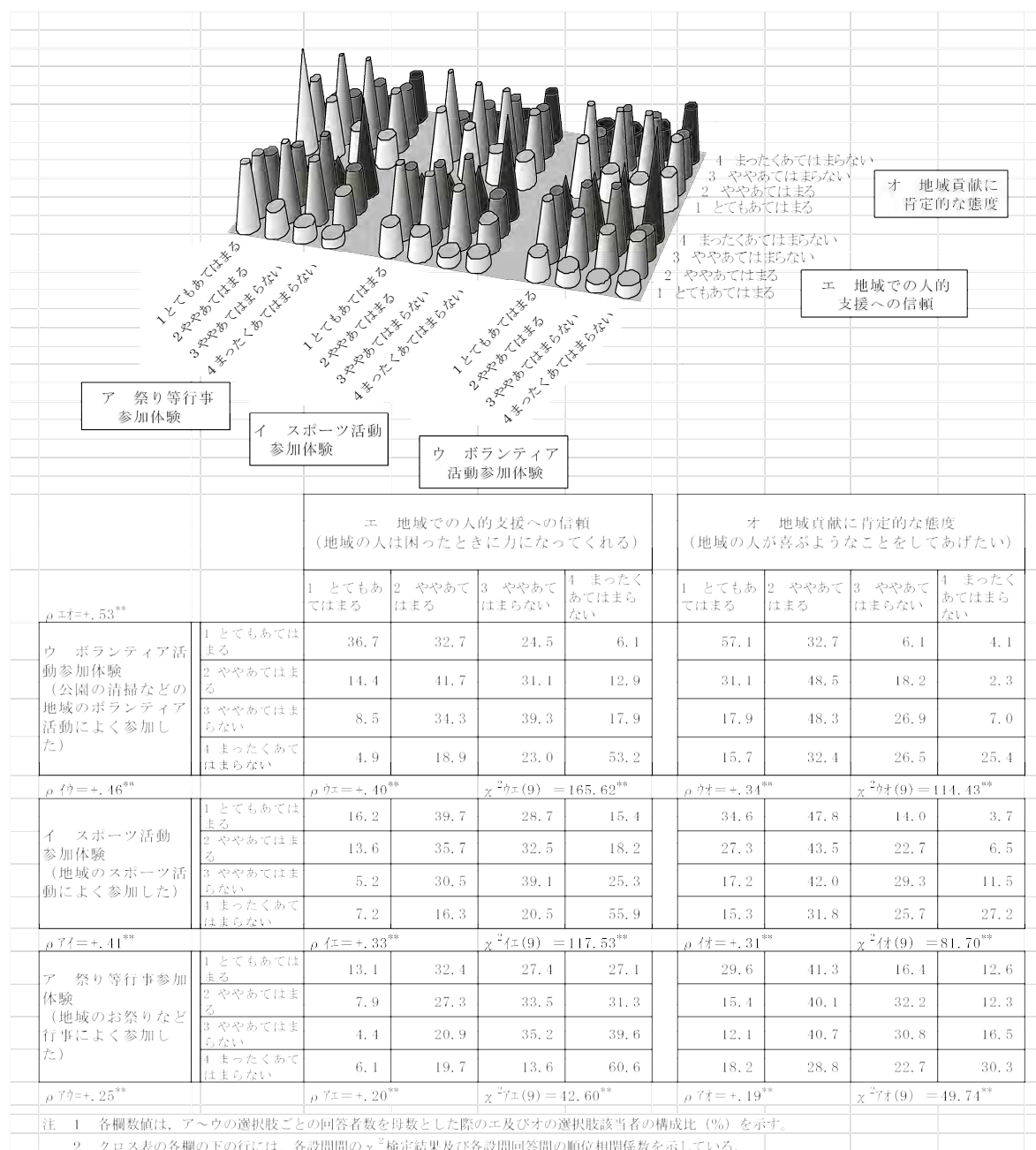
2-6-1図 地域社会との関係（保護処分歴別）



<div> 非行少年</div> <div> 若年犯罪者</div>		<div>◆少年院送致</div> <div>△保護観察</div> <div>○保護処分歴なし</div>	
注	1	「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した比率である。	
	2	無回答の者を除く。	
	3	χ^2 検定結果のうち、右側は保護処分歴別の検定結果を示している。	

2-6-2図は、非行少年について、地域活動参加体験（ア～ウ）と地域からの人的支援への信頼（エ）及び地域への貢献態度（オ）の関連性を見たものである。各質問間の自己評価には、いずれの組合せについても関連性は弱いが統計的に有意な正の相関があり、地域活動への参加体験が高いと回答した者は、地域からの人的支援への信頼や地域への貢献態度も肯定的な傾向を示している（若年犯罪者についても同様な傾向が認められた。）。

2-6-2図 地域活動参加体験と地域からの人的支援への信頼・地域貢献意欲の関連性（非行少年）



本質問中、ア～ウは、過去の地域活動参加体験に関する主観的評価であり、エは地域からの人的支援への信頼に関する現在の信条、オは現在の地域貢献に対する態度を示す質問項目と考えられることから、過去の体験ア～ウと現在の信条エ及び現在の態度オとの関連性をここで検討する。2-6-3表①は、非行少年及び若年犯罪者の調査サンプル全体について、過去の地域活動参加体験ア～ウに関する主観的評価（各項目への回答を肯定的方向の回答と否定的方向の回答とに折半し、2値データ化したもの）を説明変数とし、地域からの人的支援に関する現在の信条エに関する主観的評価（同じく2値データ化したもの）を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果である。この結果によれば、各種の地域活動参加の体験は、いずれの参加体験も地域からの人的援助に関する信頼を統計的に有意に高めるが、その効果は、他の条件が一定の場合、オッズ比（Exp(B)）から見て、祭りなどへの行事の参加よりも、より能動的な参加が求められるスポーツ活動や、地域貢献への直接的な関連性が高いと考えられる地域のボランティア活動の方が、地域からの人的援助に関する信頼をより大きく高める方向に影響することがうかがえる。

2-6-3表① 地域からの人的支援信頼（エ）を目的変数とし、地域活動参加体験（ア～ウ）を説明変数とする2項ロジスティック回帰分析結果

	B	標準誤差	Wald	自由度	p	Exp(B)
ア 祭り等参加体験	0.41	0.17	5.65	1	0.02	1.51
イ スポーツ参加体験	0.71	0.15	23.79	1	0.00	2.03
ウ ボランティア参加体験	1.07	0.15	47.78	1	0.00	2.90
定数	-2.96	0.33	82.58	1	0.00	0.05

注 非行少年及び若年犯罪者の全てのデータを使用した強制投入法による2項ロジスティック回帰分析結果である。

2-6-3表②は、①と同様に、地域貢献に対する態度オを目的変数とし、地域参加体験ア～ウ及び地域の人的支援に対する信頼エを説明変数としてロジスティック回帰分析を行った結果である。地域貢献に対する態度には、他の条件が一定の場合、オッズ比（Exp(B)）から見て、地域の祭り等の行事参加体験は関連せず、スポーツ活動や地域ボランティア活動のようなより能動的な参加が求められる体験が、地域貢献に対する肯定的態度により大きな影響を与え、地域からの人的支援に対する信頼がある場合に、地域貢献の態度はより大きく肯定的な方向に傾くことがうかがえる。

2-6-3表② 地域貢献態度(オ)を目的変数とし、地域活動参加体験(ア～ウ)及び地域からの人的支援信頼(エ)を説明変数とする2項ロジスティック回帰分析結果

	B	標準誤差	Wald	自由度	p	Exp(B)
ア 祭り等参加体験	0.15	0.17	0.84	1	0.36	1.16
イ スポーツ参加体験	0.52	0.17	9.71	1	0.00	1.69
ウ ボランティア参加体験	1.00	0.20	24.04	1	0.00	2.72
エ 地域の人的支援信頼	2.13	0.19	132.65	1	0.00	8.39
定数	-6.97	0.51	183.91	1	0.00	0.00

注 非行少年及び若年犯罪者の全てのデータを使用した強制投入法による2項ロジスティック回帰分析結果である。

7 社会に対する意識

Q10 あなたは、今の社会についてどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

Q10b 上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ教えてください。

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 社会のしくみがきまりきっている
- 2 若者の意見が反映されない
- 3 正しいと思うことが通らない
- 4 国民の意見がまとまっていない
- 5 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる
- 6 まじめな者がむくわれない
- 7 人々の考え方や行動が乱れている
- 8 その他 ()

(1) 社会に対する満足度

ア 経年比較等

2-7-1図は、現在の社会に対する満足度を見たものである。経年比較で見ると、社会に対して「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）と回答した者の構成比は、非行少年ではおおむね4割弱の水準で推移しており、経年における有意差は認められず、社会に対する満足度に大きな変化は生じていない。

また、非行少年と若年犯罪者を比較すると、若年犯罪者では、社会に対して「満足」と

回答した者の構成比は非行少年の半分以下で有意に低く、現在の社会が不満（「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。）と回答した者の構成比は4割程度で、非行少年より有意に高い。

さらに、男女別で比較すると、非行少年においては、女子の方が現在の社会に対して「満足」と回答した者の構成比が有意に低いことが認められたが（男子38.9%，女子24.4%， $\chi^2(2)=6.83^{**}$ ），若年犯罪者においては、男女間に有意差は認められなかった（男性14.9%，女性27.3%， $\chi^2(2)=2.78^{ns}$ ）²。

2-7-1図 社会に対する満足度（経年比較等）

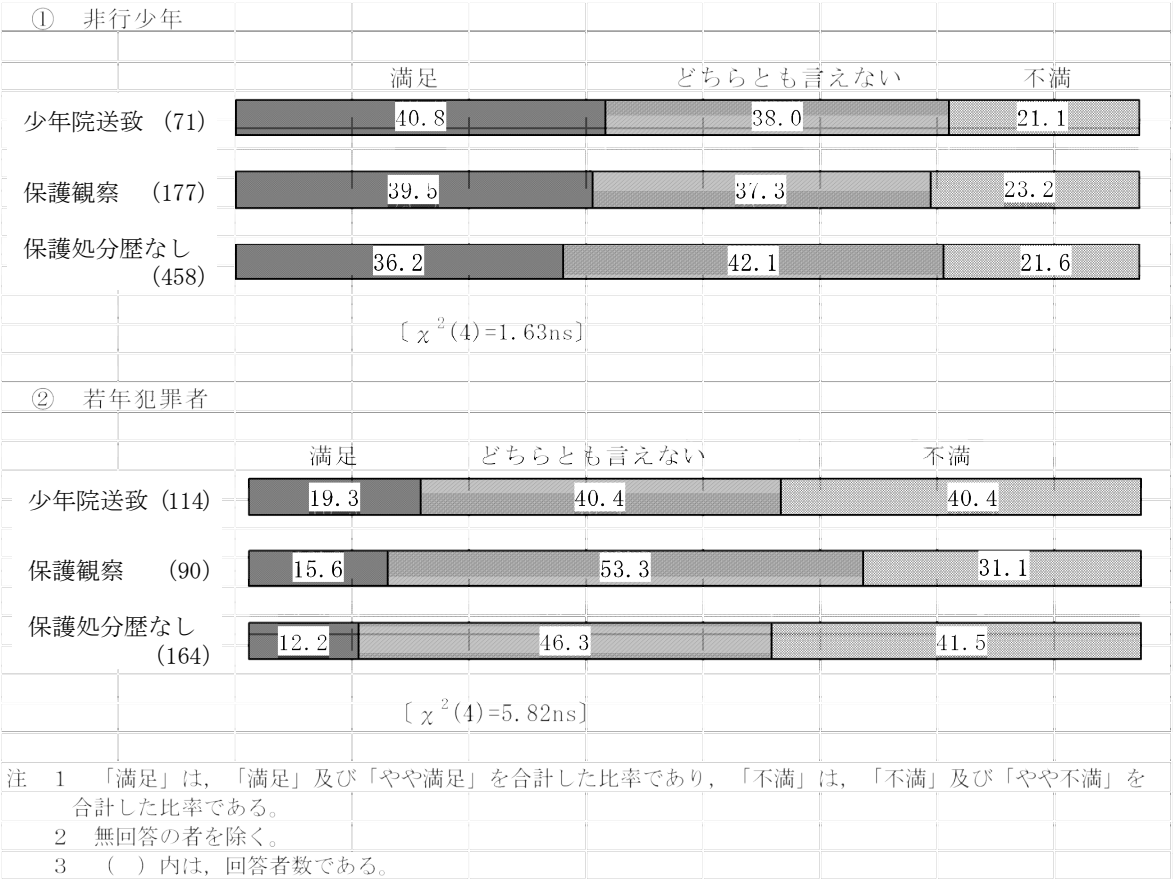
	満足	どちらとも言えない	不満
2年調査少年（2,093）	35.8	42.7	21.5
10年調査少年（2,251）	32.9	42.8	24.3
17年調査少年（2,860）	33.9	42.2	23.8
23年調査少年（721）	37.2	41.1	21.8
〔経年比較： $\chi^2(6)=9.97^{ns}$ 〕			
23年調査若年（372）	15.6	46.2	38.2
〔少年・若年比較： $\chi^2(2)=63.97^{**}$ 〕			
注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した比率であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した比率である。			
2 無回答の者を除く。			
3 （ ）内は、回答者数である。			

2 ここでも、若年犯罪者中、女性の調査対象者数が少ない点に注意が必要である。

イ 保護処分歴別の比較

2-7-2図は、現在の社会に対する満足度を非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別に見たものである。非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、保護処分歴別の有意差は見られない。

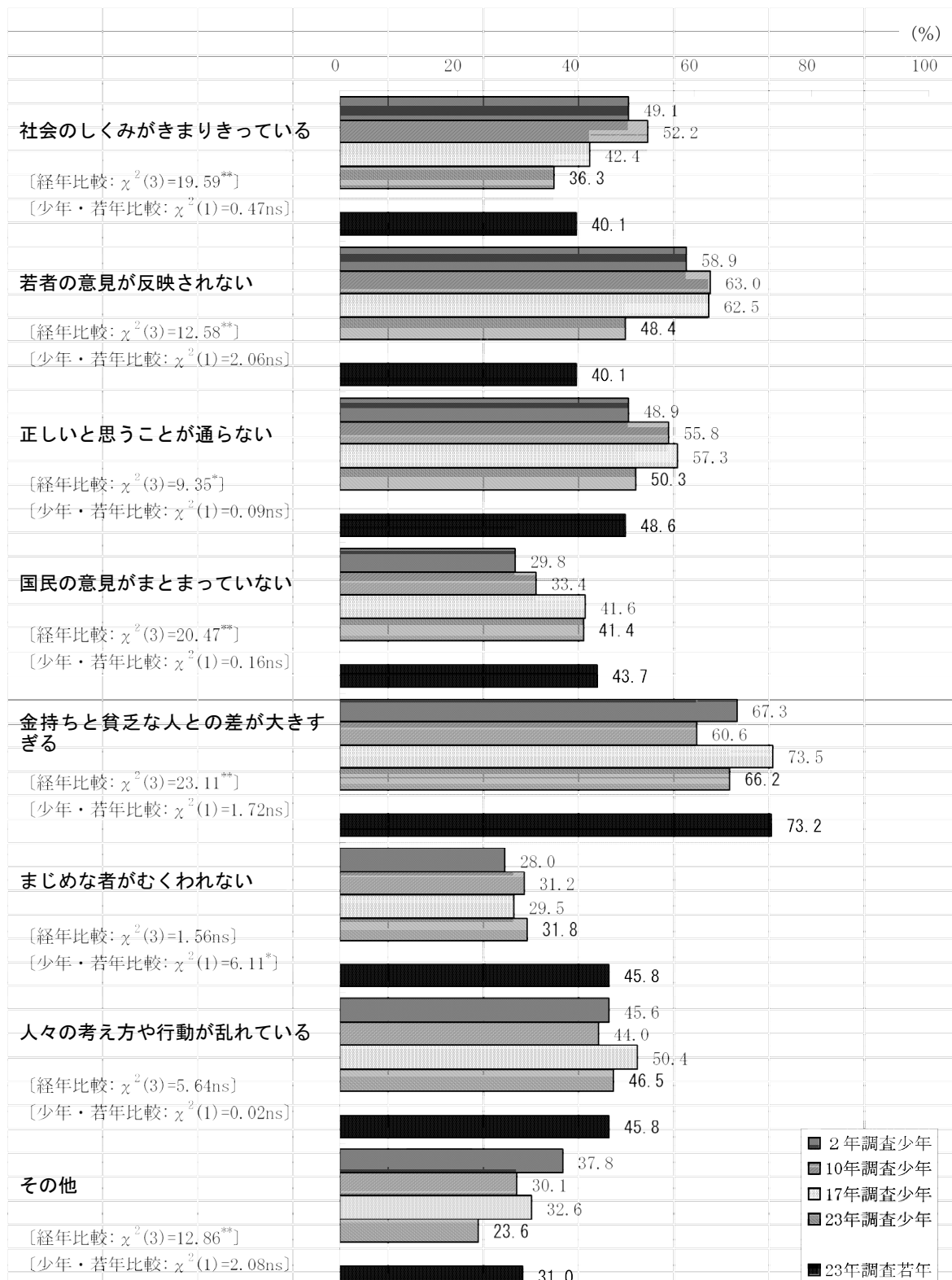
2-7-2図 社会に対する満足度（保護処分歴別）



(2) 社会に対する不満の理由

現在の社会が不満と回答した者の中で、主要な理由を見ると、「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が非行少年でも若年犯罪者でも最も多く、不満と回答した者の6割を超える。これに次いで「正しいと思うことが通らない」、「人々の考え方や行動が乱れている」が不満と回答した者の半数程度などとなっており、所得の格差や社会的正義・倫理の乱れを不満の理由として挙げる者が比較的多い。

2-7-3図 社会に対する不満の理由（経年比較等）



注 1 Q10において「不満」（「不満」及び「やや不満」）と回答した者に占める各項目を選択した者の比率である。

2 上限のない複数回答である。

3 「その他」は、不景気で仕事がない、政治がまとまっていない等である。

（３）社会に対する満足度と他領域における満足度との関連

社会一般に対する満足度は、日常生活における様々な側面で得られる満足感の影響を受けていると考えられる。２－７－４表は、非行少年及び若年犯罪者について、家庭生活に対する満足度（Ｑ１）、友人関係に対する満足度（Ｑ３）及び自分の生き方への満足度（Ｑ２７）を説明変数とし、社会生活の満足度（Ｑ１０）を従属変数とするカテゴリカル回帰分析結果を要約したものである。社会への満足度は、生活の基盤をなす家庭生活における満足度、友人関係に対する満足度、自分の生き方に対する満足度のそれぞれに統計的に有意な関連性をもっており、各領域において満足度の高い者は社会生活の満足度も高い傾向にあることがうかがえる。

２－７－４表 今の社会への満足度についてのカテゴリカル回帰分析結果

説明変数		Q10 今の社会への満足度					
		非行少年 (N=713)			若年犯罪者 (N=370)		
		ベータ	標準誤差	F	ベータ	標準誤差	F
Q 1	家庭生活への満足度	0.27	0.04	60.41**	0.27	0.05	29.32**
Q 3	友達づきあいへの満足度	0.07	0.04	3.75*	0.15	0.05	8.23**
Q27	自分の生き方への満足度	0.27	0.04	57.88**	0.17	0.05	11.51**
		予測モデル			予測モデル		
		重相関係数			重相関係数		
		決定係数			決定係数		

注 調査対象者のうち、本質問への回答に欠損値のあるものを除く。

8 態度・価値観

Q11 あなたは、次の意見（ア～タ）に賛成ですか、それとも反対ですか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」
- イ 「年上や目上の人には従うべきだ」
- ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」
- エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」
- オ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」
- カ 「世の中は、なるようにしかならないものだ」
- キ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」
- ク 「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」
- ケ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」
- コ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」
- サ 「義理人情を大切にすべきだ」
- シ 「努力するよりも要領よくふるまう方がよい」
- ス 「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」
- セ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」
- ソ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」
- タ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

（選択肢）

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

（1）経年比較等

2-8-1 図は、態度・価値観に関する各項目について、「賛成」（「賛成」及び「やや賛成」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「賛成率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、賛成率に5pt以上の差のあった項目を見ると、賛成率が上昇したものには、「年上や目上の人には従うべきだ」があり、賛成率が低下したものには、「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」及び「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」があるなど、まじめで堅実な生き方を肯定する傾向が強くなっている。一方で、「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」については、約7割の者が肯定的な回答をしているが、賛成

率がやや低下しており、社会貢献には消極的となっていることがうかがえた。

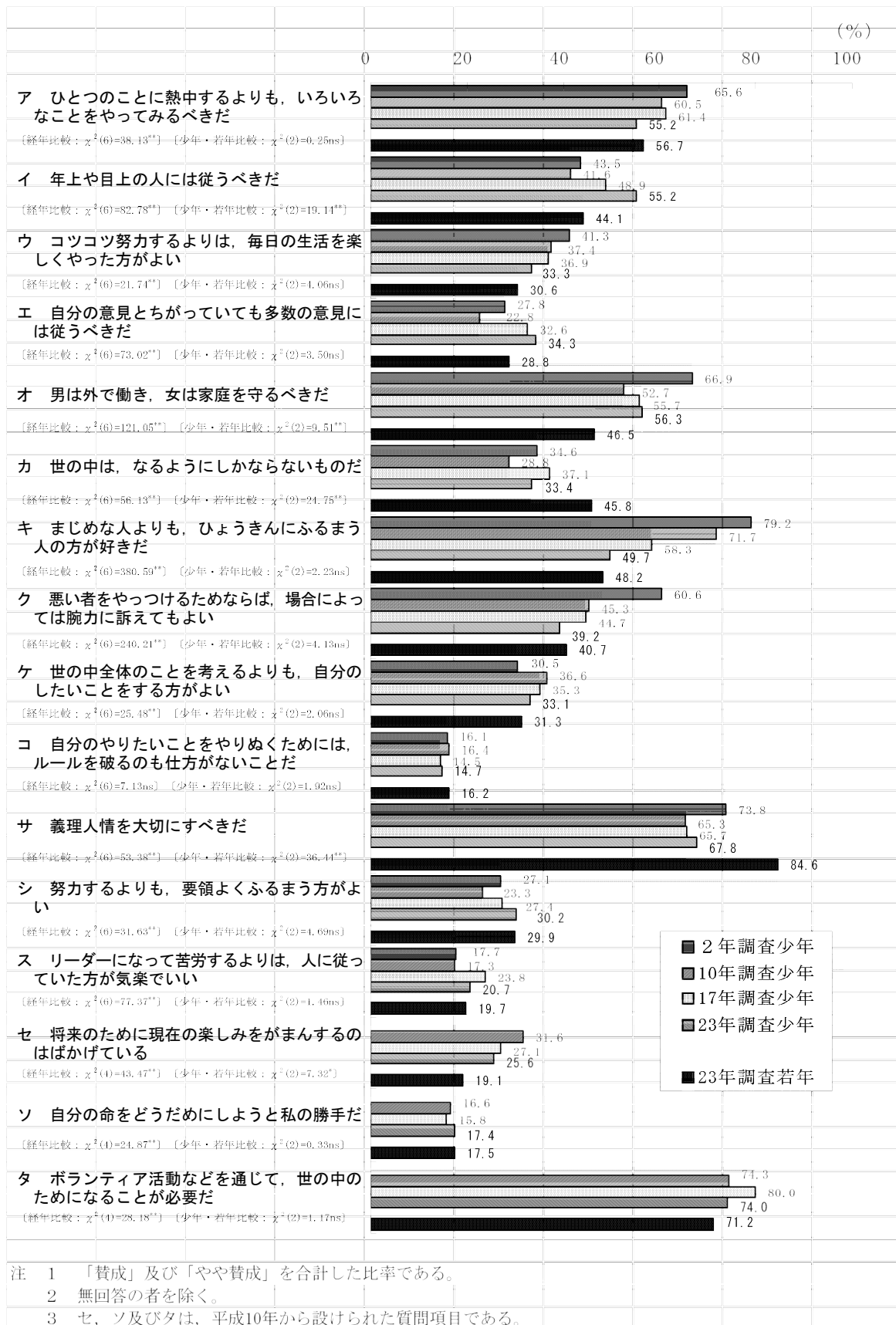
また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、非行少年の賛成率が有意に高かったのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」、「年上や目上の人には従うべきだ」及び「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」であり、若年犯罪者の賛成率は、「義理人情を大切にすべきだ」及び「世の中は、なるようにしかならないものだ」において有意に高かった。非行少年には、若年犯罪者に比べて、伝統的な性役割観の強さが見られ、若年犯罪者には、非行少年に比べて、人とのつながりを重視する傾向が強く見られた。

さらに、男女別の回答の違いを見ると、有意差が見られたのは非行少年のみであり、男子の方が賛成率が高かったのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」（男子59.5%，女子32.2%， $\chi^2(2)=49.87^{**}$ ）及び「義理人情を大切にすべきだ」（男子70.3%，女子49.4%， $\chi^2(2)=16.58^{**}$ ）であった。

このほか、不良集団¹との関わりの有無別（不良集団関係が不詳の者を除く。）に回答状況を見ると、若年犯罪者では、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」において、不良集団との関わりがある者の方が、ない者と比べて賛成率が高く（不良集団との関わりあり56.1%，不良集団との関わりなし38.1%， $\chi^2(2)=7.13^*$ ），問題解決の手段として暴力を肯定する傾向が見られた。

1 「不良集団」は、不良学生・生徒、地域不良集団、暴走族又は暴力団である。

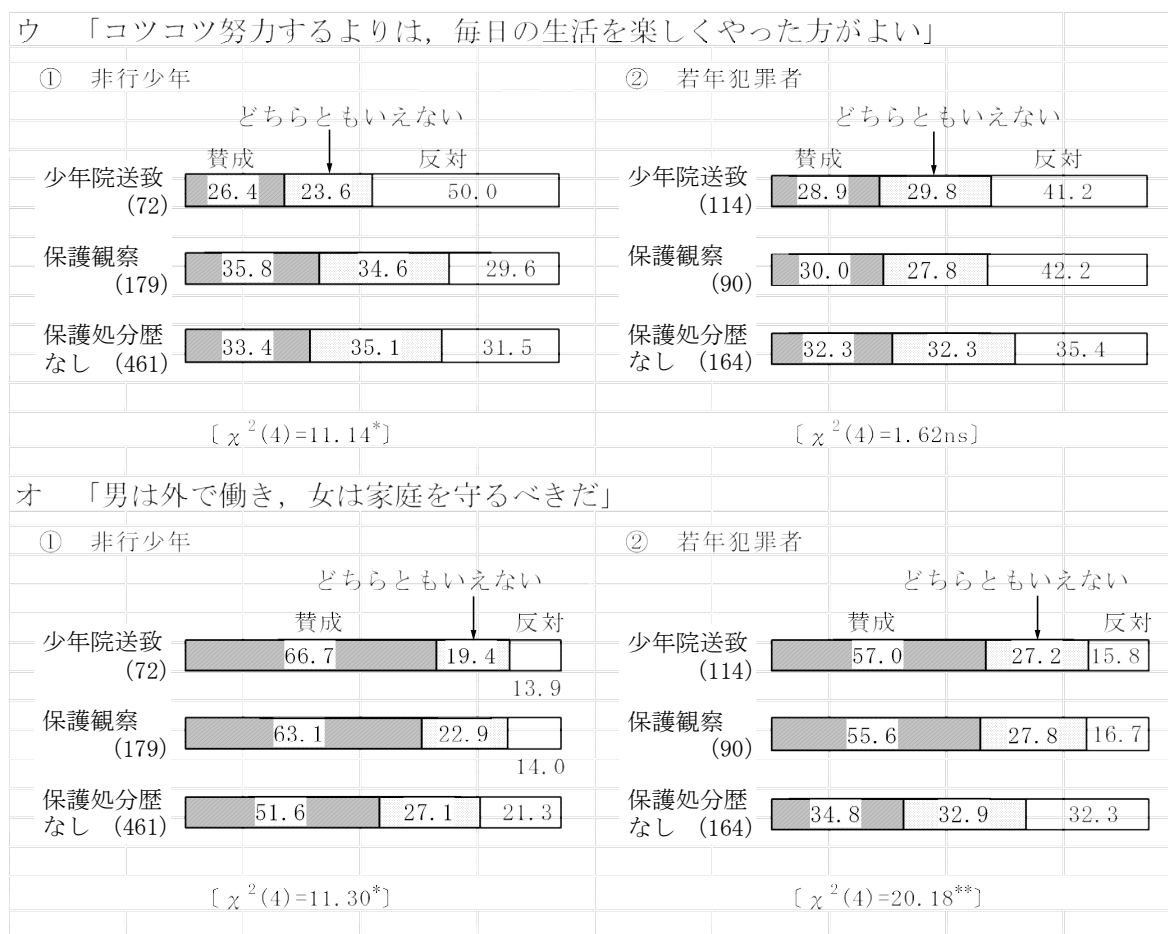
2-8-1図 態度・価値観（経年比較等）



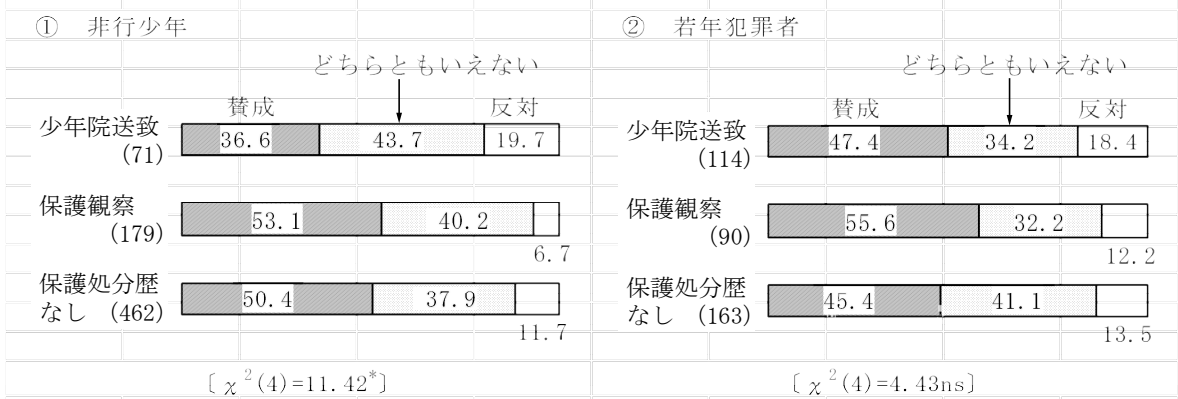
(2) 保護処分歴別の比較

2-8-2図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、態度・価値観に関する意見について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その構成比を見たものである。非行少年、若年犯罪者共に有意差が見られたのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」であり、保護処分歴のない者において「賛成」と回答した者の構成比が低かった。非行少年では、少年院送致歴を有する者において、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」及び「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」について、「反対」（「反対」及び「やや反対」の合計）と回答した者の構成比が高く、享乐的な生き方や自己中心的な考え方に否定的な傾向が比較的高いことが認められた。また、保護処分歴のない者では、「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」において「賛成」と回答した者の構成比が高く、従属的な態度の者が比較的多いことが認められた。

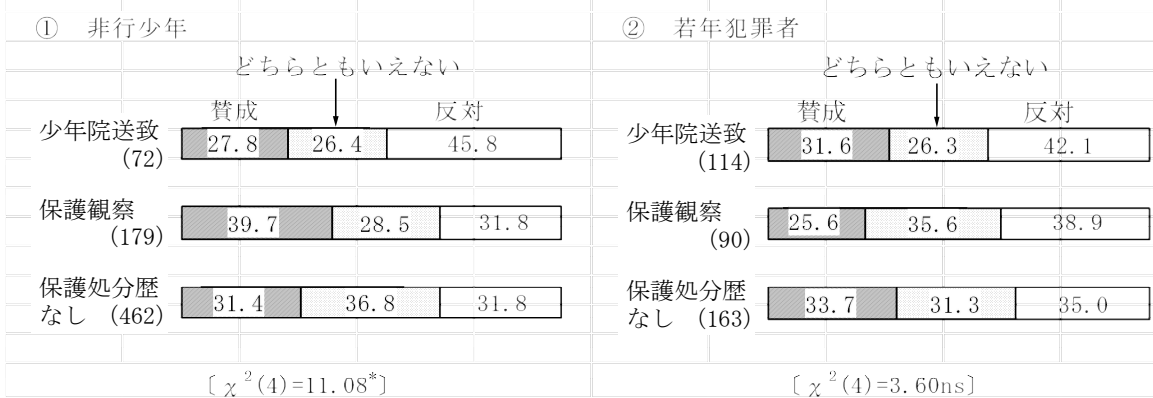
2-8-2図 態度・価値観（保護処分歴別）



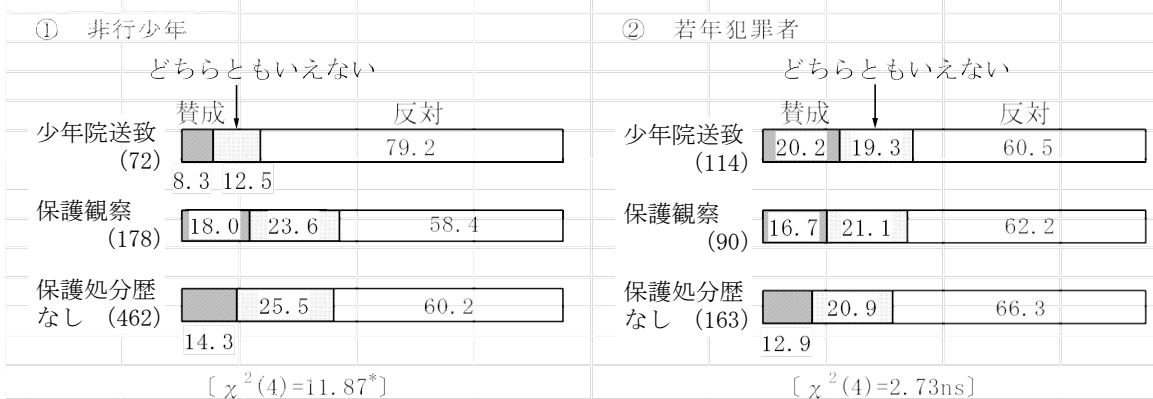
キ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

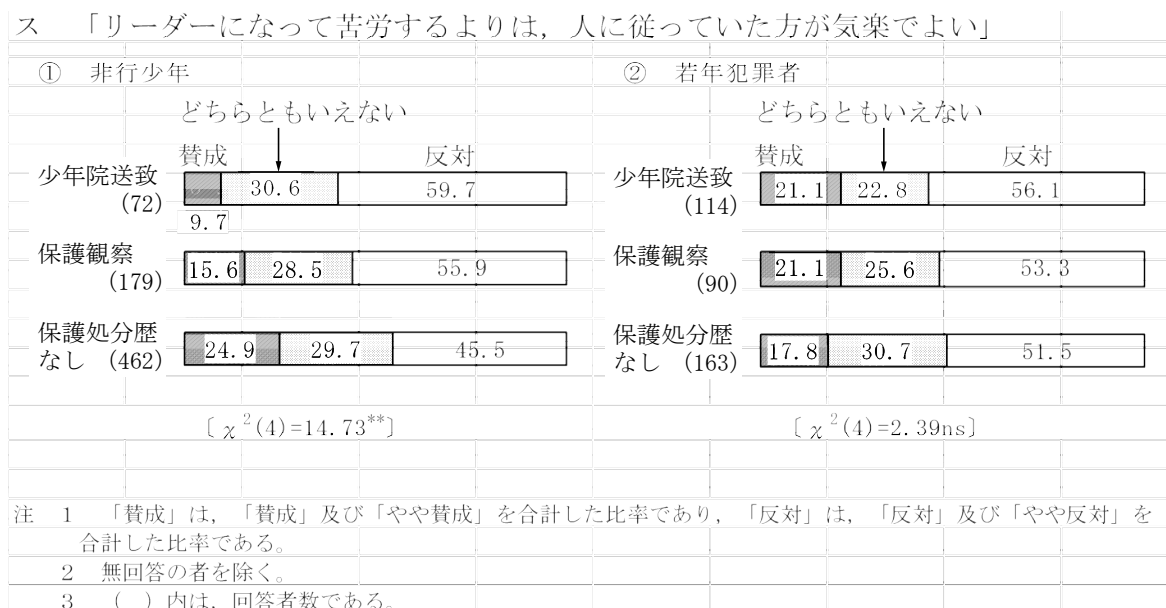


ケ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」



コ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」





なお、17年調査では、少年鑑別所の初入者と再入者について比較を行っており、前記の項目に加えて、「コツコツ努力するよりも要領よくふるまう方がよい」及び「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」において、初入者の賛成率は再入者よりも高いという結果が出ていたが²、今回調査では、有意差は見られなかった（それぞれ、初入者30.0%，再入者30.6%， $\chi^2(2)=0.45_{ns}$ ，初入者26.8%，再入者22.8%， $\chi^2(2)=1.72_{ns}$ ）。

2 法務総合研究所（2006）『法務総合研究所研究部報告32 ―最近の非行少年の特質に関する研究―』（29 - 30頁）：「コツコツ努力するよりも要領よくふるまう方がよい」（初入者39.9%，再入者29.4%， $\chi^2(2)=70.04^{**}$ ）／「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」（初入者29.7%，再入者20.6%， $\chi^2(2)=53.18^{**}$ ）

9 対人感情

Q12 あなたは日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じ
- イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じ
- ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じ
- エ 自分の性格がいやになるという感じ
- オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じ
- カ 自分は世の中から取り残されているという感じ
- キ 自分だけが悪く思われているという感じ
- ク 自分は意志が弱いという感じ
- ケ 自分はものごとに打ち込んでいるという感じ
- コ 自分は頼りにされているという感じ
- サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ
- シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ

（選択肢）

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

（1）経年比較等

2-9-1図は、対人感情に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、該当率に5pt以上の差が見られた項目を見ると、同比率が上昇したものは「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」であり、同比率が低下したものは「自分はものごとに打ち込んでいるという感じ」、「自分は頼りにされているという感じ」及び「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」であり、自信や充実感が低下している。

また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、該当率が若年犯罪者の方が非行少年より有意に高かったのは、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「世の中は結局金だけが頼りだという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分は意志が弱いという感じ」であり、非行少年の方が若年犯罪者より同比率が高かったのは、「世の中の人々は互いに

助け合っているという感じ」であった。若年犯罪者の方が非行少年に比べて、孤独感や社会からの疎外感を感じていることがうかがえる。

さらに、男女別の回答の違いを見ると、非行少年では、「自分の性格がいやになるという感じ」及び「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」において、女子の方が男子より該当率が高く（それぞれ、男子71.9%，女子86.0%， $\chi^2(1)=7.83^{**}$ ，男子56.3%，女子74.4%， $\chi^2(1)=10.21^{**}$ ），「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」では、女子の方が男子に比べて「ある」と回答した者の比率が低いなど（男子57.5%，女子39.5%， $\chi^2(1)=9.85^{*}$ ），女子の非行少年で自己イメージの悪い者が比較的多いことが明らかとなった。一方、若年犯罪者では、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」において、男性の方が女性に比べて該当率が低く（男性55.9%，女性77.3%， $\chi^2(1)=3.87^{*}$ ），前記において指摘した若年犯罪者の孤立感・疎外感の強さは、男性で強い傾向であると考えられる。

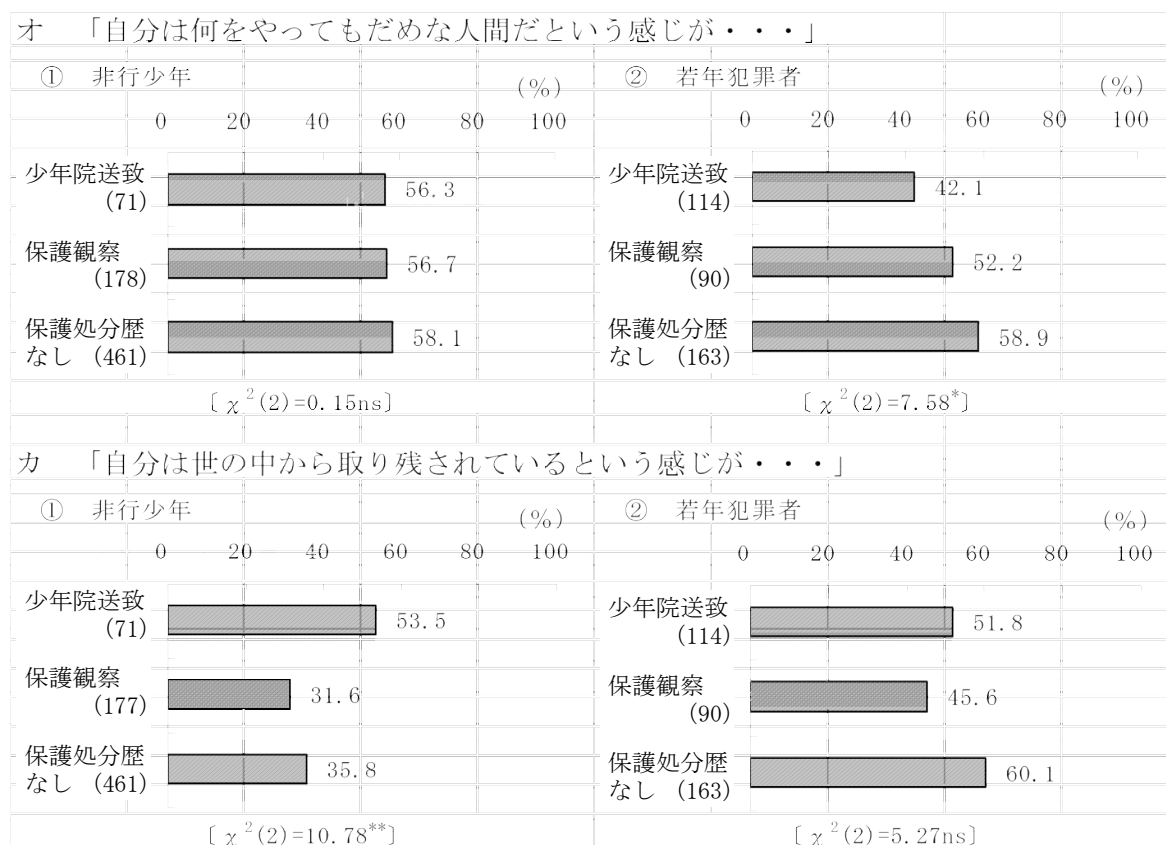
2-9-1図 対人感情（経年比較等）

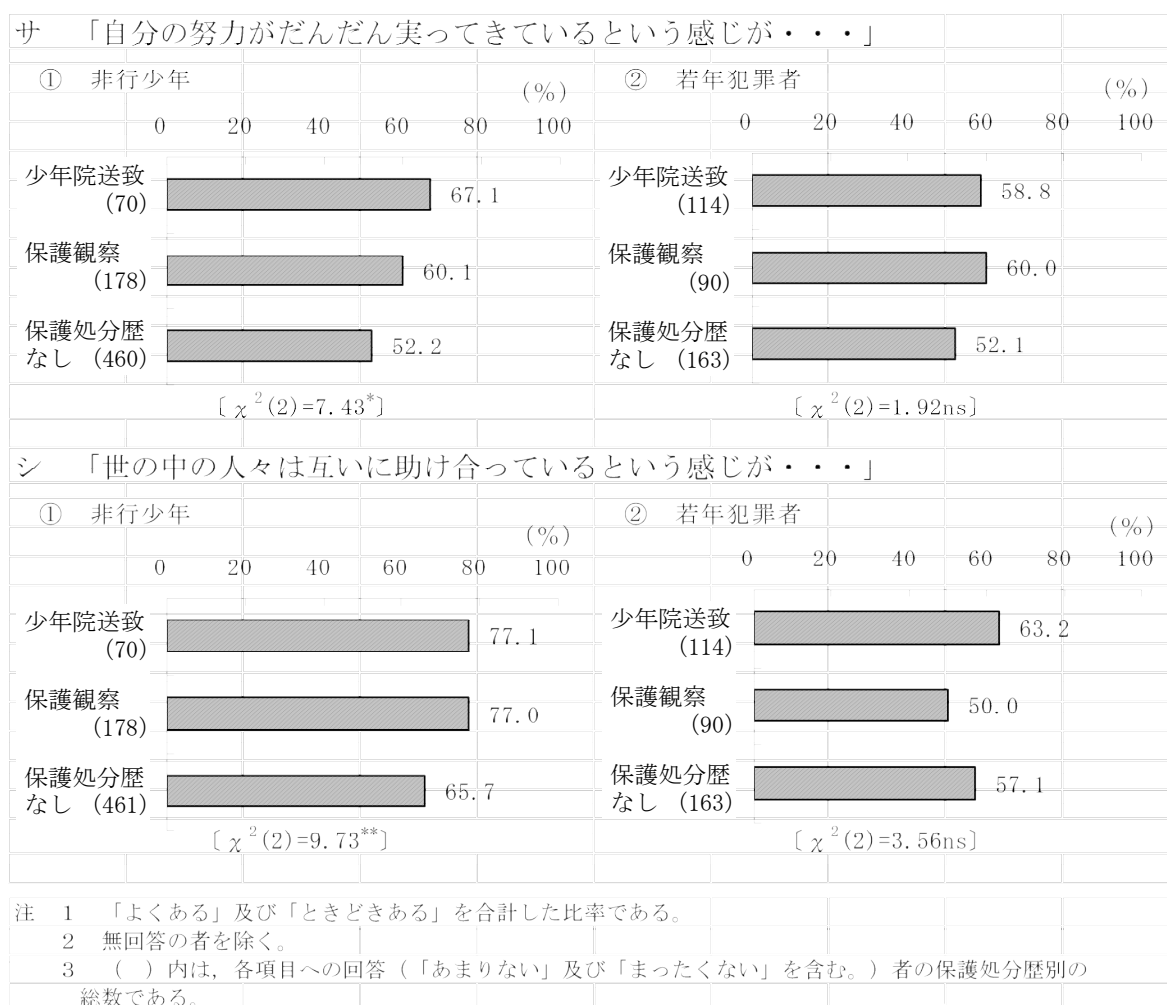


(2) 保護処分歴別の比較

2-9-2図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、対人感情について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その該当率を見たものである。非行少年では、少年院送致歴を有する者において、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」について該当率が高く、保護観察歴を有する者においては、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」について、該当率が高かった。一方、若年犯罪者では、「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」においてのみ有意差が見られ、保護処分歴のない者において該当率が高く、少年院送致歴を有する者において同比率が低かった。

2-9-2図 対人感情（保護処分歴別）





なお、前回調査では、少年鑑別所の初入者と再入者について比較を行ったところ、前記の項目のほかに、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分は意志が弱いという感じ」及び「自分は頼りにされているという感じ」において、再入者の方が初入者より該当率が有意に高いという結果が出ていたが³、今回調査では、有意差は見られなかった（それぞれ、初入者32.4%，再入者36.3%， $\chi^2(1)=1.03_{ns}$ ，初入者35.5%，再入者39.6%， $\chi^2(1)=1.07_{ns}$ ，初入者70.5%，再入者72.5%， $\chi^2(1)=0.30_{ns}$ ，初入者59.0%，再入者58.3%， $\chi^2(1)=0.03_{ns}$ ）。

3 法務総合研究所（2006）『法務総合研究所研究部報告32 ー最近の非行少年の特質に関する研究ー』（31 - 32頁）：「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」（初入者31.1%，再入者35.2%， $\chi^2(1)=4.50^*$ ）／「心のあたたまる思いが少ないという感じ」（初入者37.5%，再入者44.8%， $\chi^2(1)=13.10^{**}$ ）／「自分は意志が弱いという感じ」（初入者71.3%，再入者75.8%， $\chi^2(1)=5.85^{**}$ ）／「自分は頼りにされているという感じ」（初入者62.2%，再入者67.6%， $\chi^2(1)=7.39^*$ ）

10 非行・犯罪に対する意見

Q13 青少年の非行や犯罪についてお聞きします。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア あなたは、青少年が非行や犯罪に走るのは、どこに主な原因があると思いますか。

1 自分自身 2 家族（親） 3 友達・仲間 4 その他（ ）

イ あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

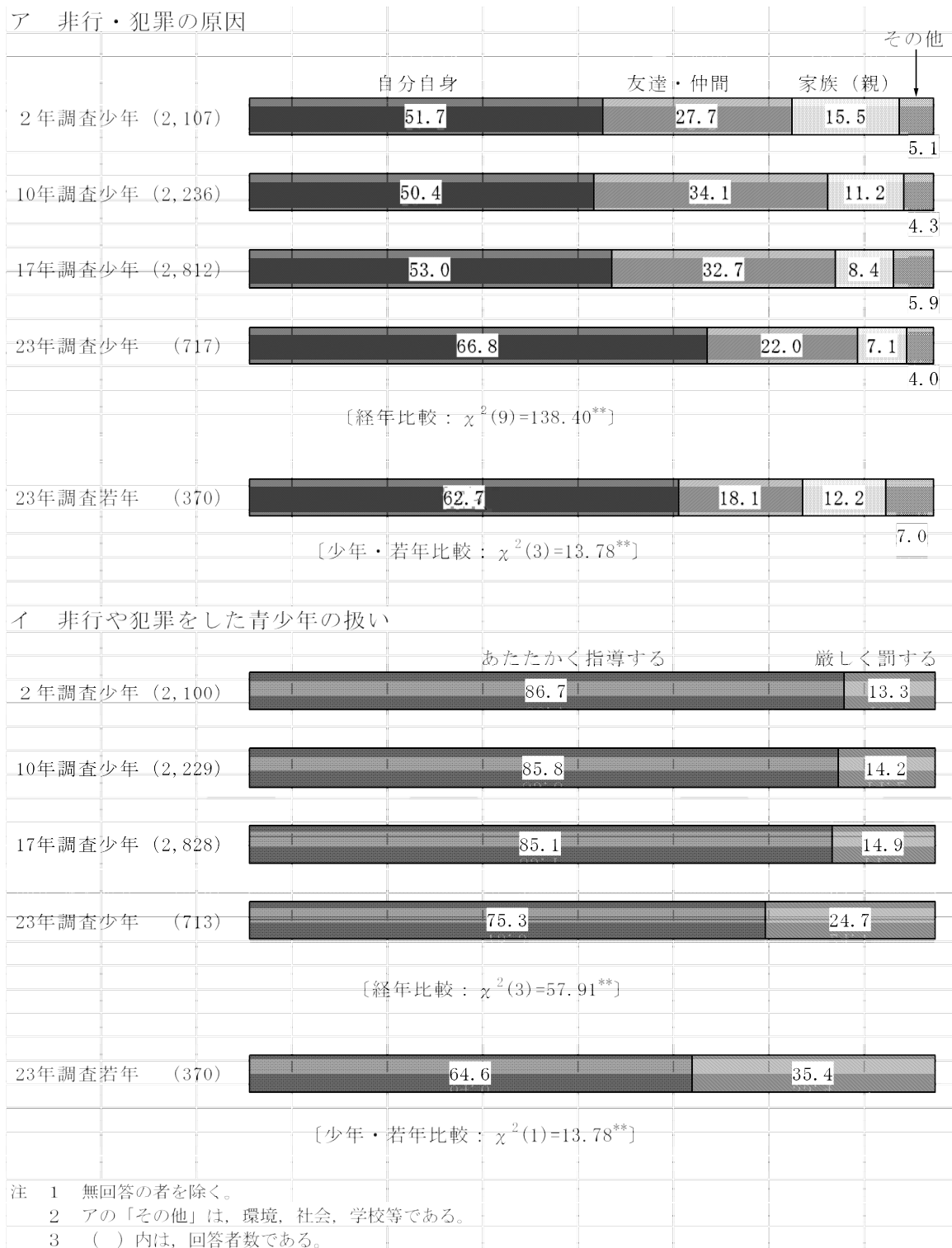
1 厳しく罰する 2 あたたく指導する

（1）経年比較等

青少年が非行や犯罪に走る原因についての意見を経年比較すると、2-10-1図のとおりである。今回調査においては、17年調査よりも、原因を「自分自身」とする者の構成比が高くなっており、また、非行や犯罪をした青少年の扱いについても、「厳しく罰する」という意見に賛成する者の構成比が高くなっている。

また、非行少年・若年犯罪者別に見ると、非行や犯罪に走る原因では、若年犯罪者の方が非行少年に比べて「家族（親）」を原因とする者の構成比が高い。非行や犯罪をした青少年の扱いについては、若年犯罪者の方が非行少年に比べて「厳しく罰する」に賛成する者の構成比が高いが、若年犯罪者について、非行・犯罪の原因認識別に青少年の扱いに関する意見を見ると、非行や犯罪に走る原因が「家族（親）」であると思っている者において、「あたたく指導する」に賛成する者の構成比が高かった（自分自身61.2%，家族（親）84.4%，友達・仲間61.2%，その他68.0%， $\chi^2(3)=9.37^*$ ）。

2-10-1 図 非行・犯罪に対する意見（経年比較等）

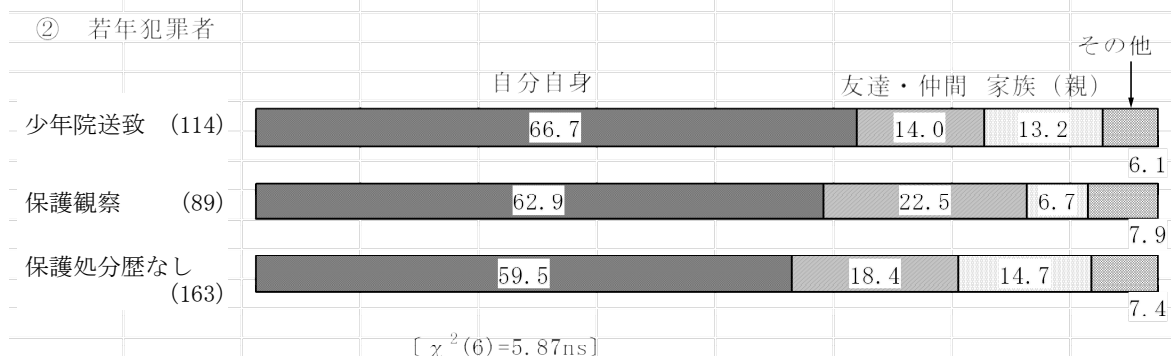
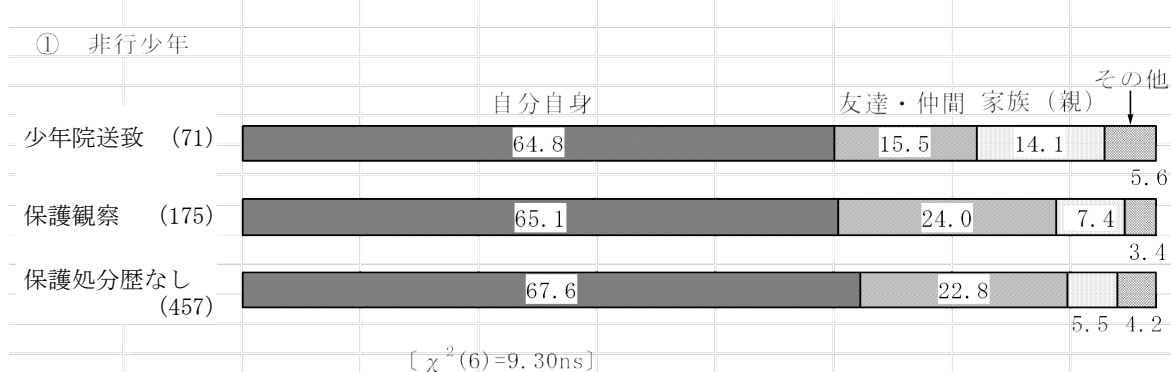


(2) 保護処分歴別の比較

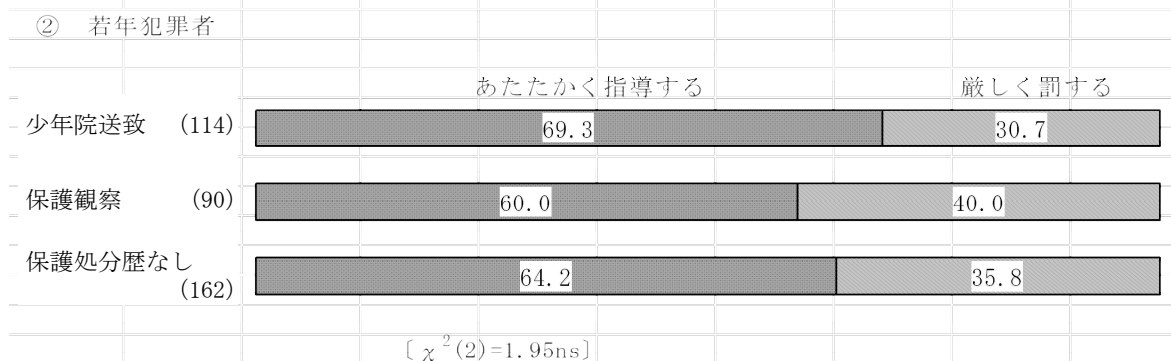
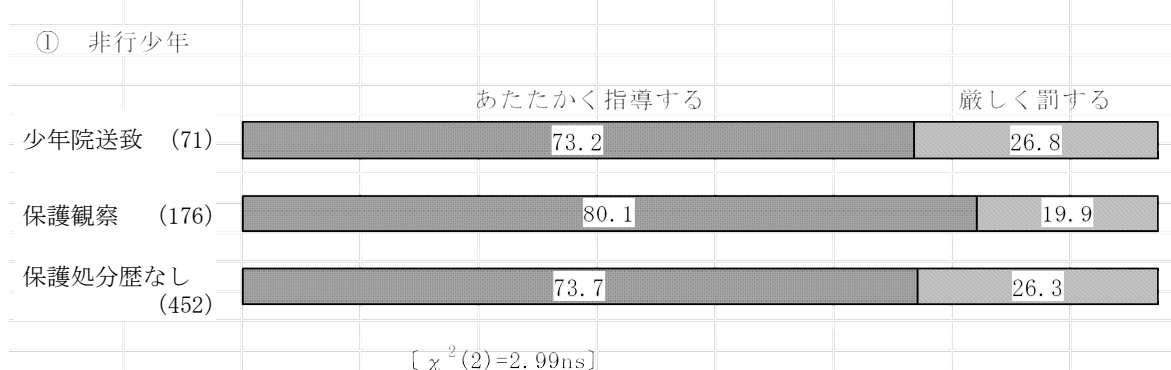
2-10-2 図は、非行・犯罪の原因及び非行や犯罪をした青少年の扱いに対する意見を、保護処分歴別に見たものであるが、回答に有意差は見られなかった。

2-10-2図 非行・犯罪に対する意見（保護処分歴別）

ア 非行・犯罪の原因



イ 非行・犯罪をした青少年の扱い



注 1 無回答の者を除く。

2 アの「その他」は、環境、社会、学校等である。

3 () 内は、回答者数である。

11 非行・犯罪等をする者に対する意見

Q14 次のような人について、あなたの考えをうかがいます。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか
- イ あなたは「覚せい剤」を使う人についてどう思いますか
- ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか
- エ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか
- オ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか
- カ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか
- キ あなたは「振り込め詐欺」をする人についてどう思いますか

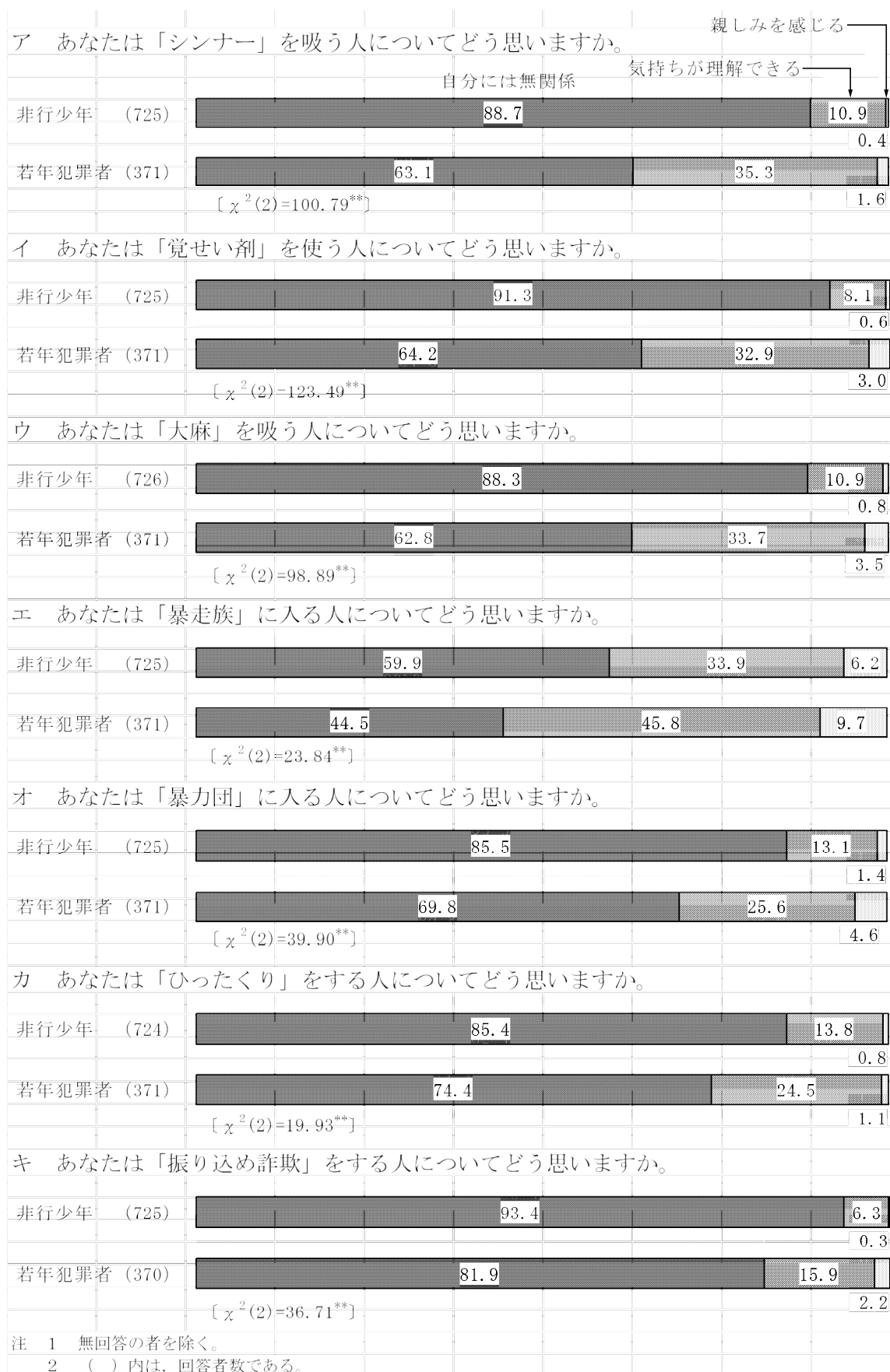
(選択肢)

- 1 自分には無関係
- 2 気持ちが理解できる
- 3 親しみを感ずる

(1) 非行少年・若年犯罪者別の比較

この質問は、各種の問題行動に対する意識を捉えるため、今回調査で新たに追加されたものであり、2-11-1図は、各質問への回答状況を、非行少年・若年犯罪者別に見たものである。いずれの質問についても、非行少年は、若年犯罪者に比して、「自分には無関係」とする者の構成比が高く、若年犯罪者は、非行少年に比して、「気持ちが理解できる」とする者の構成比が高くなっており、若年犯罪者の方が、各種の問題行動に親和的である。

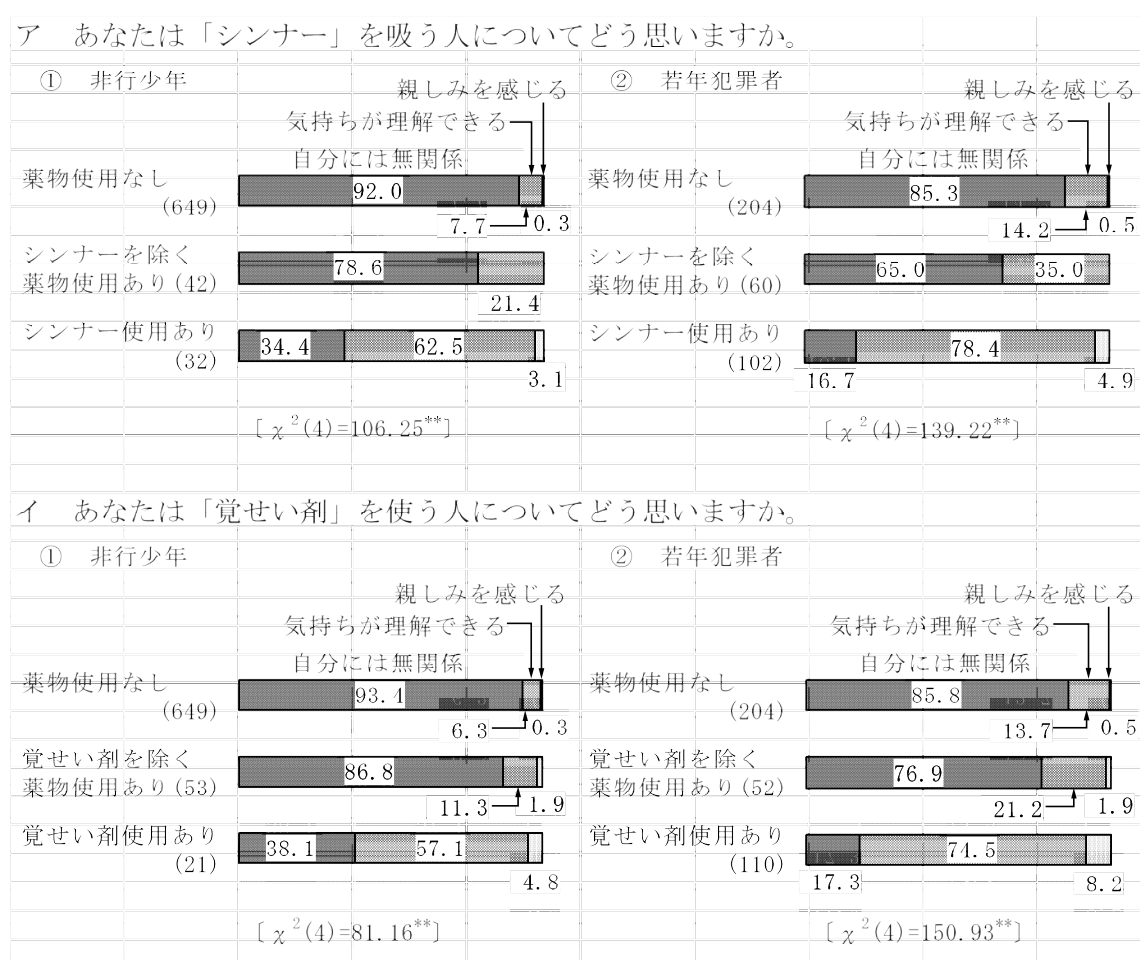
2-11-1図 非行・犯罪等をする者に対する意見

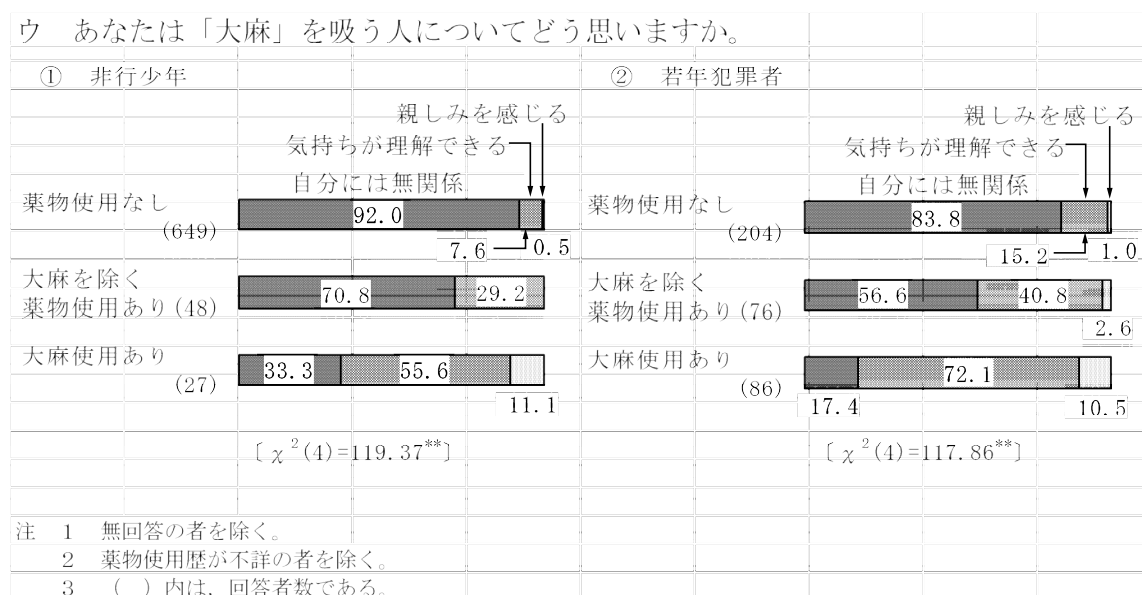


(2) 薬物を使用する者に対する意見

2-11-2図は、薬物使用歴別に、シンナー、覚せい剤及び大麻を使用する者に対する意見を見たものである。薬物の種類によらず、非行少年、若年犯罪者共に、薬物使用歴のない者では、薬物を使用する者について「自分には無関係」であるとする者の構成比が高い。しかし、薬物使用歴のある者でも、当該薬物を使用している者と使用していない者では、意識に大きな違いがあり、当該薬物を使用していない者では、当該薬物の使用歴のある者と比べて、「自分には無関係」であるとする者の構成比が顕著に高く、「気持ちが理解できる」とする者の構成比も低い。

2-11-2図 薬物を使用する者に対する意見（薬物使用歴別）





(3) 暴走族・暴力団に入る者に対する意見

2-11-3図は、暴走族・暴力団に入る者に対する意見を不良集団関係別に見たものである。暴走族に入る者については、非行少年、若年犯罪者共に、不良集団との関わりのない者であっても、「気持ちを理解できる」又は「親しみを感じる」とする者が合わせて3割を超えている。暴力団に入る者については、非行少年では、自ら暴力団に所属している者を除き、「自分とは無関係」とする者の構成比が8割を超えており、暴走族と関わりのある者であっても、暴力団にはあまり親和していない状況がうかがえる。

2-11-3図 暴走族・暴力団に入る者に対する意見（不良集団関係別）



(4) 保護処分歴別の比較

保護処分歴別に見ると、非行少年、若年犯罪者共に有意差が見られたのは、「シンナーを吸う人」（非行少年 $\chi^2(4)=18.61^{**}$ 、若年犯罪者 $\chi^2(4)=15.27^{**}$ ）及び「暴走族に入る人」（非行少年 $\chi^2(4)=12.38^*$ 、若年犯罪者 $\chi^2(4)=20.33^{**}$ ）に対する意見であり、「自分には無関係」とする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する

者では低かった。非行少年のみに有意差が見られたのは「覚せい剤を使う人」($\chi^2(4)=12.51^*$)に対する意見であり、また、若年犯罪者のみに有意差が見られたのは「暴力団に入る人」($\chi^2(4)=11.02^*$)に対する意見であったが、いずれも、「自分には無関係」であるとする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する者では低かった。

なお、薬物関連項目について、薬物の使用歴のない者に限ってみると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、非行少年における「シンナーを吸う人」($\chi^2(4)=13.48^*$)及び「覚せい剤を使う人」($\chi^2(4)=11.58^*$)であった。同様に、不良集団関連項目について、不良集団関係のない者に限って見ると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、若年犯罪者における「暴走族に入る人」($\chi^2(4)=16.07^*$)のみであった。

12 心のブレーキ

Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 父母のこと | 2 兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること | 4 学校や職場に対する迷惑のこと |
| 5 社会から白い目で見られること | 6 警察につかまること |
| 7 自分で自分がいやになるから | 8 その他 |
| 9 特に心のブレーキになるものはない | |

（1）経年比較等

この質問は、10年調査から追加された質問であり、**2-12-1 図**は、非行や犯罪をしようとしたときの心のブレーキとなるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。10年調査及び17年調査と比較すると、今回調査では、「父母のこと」を選択した者の比率が高くなっている。ただし、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が17年調査までと比べて低く、両者を合わせた「家族」として見ると7割弱であって、これまでの調査の6割超と大きくは変わらず、家族が非行や犯罪の心的抑止力として大きな意味を有し続けていることが分かる。

次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、若年犯罪者では、非行少年と異なり、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が「父母のこと」の選択率より高かった。また、非行少年と比べると、「学校や職場に対する迷惑のこと」を選択する者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」及び「特に心のブレーキになるも

者では低かった。非行少年のみに有意差が見られたのは「覚せい剤を使う人」($\chi^2(4)=12.51^*$)に対する意見であり、また、若年犯罪者のみに有意差が見られたのは「暴力団に入る人」($\chi^2(4)=11.02^*$)に対する意見であったが、いずれも、「自分には無関係」であるとする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する者では低かった。

なお、薬物関連項目について、薬物の使用歴のない者に限ってみると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、非行少年における「シンナーを吸う人」($\chi^2(4)=13.48^*$)及び「覚せい剤を使う人」($\chi^2(4)=11.58^*$)であった。同様に、不良集団関連項目について、不良集団関係のない者に限って見ると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、若年犯罪者における「暴走族に入る人」($\chi^2(4)=16.07^*$)のみであった。

12 心のブレーキ

Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 父母のこと | 2 兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること | 4 学校や職場に対する迷惑のこと |
| 5 社会から白い目で見られること | 6 警察につかまること |
| 7 自分で自分がいやになるから | 8 その他 |
| 9 特に心のブレーキになるものはない | |

（1）経年比較等

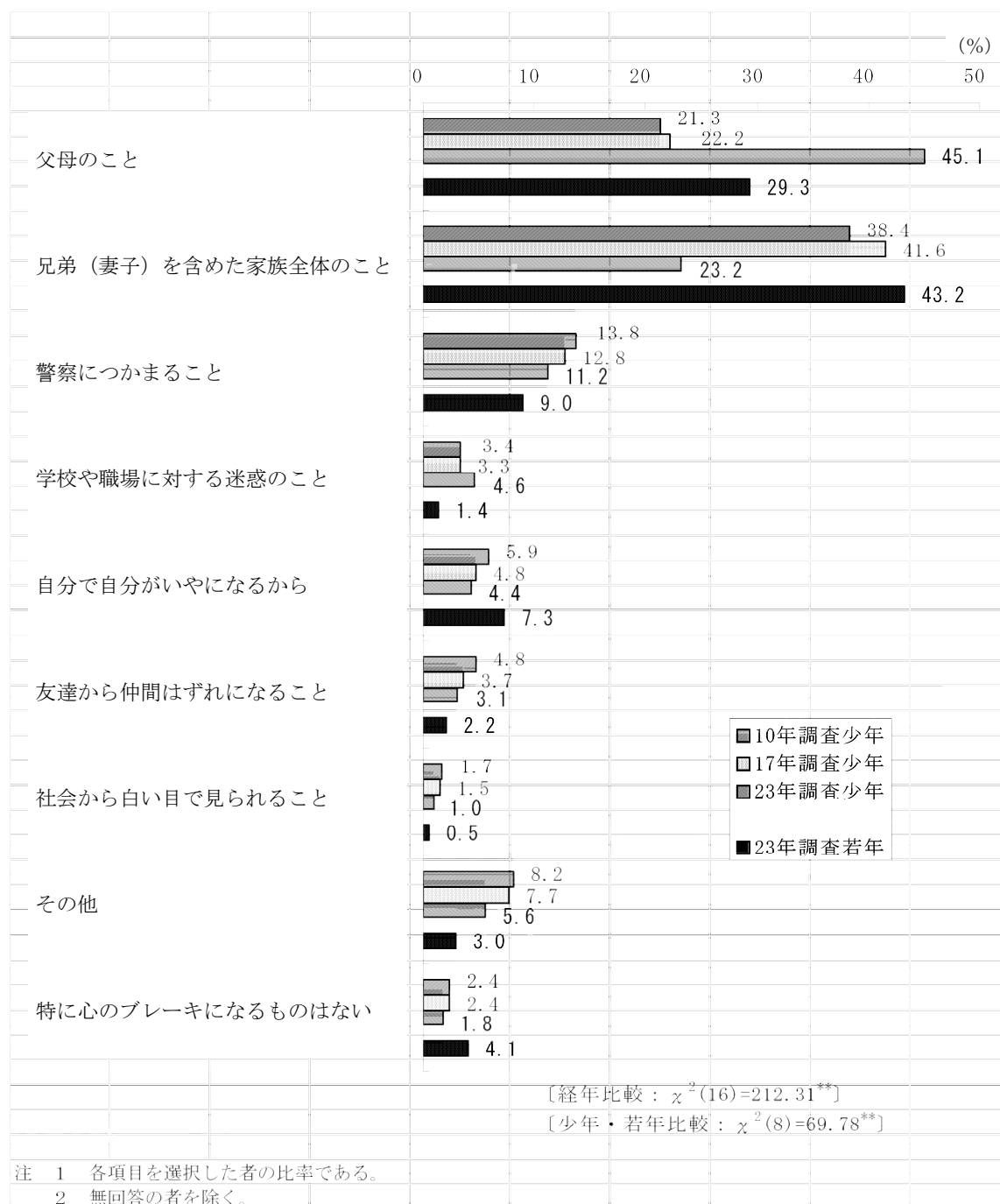
この質問は、10年調査から追加された質問であり、**2-12-1 図**は、非行や犯罪をしようとしたときの心のブレーキとなるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。10年調査及び17年調査と比較すると、今回調査では、「父母のこと」を選択した者の比率が高くなっている。ただし、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が17年調査までと比べて低く、両者を合わせた「家族」として見ると7割弱であって、これまでの調査の6割超と大きくは変わらず、家族が非行や犯罪の心的抑止力として大きな意味を有し続けていることが分かる。

次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、若年犯罪者では、非行少年と異なり、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が「父母のこと」の選択率より高かった。また、非行少年と比べると、「学校や職場に対する迷惑のこと」を選択する者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」及び「特に心のブレーキになるも

のではない」の選択率が高いなど、他者との心的つながりが比較的弱いことが推察される。

なお、男女別の回答状況には、有意差は見られなかった。

2-12-1 図 心のブレーキ（経年比較等）

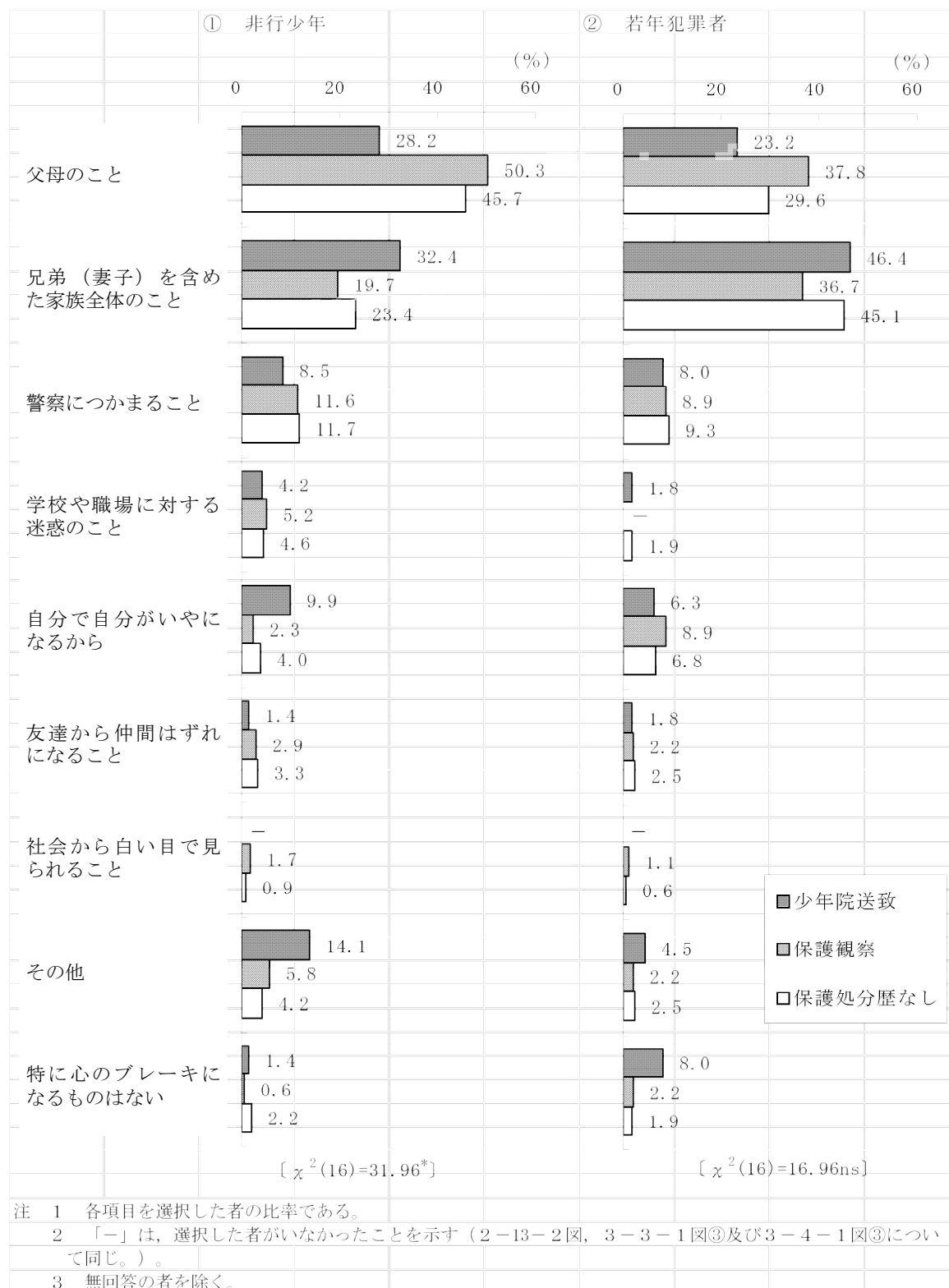


（2）保護処分歴別の比較

心のブレーキとなるものについて、保護処分歴別に見ると、2-12-2 図のとおりである。若年犯罪者では、保護処分歴別の有意差は見られなかったが、非行少年では、少年院

送致歴を有する者において、「父母のこと」を選択した者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」を選択した者の比率が高かった。

2-12-2図 心のブレーキについての認識（保護処分歴別）



13 これからの生活で大切なこと

Q25 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの3つを選んで、番号を記入してください。

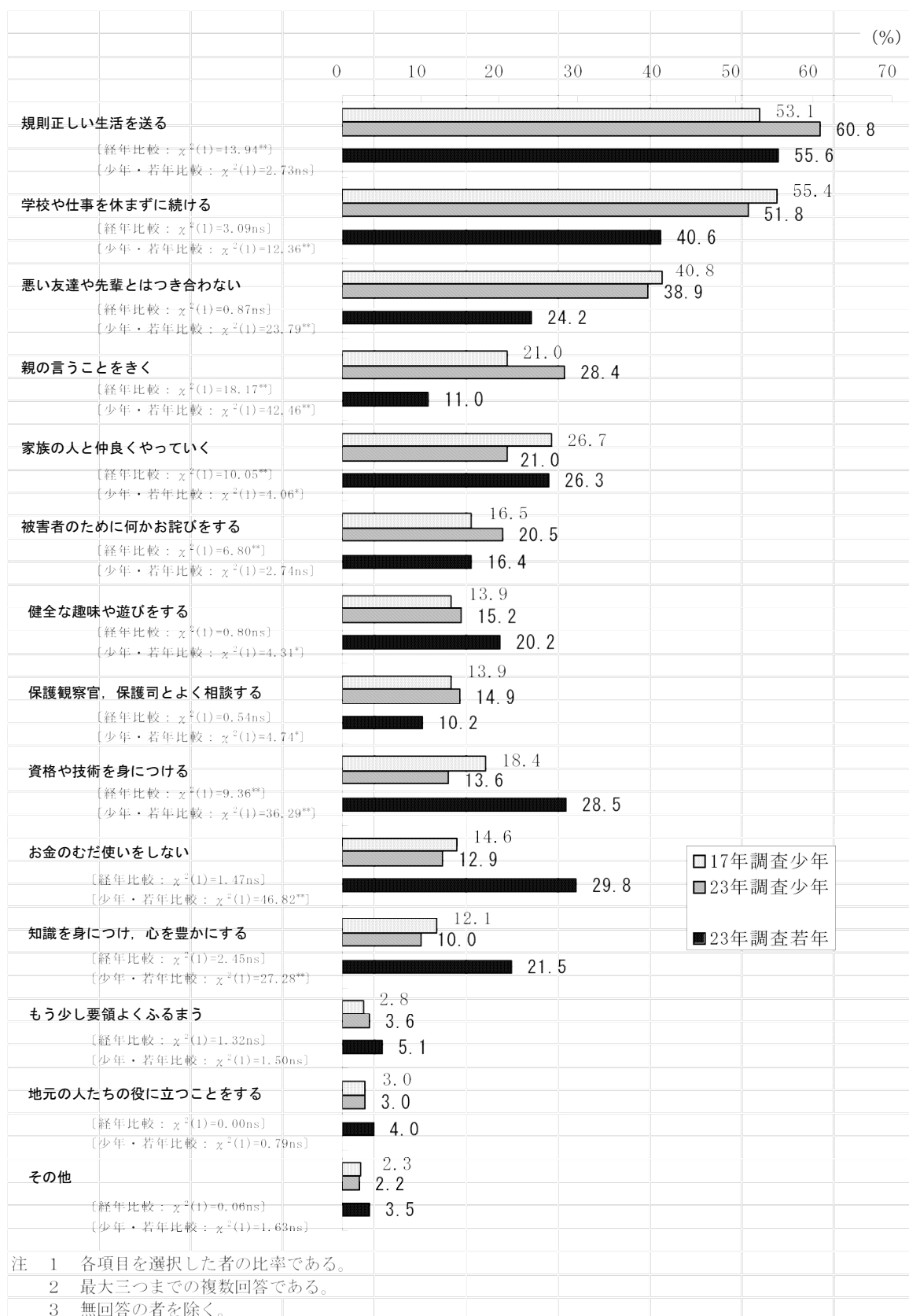
- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 規則正しい生活をおくる | 2 お金のむだ使いをしない |
| 3 健全な趣味や遊びをする | 4 学校や仕事を休まずに続ける |
| 5 資格や技術を身につける | 6 知識を身につけ心を豊かにする |
| 7 親の言うことをきく | 8 家族の人と仲良くやっていく |
| 9 悪い友達や先輩とはつき合わない | 10 被害者のために何かお詫びをする |
| 11 地元の人たちの役にたつことをする | 12 保護観察官・保護司とよく相談する |
| 13 もう少し要領よくふるまう | 14 その他 |

(1) 経年比較等

この質問は、17年調査で追加されたものであり、2-13-1図は、これからの生活で大切に思えるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）について、17年調査と今回調査の経年比較を行ったものである。選択率の高い項目に大きな変化はないが、前回5位であった「親の言うことをきく」が4位となり、前回4位であった「家族の人と仲良くやっていく」が5位となっている。また、「被害者のために何かお詫びをする」については、選択率が、17年調査よりも有意に高くなっている。

今回調査について、非行少年・若年犯罪者別の回答状況を見ると、非行少年は、若年犯罪者に比して、「学校や仕事を休まずに続ける」や「悪い友達や先輩とはつき合わない」、「親の言うことをきく」の選択率が高く、若年犯罪者は、非行少年に比して、「資格や技術を身につける」や「お金のむだ使いをしない」の選択率が高い。これは、非行少年の生活の安定は、生活の基盤である学校や家庭、そして交友関係の影響を大きく受け、若年犯罪者については、非行少年に比して自立の必要性が高いことなどによると思われる。

2-13-1 図 これからの生活で大切なこと（経年比較等）



（２）保護処分歴別の比較

これからの生活で大切だと思うことについて、保護処分歴別に見ると、**2-13-2図**のとおりである。非行少年においては、保護処分歴のない者の方が「規則正しい生活を送る」及び「親の言うことをきく」の選択率が高く、少年院送致歴を有する者の方が「お金のむだ使いをしない」及び「保護観察官、保護司とよく相談する」の選択率が高かった。また、若年犯罪者においては、保護処分歴のない者に比べ、少年院送致歴及び保護観察歴を有する者の方が「学校や仕事を休まずに続ける」を選択した者の比率が高かった。

2-13-2図 これからの生活で大切なこと（保護処分歴別）



14 自分の生き方に対する満足度

Q27 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

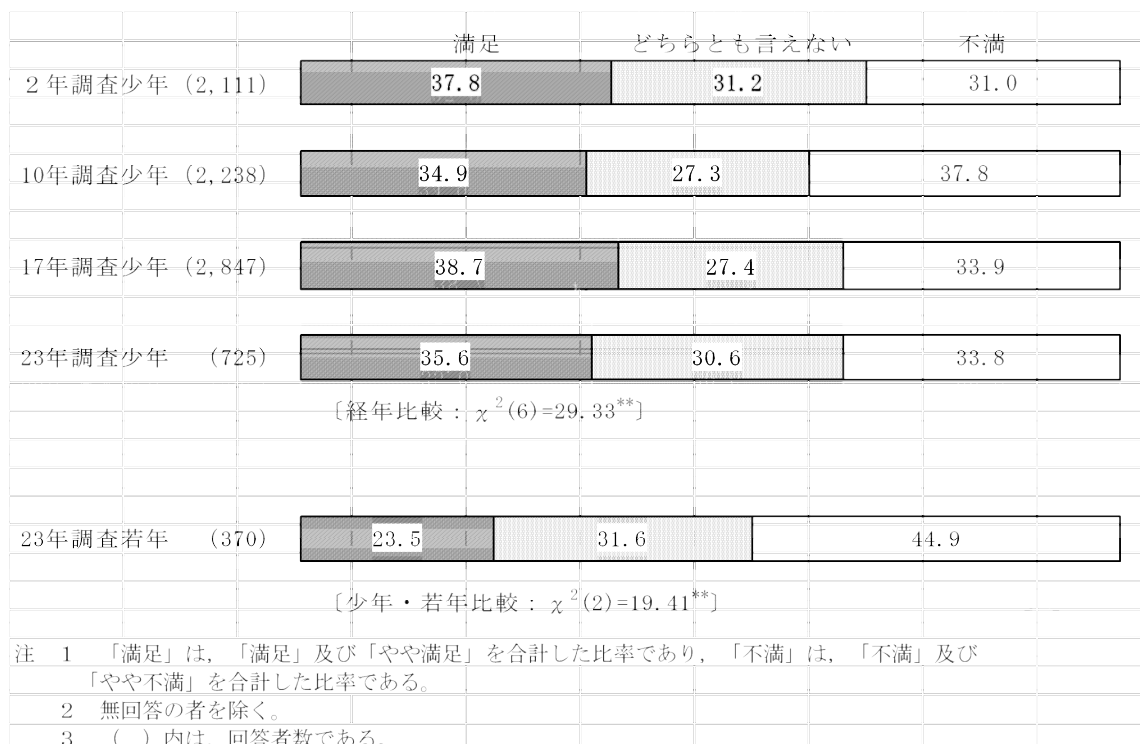
(1) 経年比較等

2-14-1図は、今の自分の生き方にどのくらい満足しているかを経年比較したものである。自分の生き方に対する満足度を「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合したところ、調査年ごとに数ポイント程度の有意な変動は認められるが、前回調査と比べると構成比に大きな変化は見られなかった。

また、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の満足度を比較すると、「満足」と回答した者の構成比は、非行少年の方が若年犯罪者よりも高く、「不満」と回答した者の構成比は、若年犯罪者の方が非行少年に比べて有意に高かった。

なお、非行少年・若年犯罪者別に、男女別の満足度を見ると、有意差はなかった。

2-14-1図 自分の生き方に対する満足度（経年比較等）



（２）保護処分歴別の比較

今回調査において、今の自分の生き方に対する満足度を保護処分歴別に見たところ、非行少年、若年犯罪者共に、有意差は見られなかった。

なお、前回調査においては、非行少年について初入・再入別に見ると、初入者の方が、再入者に比して、「満足」と回答した者の構成比が有意に高かったが⁴、今回調査において同様の分析を行ったところ、同構成比は、初入者の方が高い傾向にあったものの（初入者37.2%，再入者31.8%， $\chi^2(2)=4.16ns$ ），有意差は見られなかった。

4 法務総合研究所（2006）『法務総合研究所研究部報告32 ー最近の非行少年の特質に関する研究ー』（37 - 38頁）

第3 非行少年・若年犯罪者の非行・犯罪に対する意識

1 リスク領域別の非行・犯罪要因についての認識

Q15 あなたご自身が非行や犯罪をした原因として、どんなことが影響していたと思いますか。次の中からあてはまるものを、いくつでも選び、番号に○をつけてください。

ア 家庭では・・・

- 1 家族の愛情やかかわりが不足していたこと
- 2 家族の関係が悪かったこと
- 3 家族からの暴力があったこと
- 4 親の世話やしつけが良くなかったこと
- 5 何でも自分の思うように自由にできたこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

イ 学校では・・・

- 1 勉強が分からなかった・つまらなかったこと
- 2 欠席やさぼりが多かったこと
- 3 先生との間にトラブルがあったこと
- 4 生徒との関係が悪かったこと
- 5 中退したこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

ウ 職場では・・・（仕事の経験のある人だけ回答）

- 1 仕事が長続きしなかった・転職が多かったこと
- 2 雇い主との関係が悪かったこと
- 3 職場の同僚との関係が悪かったこと
- 4 仕事の知識や技能が不足していたこと
- 5 仕事をやる気が不足していたこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

エ 友達関係では・・・

- 1 非行や犯罪をする友人や知人がいたこと

- 2 非行や犯罪をする人の誘惑があったこと
- 3 暴走族、ギャング、暴力団などの集団に関係していたこと
- 4 まじめな友人や知人があまりいなかったこと
- 5 助けてくれる友人や知人がいなかったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

オ 酒や薬物などでは・・・

- 1 飲酒が習慣になり生活が乱れていたこと
- 2 飲酒した時に喧嘩などのトラブルがあったこと
- 3 時々薬物を使用していたこと
- 4 薬物をやめられなくなっていたこと
- 5 薬物を手に入れるため非行や犯罪をするようになっていたこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

カ ひまなときの過ごし方では・・・

- 1 部・クラブ活動に参加しなかったこと
- 2 趣味など打ち込めるものがなかったこと
- 3 退屈してぶらぶらすることが多かったこと
- 4 ゲームばかりしていたこと
- 5 賭け事やギャンブルが多かったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

キ 生活の習慣では・・・

- 1 遊び中心で生活が乱れていたこと
- 2 金づかいが荒かったこと
- 3 ローンや借金が多かったこと
- 4 決まった所で暮らしていなかったこと
- 5 ひきこもりがちだったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

ク あなた自身の性格では・・・

- 1 すぐかっとなりやすかったこと
- 2 がまんが足りなかったこと
- 3 落ち着きが足りなかったこと

4 刺激やスリルが好きだったこと

5 悪いことで目立ちたかったこと

6 その他（ ）

7 特に問題はなかった

ケ あなた自身の態度では・・・

1 規則や注意を軽く考えていたこと

2 大人や社会に反発していたこと

3 つかまってもあまり反省をしなかったこと

4 自分が困っていても素直に助けてもらおうとしなかったこと

5 他人の気持ちや迷惑に思いやりや関心が足りなかったこと

6 その他（ ）

7 特に問題はなかった

（1）質問の設定趣旨等

非行や犯罪には、それに関与する個人の資質等の問題とともに、本人を取り巻く対人関係、生活環境上の問題や課題等、様々な要因が関与していると考えられる。この質問は、こうした要因の関与についての主観的な認識を大まかに把握する目的で、今回調査に新設したものである。調査領域や各領域の選択肢については、非行や犯罪関連のリスクアセスメントツール¹の評定領域や項目を勘案の上、非行や犯罪の要因になり得ると考えられているリスク領域を、家庭、学校、就労、交友関係、薬物使用等（問題飲酒を含む。）、余暇活動、生活管理、性格・性質、態度の9領域（領域ごとに6項目の選択肢及び当該領域の問題なしの1項目を設定。）に分け、各領域別の選択肢から自分の非行や犯罪に影響したと思われる事項を重複回答させた。

自己評定によるリスクアセスメントは、自分の問題を過少評価するなどの評定バイアスが掛かる可能性があり、そのような場合には第三者評定によるリスクアセスメントよりも信頼性や妥当性が落ちると考えられるが、第三者評定と自己認識とのずれを確認したり、当事者自身の見解をアセスメントや処遇に反映させる上での有用性もあり、西欧で用いられている一部のリスクアセスメントツールの中には、当事者の主観的評定が取り入れられ

1 一般的な再非行や再犯のリスクや重点的な処遇ニーズを査定するため、刑事司法領域で使用されているリスクアセスメントツールには、英国（イングランド及びウェールズ）のOASys（成人用）、ASSET（少年用）、カナダのLS/CMI（成人用）、YLS/CMI（少年用）等がある。これらのツールは、実証的知見に基づき開発・標準化され、処遇選択や処遇計画等の参考として実務を支援している。なお、一般的なリスクアセスメントツールには、犯罪歴等の履歴因子（静的リスク要因）と処遇を通じて変容可能な要因（動的リスク要因）を把握するものがあるが、本質問では各リスク領域における問題や課題の状況を大まかに把握する趣旨から静的リスク要因や動的リスク要因を区別して扱っていない。

ている²。

我が国でも、現在、少年矯正の分野で、資質鑑別の業務や矯正教育を支援する一助としてリスクアセスメントツール開発の作業が進行しており、非行少年や若年犯罪者自身の問題性に関する認知等を検討しておくことは、こうした作業の一つの参考資料にもなると考えられる。そこで、以下では、非行少年及び若年犯罪者の本質問の全般的な回答傾向のほか、対象者の性格特徴や社会的態度等、他のデータとの関連性等を報告する。

（２）クロス表による比較

３－１－１表は、各リスク領域の各選択肢が自分にあてはまると回答した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を非行少年・若年犯罪者別に見たものである³。

まず、非行少年において選択率が高い項目を個別に見ると、「規則や注意を軽く考えていた」（64.5％、態度）、「遊び中心で生活が乱れていた」（63.2％、生活）、「我慢が足りなかった」（62.7％、性格）、「非行や犯罪をする友人や知人がいた」（60.1％、交友）、「退屈してぶらぶら過ごしていた」（45.2％、余暇）などの順となっている。次に、「特に問題がなかった」の選択率が低い領域を見ると、性格(8.4％)、態度(9.7％)、生活(22.1％)、交友(25.3％)、学校(26.2％)などとなっており、主観的意識レベルでは、これらの領域で非行との関連性を認める者が多いことがうかがえる。

2 英国のOASysとASSETには、自己評定のセクションが設けられており、第三者評定によるコアセクションの評価とともに処遇計画の策定等に利用されている（自己報告によるリスクアセスメントの研究例としては、Moore, R. (2009) Predicting re-offending with the OASys self-assessment questionnaire, Research Summary 5/09 Ministry of Justice U.K.）。第三者評定によるリスクアセスメントは、評定者バイアスが掛かるので、評定者間信頼性等の検証を経なければ、信頼性や妥当性が高いとは必ずしも言えない（我が国の少年矯正で開発作業が進められているリスクアセスメントツールは、この点についても検証がなされている。）。

3 非行少年については、表中に男女別の選択率を参考掲示している。若年犯罪者については、女子の調査対象者数が少ないため掲示を省略した。

3-1-1表 リスク領域別選択項目の選択率（非行少年・若年犯罪者別）

リスク領域・項目		総数 (1,102)	非行少年 (730)	若年犯罪者 (372)	χ^2 検定	非行男子 (643)	非行女子 (87)	χ^2 検定
ア 家 庭	1 家族の愛情や関わりが不足	20.1	16.2	27.7	20.41**	15.2	23.0	3.39ns
	2 家族関係が悪かった	21.6	17.0	30.6	27.15**	16.5	20.7	0.96ns
	3 家族からの暴力	9.3	7.5	12.6	7.63**	7.2	10.3	1.12ns
	4 親の世話やしつけが良くなかった	9.3	6.7	14.5	17.71**	6.5	8.0	0.28ns
	5 何でも自分の思うようにできた	22.7	20.8	26.3	4.28**	21.0	19.5	0.10ns
	6 その他	10.3	9.0	12.6	3.46ns	8.9	10.3	0.20ns
	7 特に問題なかった	45.5	51.8	33.1	34.82**	52.7	44.8	1.91ns
イ 学 校	1 勉強が分からない・つまらない	42.2	40.8	44.9	1.67ns	40.3	44.8	0.66ns
	2 欠席やさぼりが多かった	41.5	40.7	43.0	0.55ns	38.9	54.0	7.28**
	3 先生とのトラブル	23.0	24.4	20.2	2.48ns	25.2	18.4	1.92ns
	4 生徒との関係の悪さ	13.9	14.5	12.6	0.73ns	13.4	23.0	5.71*
	5 中退したこと	22.7	20.1	27.7	8.01**	20.4	18.4	0.19ns
	6 その他	4.3	3.6	5.6	2.62ns	3.6	3.4	0.00ns
	7 特に問題なかった	25.9	26.2	25.3	0.10ns	26.4	24.1	0.21ns
ウ 就 労	1 仕事が続かない・転職が多かった	28.1	18.1	47.8	108.00**	18.5	14.9	0.66ns
	2 雇い主との関係が悪かった	8.9	7.7	11.3	3.98*	7.9	5.7	0.52ns
	3 職場の同僚との関係が悪かった	11.5	7.4	19.6	36.13**	8.1	2.3	3.75ns
	4 仕事の知識や技能の不足	9.8	7.4	14.5	14.13**	7.5	6.9	0.04ns
	5 仕事をやる気の不足	19.5	13.3	31.7	53.32**	13.4	12.6	0.04ns
	6 その他	4.1	3.2	5.9	4.80*	3.1	3.4	0.03ns
	7 特に問題なかった	33.6	35.5	29.8	3.52ns	37.0	24.1	5.55*
エ 交 友	1 非行や犯罪をする友人や知人がいた	57.8	60.1	53.2	4.83*	59.6	64.4	0.74ns
	2 非行や犯罪をする人の誘惑	42.3	41.5	43.8	0.54ns	43.7	25.3	10.70**
	3 暴走族、ギャング、暴力団等に関係	20.8	13.6	34.9	68.45**	12.8	19.5	3.01ns
	4 まじめな友人や知人があまりいない	29.4	30.7	26.9	1.72ns	29.4	40.2	4.23*
	5 助けてくれる友人や知人がいない	17.5	14.8	22.8	11.07**	14.9	13.8	0.08ns
	6 その他	3.1	2.5	4.3	2.78ns	2.8	0.0	2.50ns
	7 特に問題なかった	24.8	25.3	23.7	0.38ns	25.8	21.8	0.64ns
オ 薬 物 等	1 飲酒の習慣化による生活の乱れ	9.3	7.7	12.6	7.16**	6.4	17.2	12.77**
	2 飲酒時に喧嘩等のトラブルがあった	11.2	7.3	18.8	33.19**	7.6	4.3	1.04ns
	3 時々薬物を使用していた	11.2	3.8	25.5	117.05**	3.0	10.3	11.35**
	4 薬物をやめられなくなっていた	6.4	1.2	16.7	97.38**	1.1	2.3	0.92ns
	5 薬物入手のため非行や犯罪をした	4.1	0.8	10.5	58.73**	0.9	0.0	0.82ns
	6 その他	1.5	1.2	1.9	0.73ns	1.1	2.3	0.92ns
	7 特に問題なかった	69.1	77.3	53.0	68.11**	78.7	66.7	6.31*
カ 余 暇	1 部活動やクラブ活動に不参加	14.1	15.6	11.0	4.31*	15.4	17.2	0.20ns
	2 趣味等打ち込めるものがない	22.5	23.2	21.2	0.52ns	22.4	28.7	1.73ns
	3 退屈してぶらぶらして過ごしていた	43.7	45.2	40.9	1.89ns	43.9	55.2	3.96*
	4 ゲームばかりしていた	17.6	17.9	16.9	0.17ns	19.1	9.2	5.14*
	5 賭け事やギャンブルが多かった	23.1	15.3	38.4	73.92**	16.6	5.7	7.00**
	6 その他	4.3	4.8	3.2	1.49ns	4.7	5.7	0.20ns
	7 特に問題なかった	29.1	29.9	27.7	0.57ns	30.3	26.4	0.55ns
キ 生 活	1 遊び中心で生活が乱れていた	61.5	63.2	58.3	2.42ns	61.6	74.7	5.67*
	2 金づかいが荒かった	45.8	38.4	60.5	48.60**	37.9	41.4	0.38ns
	3 ローンや借金が多かった	12.3	4.5	27.4	120.20**	5.0	1.1	2.60ns
	4 決まった所で暮らしていない	15.9	13.8	19.9	6.77**	12.1	26.4	13.16**
	5 ひきこもりがちだった	7.5	6.4	9.7	3.71ns	6.1	9.2	1.25ns
	6 その他	2.8	2.7	3.0	0.04ns	3.0	1.1	0.94ns
	7 特に問題なかった	18.7	22.1	12.1	16.08**	23.0	14.9	2.91ns
ク 性 格	1 すぐかっとなりやすかった	34.8	35.1	34.1	0.09ns	34.7	37.9	0.36ns
	2 我慢が足りなかった	68.3	62.7	79.3	31.23**	62.2	66.7	0.65ns
	3 落ち着きがなかった	43.9	44.1	43.5	0.03ns	44.2	43.7	0.01ns
	4 刺激やスリルが好きだった	30.4	27.5	36.0	8.39**	28.3	21.8	1.61ns
	5 悪いことで目立ちたかった	20.1	18.4	23.4	3.89*	18.8	14.9	0.77ns
	6 その他	9.2	8.8	9.9	0.41ns	8.7	9.2	0.02ns
	7 特に問題なかった	7.5	8.4	5.9	2.11ns	8.6	6.9	0.28ns
ケ 態 度	1 規則や注意を軽く考えていた	66.9	64.5	71.5	5.43*	64.1	67.8	0.47ns
	2 大人や社会に反発していた	31.3	30.5	32.8	0.58ns	28.8	43.7	8.03**
	3 つかまってもあまり反省しなかった	19.5	12.1	34.1	76.54**	12.4	9.2	0.76ns
	4 困っていても助けてもらおうとしなかった	35.3	30.4	44.9	22.63**	30.2	32.2	0.15ns
	5 他人の気持ちや迷惑に関心が不足	49.3	43.2	61.3	32.44**	43.7	39.1	0.67ns
	6 その他	2.9	2.3	4.0	2.54ns	2.5	1.1	0.60ns
	7 特に問題なかった	8.4	9.7	5.9	4.63*	10.1	6.9	0.90ns

注 1 「選択率」は、総数、非行少年及び若年犯罪者の各調査対象人員に占める各項目選択者の比率である。

2 「ウ 就労」領域では、就労経験のある者のみに回答を求めた。

3 () 内は、実人員である。

4 表中太字は、調整済み残差が+2.0以上のセルを示す。

また、非行少年を男女別に見ると、全般的には、選択率に男女の差の認められる項目は比較的少ない。女子において、学校領域において欠席やさぼりを選択する者が半数を超え、対生徒関係の悪さを選択する者の割合が高いこと、交友関係領域で男子では非行や犯罪の誘惑となる交友関係を選択する者の割合が高いのに対し、女子では、向社会的な交友関係の不足を選択する者の割合が高いこと、女子の方が飲酒・薬物問題への関与を選択する者の割合が高く、生活基盤も不安定になっていること、大人や社会に対する反発が大きいことを選択する者が多いことなどの特徴が見られる。

同様に、若年犯罪者について見ると、「我慢が足りなかった」(79.3%, 性格), 「規則や注意を軽く考えていた」(71.5%, 態度), 「他人の気持ちや迷惑に関心が不足」(61.3%, 態度), 「金づかいが荒かった」(60.5%, 生活), 「遊び中心で生活が乱れていた」(58.3%, 生活)などの順となり、「特に問題がなかった」の選択率が低い領域も非行少年と同様な傾向にある。すなわち、非行少年と若年犯罪者ではいずれも、耐性の弱さや規範軽視等の資質面の問題、生活管理上の問題、不良交友の問題が非行・犯罪に影響したと自己認識する者が多く、これらが多数の者に該当する課題領域であることが示唆される。

一方、非行少年と若年犯罪者の違いを見ると、若年犯罪者では、家庭領域においては、家族の愛情不足や関係の悪さ等の問題を選択する者の割合が有意に高く、家庭的な負因の影響が大きいと認める者が多いことがうかがえる。同様に、就労領域では、就労の継続や就労意欲の不足等の選択率が有意に高く、薬物等の領域では、飲酒にまつわる問題や薬物の使用・乱用等の選択率が有意に高く、交友の領域で暴力団等の不良集団との関わりの問題を選択する者が3分の1強にも及び、余暇や生活管理の領域では、ギャンブルや借金の問題を選択する者が比較的多いこと、不良交友や遊びを中心とした生活の中で就労生活の維持に大きな課題を抱えているなど、多様な領域で多様な課題を抱えていることがうかがえる。

3-1-2表は、非行少年の回答を保護処分歴別に見たものである。全般的な傾向を見ると、どの領域においてもおおむね少年院送致、保護観察、処分歴なしの順に選択率が高くなっており、保護処分を受けた経験のある者の方が主観的なレベルでも多様な問題に関与していると自己認識している。少年院送致経験のある者では、何らかの家庭的な問題の関与を認める者が6割に及び、学校領域における何らかの問題の関与を認めるものが8割にも及ぶなど、家庭的な負因や学校不適応の影響を認める者が多い。また、就労の領域では、転職、職場内対人関係、知識・技能不足、意欲不足といった問題の関与を認める者が少年院送致歴を有する者では比較的多く、交友関係の質、薬物等にまつわる問題、余暇の過ごし方、金銭浪費等の生活習慣などでも問題があるとする者の割合が高い。

3-1-2表 非行少年 リスク領域別項目選択率（保護処分歴別）

リスク領域・項目		総 数 (715)	保護処分歴 なし (463)	保護観察 (180)	少年院送致 (72)	χ^2 検定
ア 家 庭	1 家族の愛情や関わりが不足	15.9	14.0	16.7	26.4	7.19*
	2 家族関係が悪かった	16.6	14.5	17.8	27.8	8.18*
	3 家族からの暴力	7.0	4.8	7.2	20.8	24.80**
	4 親の世話やしつけが良くなかった	6.6	4.5	7.8	16.7	15.50**
	5 何でも自分の思うようにできた	20.4	20.1	18.9	26.4	1.87ns
	6 その他	9.0	9.7	7.2	8.3	1.03ns
	7 特に問題なかった	52.6	55.9	48.9	40.3	7.45*
イ 学 校	1 勉強が分らない・つまらない	40.1	36.9	42.8	54.2	8.40*
	2 欠席やさぼりが多かった	40.1	37.6	46.1	41.7	4.00ns
	3 先生とのトラブル	24.1	22.9	19.4	43.1	16.66**
	4 生徒との関係の悪さ	14.7	14.5	10.0	27.8	13.02**
	5 中退したこと	20.4	18.8	23.9	22.2	2.23ns
	6 その他	3.5	3.5	2.8	5.6	1.18ns
	7 特に問題なかった	26.7	28.7	24.4	19.4	3.37ns
ウ 就 労	1 仕事が続かない・転職が多かった	17.9	13.8	23.3	30.6	16.70**
	2 雇い主との関係が悪かった	7.3	6.5	8.3	9.7	1.37ns
	3 職場の同僚との関係が悪かった	7.0	3.2	11.7	19.4	33.24**
	4 仕事の知識や技能の不足	7.3	5.0	11.1	12.5	10.50**
	5 仕事をやる気の不足	13.1	9.3	17.2	27.8	22.16**
	6 その他	3.1	3.0	2.8	4.2	0.35ns
	7 特に問題なかった	35.9	36.3	34.4	37.5	0.28ns
エ 交 友	1 非行や犯罪をする友人や知人がいた	60.0	55.9	67.2	68.1	9.04**
	2 非行や犯罪をする人の誘惑	41.5	36.9	45.0	62.5	17.96**
	3 暴走族、ギャング、暴力団等に関係	13.8	10.4	17.8	26.4	16.53**
	4 まじめな友人や知人があまりいない	30.5	27.4	36.1	36.1	5.80ns
	5 助けてくれる友人や知人がいない	15.0	11.2	18.9	29.2	18.66**
	6 その他	2.4	2.2	2.2	4.2	1.11ns
	7 特に問題なかった	25.5	28.3	21.1	18.1	5.83ns
オ 薬 物 等	1 飲酒の習慣化による生活の乱れ	7.7	6.5	8.3	13.9	4.96ns
	2 飲酒時に喧嘩等のトラブルがあった	7.0	4.1	8.9	20.8	28.14**
	3 時々薬物を使用していた	3.9	3.0	3.3	11.1	11.05**
	4 薬物をやめられなくなっていた	1.3	0.6	0.6	6.9	20.83**
	5 薬物入手のため非行や犯罪をした	0.8	0.4	0.0	5.6	21.69**
	6 その他	1.3	1.3	1.1	1.4	0.05ns
	7 特に問題なかった	77.5	81.2	75.0	59.7	17.34**
カ 余 暇	1 部活動やクラブ活動に参加	15.2	14.9	13.3	22.2	3.26ns
	2 趣味等打ち込めるものがない	22.9	20.7	26.7	27.8	3.64ns
	3 退屈してぶらぶらして過ごしていた	44.9	41.0	49.4	58.3	9.55**
	4 ゲームばかりしていた	17.2	16.6	16.1	23.6	2.33ns
	5 賭け事やギャンブルが多かった	15.1	12.1	16.7	30.6	17.02**
	6 その他	4.8	4.8	3.9	6.9	1.06ns
	7 特に問題なかった	30.2	33.0	27.2	19.4	6.49*
キ 生 活	1 遊び中心で生活が乱れていた	63.4	63.9	64.4	56.9	1.43ns
	2 金づかいが荒かった	38.3	33.9	45.6	48.6	11.02**
	3 ローンや借金が多かった	4.6	3.5	4.4	12.5	11.59**
	4 決まった所で暮らしていない	13.6	12.1	15.6	18.1	2.70ns
	5 ひきこもりがちだった	6.4	5.8	6.7	9.7	1.59ns
	6 その他	2.7	2.6	2.8	2.8	0.02ns
	7 特に問題なかった	22.1	24.4	16.7	20.8	4.58ns
ク 性 格	1 すぐかっとなりやすかった	34.5	31.1	37.2	50.0	10.60**
	2 我慢が足りなかった	62.2	60.3	64.4	69.4	2.74ns
	3 落ち着きがなかった	43.6	41.0	47.8	50.0	3.71ns
	4 刺激やスリルが好きだった	27.6	26.3	27.8	34.7	2.19ns
	5 悪いことで目立ちたかった	18.3	16.0	19.4	30.6	9.05*
	6 その他	9.0	8.6	8.9	11.1	0.47ns
	7 特に問題なかった	8.5	9.9	5.6	6.9	3.44ns
ケ 態 度	1 規則や注意を軽く考えていた	64.3	65.7	63.9	56.9	2.08ns
	2 大人や社会に反発していた	30.2	30.9	25.6	37.5	3.77ns
	3 つかまってもあまり反省しなかった	11.9	8.2	16.1	25.0	20.87**
	4 困っていても助けてもらおうとしなかった	30.1	25.5	33.3	51.4	21.10**
	5 他人の気持ちや迷惑に関心が不足	42.9	41.9	43.3	48.6	1.16ns
	6 その他	2.4	1.9	1.1	8.3	12.62**
	7 特に問題なかった	9.9	10.4	10.6	5.6	1.72ns

- 注 1 「選択率」は、総数、各保護処分歴別の調査対象人員に占める各項目選択者の比率である。
2 「ウ 就労」領域では、就労経験のある者のみに回答を求めた。
3 () 内は、実人員であり、総数には児童自立支援施設等送致歴のみを有する者を含まない。
4 表中太字は、調整済み残差の絶対値が2.0以上のセルを示す。

3-1-3表は、若年犯罪者について少年時の保護処分歴別の回答状況を見たものである。

3-1-3表 若年犯罪者 リスク領域別項目選択率（保護処分歴別）

リスク領域・項目		総数 (368)	保護処分歴 なし (164)	保護観察 (90)	少年院送致 (114)	χ^2 検定
ア 家庭	1 家族の愛情や関わりが不足	27.7	26.2	21.1	35.1	5.24ns
	2 家族関係が悪かった	31.0	28.7	26.7	37.7	3.62ns
	3 家族からの暴力	12.8	10.4	10.0	18.4	4.74ns
	4 親の世話やしつけが良くなかった	14.7	15.9	6.7	19.3	6.74*
	5 何でも自分の思うようにできた	26.6	26.2	27.8	26.3	0.08ns
	6 その他	12.5	12.8	14.4	10.5	0.73ns
	7 特に問題なかった	32.9	33.5	34.4	30.7	0.38ns
イ 学校	1 勉強が分からない・つまらない	45.1	35.4	47.8	57.0	13.08**
	2 欠席やさぼりが多かった	42.7	28.7	48.9	57.9	25.39**
	3 先生とのトラブル	19.8	13.4	16.7	31.6	14.71**
	4 生徒との関係の悪さ	12.5	11.6	7.8	17.5	4.61ns
	5 中退したこと	28.0	26.2	32.2	27.2	1.09ns
	6 その他	5.7	6.1	3.3	7.0	1.35ns
	7 特に問題なかった	25.3	34.1	23.3	14.0	14.64**
ウ 就労	1 仕事が続かない・転職が多かった	47.6	43.3	43.3	57.0	5.93ns
	2 雇い主との関係が悪かった	11.1	9.1	12.2	13.2	1.23ns
	3 職場の同僚との関係が悪かった	19.6	20.1	11.1	25.4	6.62*
	4 仕事の知識や技能の不足	14.4	11.0	13.3	20.2	4.73ns
	5 仕事をやる気の不足	31.5	31.1	27.8	35.1	1.27ns
	6 その他	6.0	4.9	3.3	9.6	4.21ns
	7 特に問題なかった	29.9	32.3	32.2	24.6	2.24ns
エ 交友	1 非行や犯罪をする友人や知人がいた	53.0	37.2	56.7	72.8	34.89**
	2 非行や犯罪をする人の誘惑	44.0	34.8	42.2	58.8	15.90**
	3 暴走族、ギャング、暴力団等に関係	35.1	22.0	43.3	47.4	22.67**
	4 まじめな友人や知人があまりいない	26.6	19.5	24.4	38.6	12.83**
	5 助けてくれる友人や知人がいない	22.8	26.8	14.4	23.7	5.13ns
	6 その他	4.3	3.0	4.4	6.1	1.55ns
	7 特に問題なかった	23.9	32.3	24.4	11.4	16.19**
オ 薬物等	1 飲酒の習慣化による生活の乱れ	12.5	14.6	7.8	13.2	2.56ns
	2 飲酒時に喧嘩等のトラブルがあった	18.8	12.2	14.4	31.6	18.04**
	3 時々薬物を使用していた	25.5	17.7	30.0	33.3	9.91**
	4 薬物をやめられなくなっていた	23.3	9.1	23.3	21.9	11.88**
	5 薬物入手のため非行や犯罪をした	10.3	4.3	14.4	15.8	11.82**
	6 その他	1.9	0.6	1.1	4.4	5.54ns
	7 特に問題なかった	53.3	64.6	50.0	39.5	17.61**
カ 余暇	1 部活動やクラブ活動に不参加	11.1	6.7	13.3	15.8	6.18*
	2 趣味等打ち込めるものがない	21.5	18.3	21.1	26.3	2.58ns
	3 退屈してぶらぶらして過ごしていた	41.3	38.4	43.3	43.9	1.03ns
	4 ゲームばかりしていた	16.6	19.5	11.1	16.7	2.97ns
	5 賭け事やギャンブルが多かった	38.3	34.8	43.3	39.5	1.90ns
	6 その他	3.3	4.3	2.2	2.6	0.98ns
	7 特に問題なかった	28.0	27.4	28.9	28.1	0.06ns
キ 生活	1 遊び中心で生活が乱れていた	57.9	51.2	54.4	70.2	10.49**
	2 金づかいが荒かった	60.3	51.8	62.2	71.1	10.56**
	3 ローンや借金が多かった	27.7	31.7	20.0	28.1	3.99ns
	4 決まった所で暮らしていない	19.3	17.7	12.2	27.2	7.73*
	5 ひきこもりがちだった	9.2	12.2	6.7	7.0	3.09ns
	6 その他	3.0	4.3	3.3	0.9	2.72ns
	7 特に問題なかった	12.2	14.6	13.3	7.9	2.98ns
ク 性格	1 すぐかっとなりやすかった	34.0	27.4	28.9	47.4	13.28**
	2 我慢が足りなかった	79.1	74.4	81.1	84.2	4.22ns
	3 落ち着きがなかった	43.5	36.0	42.2	55.3	10.26**
	4 刺激やスリルが好きだった	35.9	31.1	31.1	46.5	8.01*
	5 悪いことで目立ちたかった	23.4	12.8	21.1	40.4	28.83**
	6 その他	10.1	14.0	7.8	6.1	5.31ns
	7 特に問題なかった	6.0	8.5	5.6	2.6	4.21ns
ケ 態度	1 規則や注意を軽く考えていた	71.2	65.2	72.2	78.9	6.22*
	2 大人や社会に反発していた	32.6	25.0	26.7	48.2	18.45**
	3 つかまってもあまり反省しなかった	34.0	22.0	33.3	51.8	26.65**
	4 困っていても助けてもらおうとしなかった	45.1	43.3	40.0	51.8	3.20ns
	5 他人の気持ちや迷惑に関心が不足	61.1	58.5	54.4	70.2	6.08*
	6 その他	4.1	3.0	3.3	6.1	1.81ns
	7 特に問題なかった	6.0	5.5	10.0	3.5	3.90ns

注 1 「選択率」は、総数及び各保護処分歴別の調査対象人員に占める各項目選択者の比率である。
2 「ウ 就労」領域では、就労経験のある者のみに回答を求めた。
3 () 内は、実人員であり、総数には児童自立支援施設等送致歴のみを有する者を含まない。
4 表中太字は、調整済み残差の絶対値が2.0以上のセルを示す。

処分歴別の差異では、学校領域において、少年院送致歴を有する者の約6割が学業に意欲を無くし、欠席等の問題に及んでいるのに対し、処分歴なしの者では学校不適応の状況にあった者は比較的少なかったと見られる。また、不良交友関係の領域で、少年院送致歴を有する者は、非行や犯罪に関わりの深い交友関係が濃密であり、飲酒や薬物の関連する問題にも深入りしていると見られること、生活も遊びを中心とする享乐的なものに傾き、性格行動、態度の面でも多くの問題に該当する者が増えていることなど、全般に問題が深刻化していることがうかがえる。

(3) リスク領域合計得点

3-1-4図①は、各領域の1から6までの選択肢を、一つの選択肢につき1点に換算した上、各領域別に算定した得点の合計値（平均値で表示）を見たものであり、3-1-4図②は、全領域の総得点を保護処分歴別に見たものである。得点の高低は、各領域における問題の主観的な多寡を反映していると考えられる⁴。

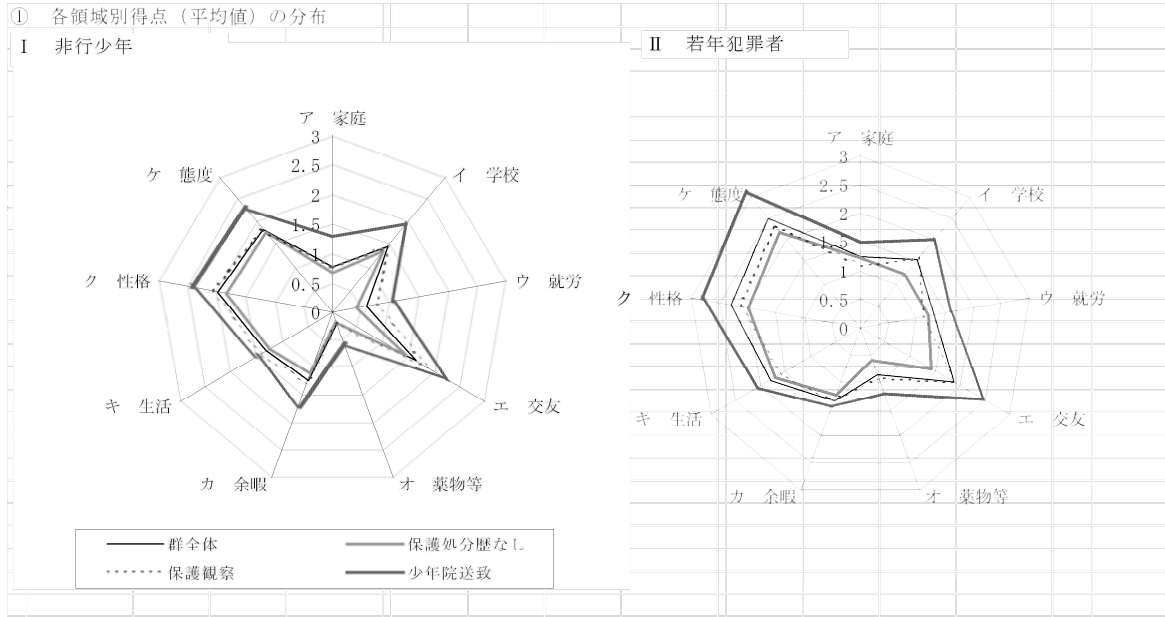
まず、非行少年と若年犯罪者を全体として見ると、非行少年（全体）では、性格（1.97）、態度（1.83）、交友（1.63）、学校（1.44）、生活管理（1.29）の順で領域別得点が高く、同様に若年犯罪者（全体）では、態度（2.49）、性格（2.26）、交友（1.86）、生活管理（1.79）、学校（1.54）の順で領域別得点が高い。若年犯罪者は、学校及び余暇の領域を除く全ての領域で領域別得点が有意に高く、総得点でも非行少年が約11点、若年犯罪者が約15点と、平均して約4pt（約4項目分）の差があり、若年犯罪者では本人の抱える問題が拡大していることが推察される。

一方、保護処分歴別に見ると、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても保護処分歴なし、保護観察歴、少年院送致歴の順に総得点が上昇する傾向が認められるが、領域別では多重比較による統計的有意差は、少年院送致歴を有する者とそれ以外の者との間に生じており、少年期の非行性が進むに従い、総じて多様な領域に問題が拡大していく傾向が認められる。

なお、3-1-4図においては、男女別の検討結果は掲載していないが、非行少年について男女間に有意差が認められた領域は、薬物（男子0.20、女子0.37、 $F=6.01^*$ ）及び生活（男子1.26、女子1.54、 $F=6.01^*$ ）であり、この2領域で女子の方が主観的に問題を認める者が有意に多いが、その他の領域には有意差はなく、主観的なリスクの面では、少年鑑別所に収容される非行少年では、男子も女子もほぼ同等な水準にあると考えられる。

4 バージェスの再犯予測研究等、初期のリスクアセスメントでは、この例のようにリスク因子の該当数を加算する方式を採ってきた。近年のツールは多変量解析を用いて、リスク因子に重みづけを行っているものが多いが、ここでは各領域の問題の主観的該当数を把握するため単純加算方式で検討を行っている。

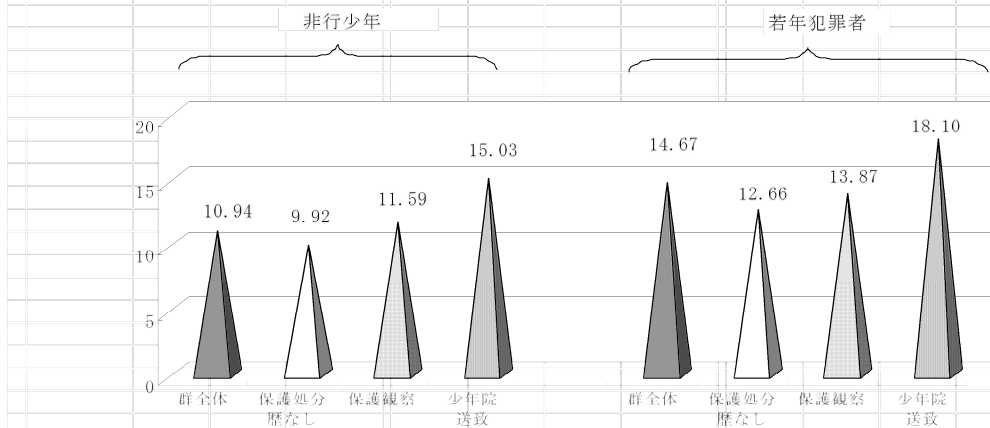
3-1-4図 非行・犯罪のリスク領域別の原因認識
(非行少年・若年犯罪者別・保護処分歴別)



<領域別得点の平均値・一元配置分散分析結果>

領域	非行少年・若年犯罪者別			I 非行少年保護処分歴別				II 若年犯罪者保護処分歴別				領域
	I 少年全体 (730)	II 若年全体 (372)	F 値	処分歴なし (463)	保護観察 (180)	少年院送致 (72)	F 値	処分歴なし (164)	保護観察 (90)	少年院送致 (114)	F 値	
ア 家庭	0.77	1.24	43.11**	0.68	0.76	1.26	9.90**	1.20	1.07	1.47	2.98ns	ア 家庭
イ 学校	1.44	1.54	1.54ns	1.34	1.45	1.94	7.39**	1.21	1.57	1.98	13.00**	イ 学校
ウ 就労	0.57	1.31	119.63**	0.41	0.74	1.04	19.08**	1.20	1.11	1.61	5.58**	ウ 就労
エ 交友	1.63	1.86	6.45*	1.44	1.87	2.26	15.65**	1.43	1.86	2.47	17.32**	エ 交友
オ 薬物等	0.22	0.86	142.16**	0.16	0.22	0.60	17.35**	0.59	0.91	1.20	9.70**	オ 薬物等
カ 余暇	1.22	1.32	1.71ns	1.10	1.26	1.69	8.79**	1.22	1.34	1.45	1.36ns	カ 余暇
キ 生活	1.29	1.79	54.99**	1.22	1.39	1.49	3.47*	1.69	1.59	2.04	5.15**	キ 生活
ク 性格	1.97	2.26	12.16**	1.83	2.06	2.46	8.21**	1.96	2.12	2.80	13.11**	ク 性格
ケ 態度	1.83	2.49	62.13**	1.74	1.83	2.28	5.77**	2.17	2.30	3.07	16.23**	ケ 態度
ア～ケ合計	10.94	14.67	72.93**	9.92	11.59	15.03	22.25**	12.66	13.87	18.10	20.25**	合計

② 全領域の総得点（平均値）

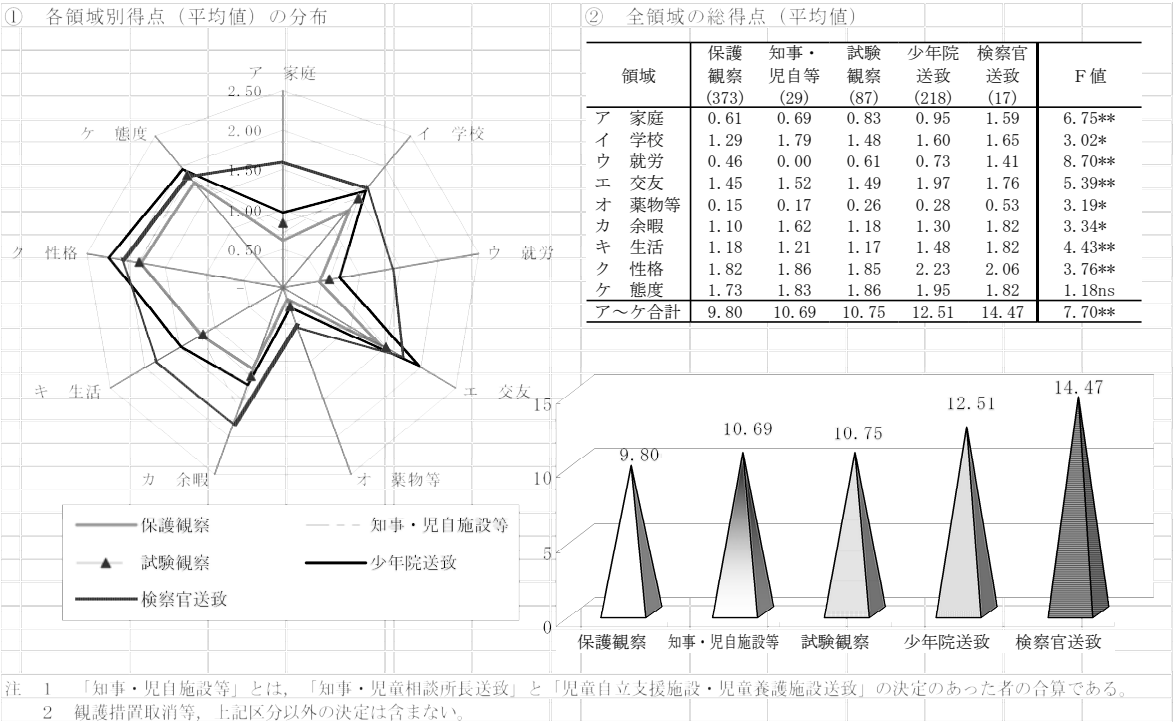


注 1 複数の保護処分歴を有する場合は、少年院送致、保護観察の順に最も先に該当するものに計上している。
2 「群全体」は、児童自立支援施設等送致歴のみを有する者を含む。
3 一元配置分散分析で有意差が認められたセルを網掛け及び下線で示す（多重比較はボンフェローニ法による。）。

(4) リスク領域得点と審判決定との関係

3-1-5図は、非行少年のリスク領域における自己評定の平均値を、本調査の実施後に行われた少年審判の審判決定結果別に見たものである⁵。全体として見ると、自己評定の結果は、保護観察処分を受けた者が最も低く、少年院送致や検察官送致の決定を受けた者で高くなっており、統計的有意差が認められる。また、領域別の選択率も、態度領域（この領域では、どの審判決定区分の者も、おおむね2つ程度の問題に該当すると自己認識している。）を除き、どの領域についても統計的な有意差が認められ、少年院送致や検察官送致となった者では、主観的なレベルでも多様な問題を抱えていると自己認識されている。このことから、今回の質問のように構造的に質問に回答させる調査を行えば、主観的なレベルでも、どの程度の介入が必要とされるかを大まかに把握することが可能と考えられ、自己評価は、第三者評定によるリスクアセスメントを補助する手段にもなり得ることが期待される。

3-1-5図 非行のリスク領域別の原因認識（非行少年・審判決定別）



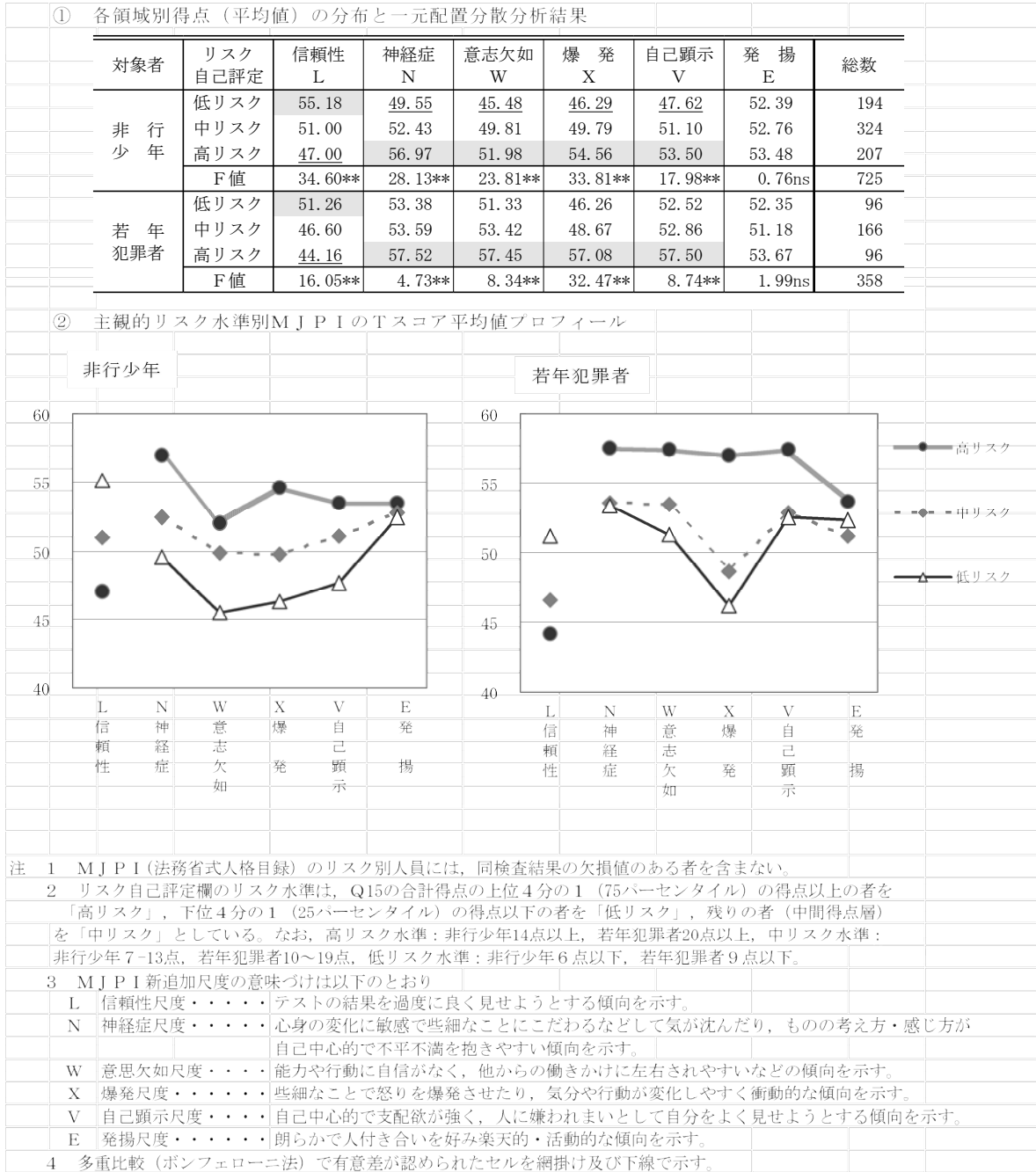
(5) 主観的リスク水準と性格特徴との関係

3-1-6図は、Q15の全リスク領域の自己評定の該当項目数（ア～ケ）の合計値を、非行少年・若年犯罪者別の得点分布に応じ、低リスク（最低点からおおむね下位25%の者

5 本調査は、少年鑑別所で行う資質鑑別業務とは独立に自由時間等に任意で行われたものであり、調査実施施設の資質鑑別業務や鑑別判定に本調査の情報は全く利用されていない。

が含まれる得点域)、中リスク(中間的な得点層おおむね50%の者が含まれる得点域)、高リスク(最高点からおおむね上位25%の者が含まれる得点域)の3群に分け、各群の法務省式人格目録(MJPI)の新追加尺度のT得点の平均値の分布を見たものである⁶。

3-1-6図 主観的リスク評定とMJPIの関係(非行少年・若年犯罪者別)



6 通常のリスクアセスメントのリスク水準分けでは、再犯率等の外的基準に基づいてカットオフポイントが設定されるが、このリスク区分の分類は、便宜的にパーセンタイルランクを基準にして3分割したものである。

まず、信頼性尺度（L）について見ると、非行少年、若年犯罪者の双方について、低リスク群は、高リスク群に比べ有意に得点が高い傾向が見られ、防衛的な態度が主観的リスク得点の低さに影響していることがうかがえる（なお、主観的リスク得点とM J P Iの信頼性尺度T得点との間には、関連性が弱いが負の有意な相関（非行少年 $r = -0.29^{**}$ 、若年犯罪者 $r = -0.30^{**}$ ）が見られた。）。つまり、リスク水準を自己評定する際には、防衛的傾向の高い者では、自己の問題を過少評価する傾向があることに留意する必要がある。このような自己評定をアセスメント等に使用する場合には、英国のOASys等の例に見るように第三者による評定との併用が望ましいと考えられる。

次に、M J P Iの新追加尺度の臨床尺度上の特徴を見ると、非行少年、若年犯罪者の双方について、発揚尺度（E）を除き神経症尺度（N）から自己顕示尺度（V）まで全ての尺度に主観的リスク水準による有意差が認められ、各種リスク領域において多様な問題を有していると自己評定した高リスク群の者は、概して情緒や気分が不安定性で、自分の行動に自信が持てず、他に安易に迎合したり、怒りの感情を容易に放出したり、自己中心的にふるまいやすいなど、資質的な偏りが大きい傾向にあることがうかがえる。

（6）主観的リスク水準と社会的態度の関係

3-1-7図は、各種リスク領域における問題性の主観的認知と社会的態度の関わりを検討するため、非行少年について主観的リスク水準3群（前記（5）参照）と法務省式態度検査（M J A T）のT得点の平均値プロフィールの関係を見たものである。

まず、検査の信頼性に関わる虚偽尺度について見ると、M J P Iの場合と同様に、リスク水準別の平均値に有意差が認められ、低リスク群では防衛的な反応傾向が比較的高いことが確認された（なお、主観的リスク得点と虚偽尺度T得点との相関は、 $r = -0.26^{**}$ であり、関連性は弱いが有意な負の相関が認められる。）。

自己評価から安逸までの臨床尺度に関しては、友達づきあいへの態度を測定する友人尺度を除いて、全ての尺度のT得点平均値に主観的リスク水準による有意差が認められ、主観的リスク水準に応じて社会的態度はかなり異なっている。多様な問題を多く抱えていると認識している高リスク群は、自己評価が低く、社会規範軽視的で、家庭や家族にも余り肯定的な感情を持っておらず、素行不良な者に親和的態度があり、暴力による問題解決や感情発散に肯定的で、刹那的な志向性も高い傾向にある。一方、低リスク群では、家庭や家族に対する親和性が高いことを始めとして、社会的逸脱を促進するような態度の偏りは比較的少ない状態にあるといえる。

3-1-7図 主観的リスク水準とMJATの関係（非行少年）



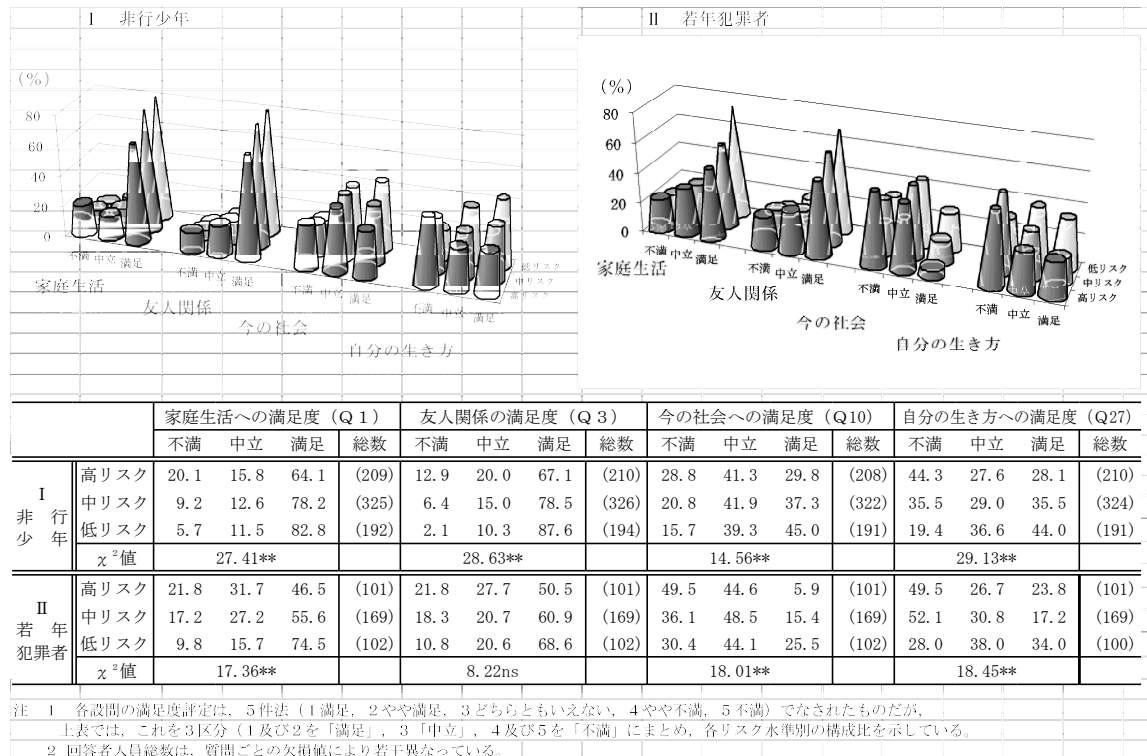
（7）主観的リスク水準と各種の満足感の関係

3-1-8図は、非行少年・若年犯罪者別に主観的リスク水準と各種の満足度（Q1家庭生活に対する満足度、Q3友人関係に対する満足度、Q10社会に対する満足度、及びQ27自分の生き方に対する満足度）の関係を見たものである。

非行少年においては、主観的リスク水準ごとの各満足度について有意差が認められ、各種の満足度は主観的リスク水準が低い者ほど高く、主観的リスク水準が高い者は各種領域に不満が大きいことがうかがえる。

若年犯罪者については、友人関係を除いて非行少年と同様に有意差が認められ、やはり主観的リスク水準が低い者は各種領域の満足度が高く、適応状況が比較的良好であることがうかがえる。

3-1-8図 主観的リスク水準と各種満足度の関係（非行少年・若年犯罪者別）



2 処分の重さに対する意識と処分後の態度

Q 17～21

Q 16で「ある（※保護観察，少年院送致，罰金，執行猶予又は実刑）」と答えた方にうかがいます。（何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。）

次の中から，ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 【Q 17～Q 21 共通】処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

- 1 軽い 2 適当 3 重い

イ 【Q 17：保護観察 Q 18：少年院】で指導を受けていたときの態度はどうでしたか。

- 1 まじめに指導を受け，立ち直ろうと努力していた。
2 まじめなときと，ふまじめになったときがあった。
3 あまりまじめに指導を受けなかった。

【Q 19：罰金後 Q 20：執行猶予中 Q 21：受刑中】の態度はどうでしたか。

- 1 まじめに生活し，立ち直ろうと努力していた。
2 まじめなときと，ふまじめになったときがあった。
3 あまりまじめに生活していなかった。

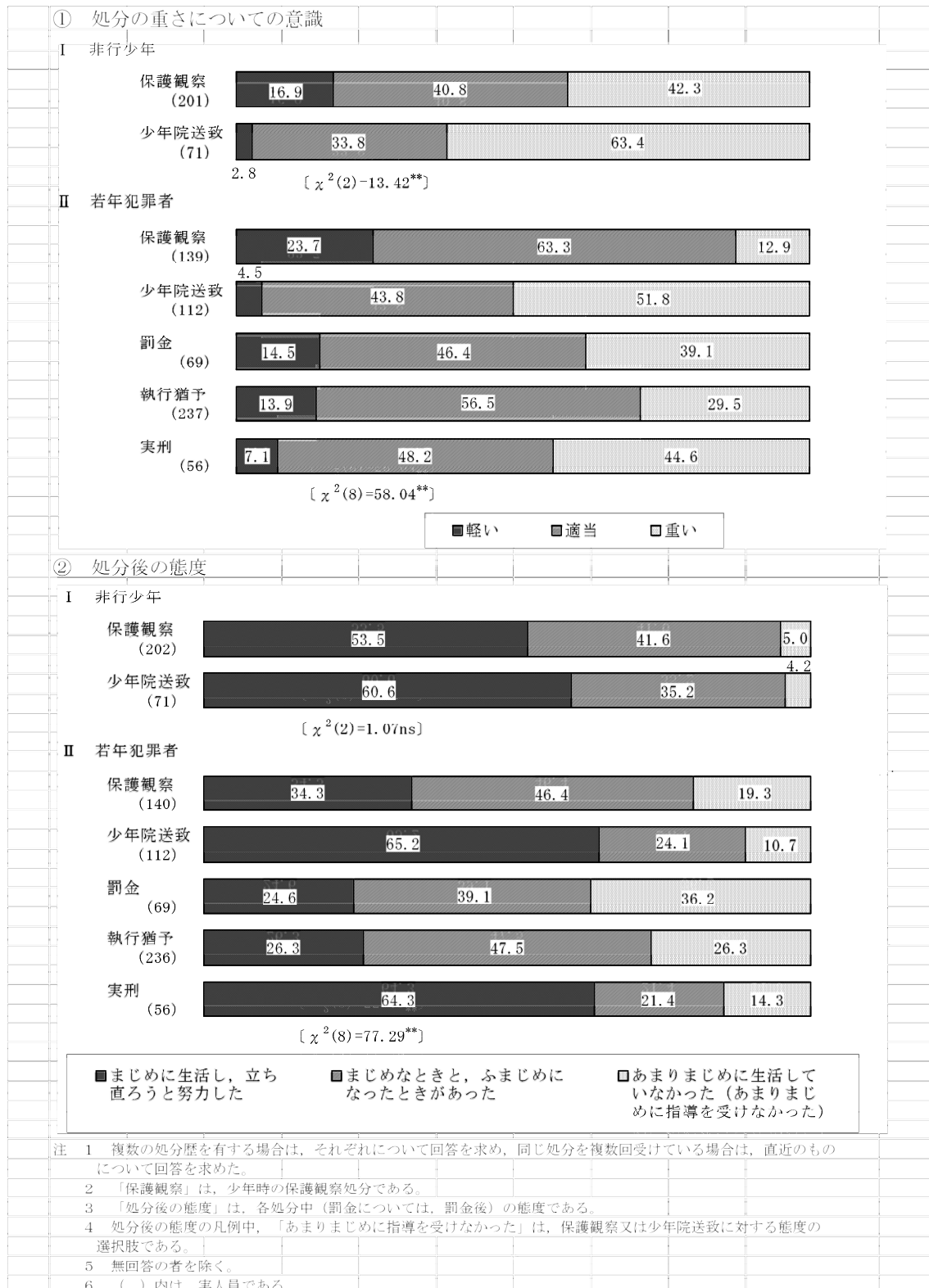
3-2-1-1図は，保護処分歴（児童自立支援施設・児童養護施設送致歴のみを有する者を除く。）又は刑事処分歴を有する者について，直近の各処分に対する意識と処分に対する態度についての回答状況を，非行少年・若年犯罪者別，処分別に見たものである。

処分に対する意識では，非行少年，若年犯罪者共に，保護観察については，処分を「軽い」と思った者の比率が高く，少年院送致及び実刑については，同比率が顕著に低い。

処分後の態度を見ると，非行少年では，受けた処分による態度の違いはそれほどなく，5割を超える者が，まじめに生活していたと回答しており，まじめに生活していなかったと回答した者の比率は5%以下であった。一方，若年犯罪者では，保護観察，罰金及び執行猶予については，まじめに生活していたと回答した者の比率が低く，少年院送致及び実刑については同比率が高かった。非行少年と若年犯罪者を比べると，同じ処分でも，保護

観察については、若年犯罪者の方が、まじめに指導を受けていなかったと回答する者の比率が顕著に高く ($\chi^2(2)=22.82^{**}$)、非行少年から若年犯罪者に移行する者には、少年時に処分を真摯に受けとめていなかった者が多いと考えられる。

3-2-1-1 図 処分の重さについての意識と処分後の態度（非行少年・若年犯罪者別・処分別）



少年院送致を受けた者について、少年院で指導を受けていたときの態度を入院回数別に見ると、3-2-1-2図のとおりである。非行少年，若年犯罪者共に，少年院送致歴が1回の者より2回以上の者の方が「あまりまじめに指導を受けなかった」と回答した者の比率が高く，処分を重ねると，処分により感銘を受けない者が増えてくることうかがえる。

3-2-1-2図 処分に対する態度（少年院入院回数別）



3 処分を受けて役に立ったことに関する認識

Q22 Q16で「(処分を受けたことが) ある(1～5)」と答えた方にうかがいます。
その(それらの)処分を受けてあなたの役にたったことは何ですか。
次の中から、あなたにあてはまるものをすべて選んで、○をつけてください。

- 1 処分の厳しさを知ったこと
- 2 社会のルールや責任を考えるようになったこと
- 3 非行や犯罪に陥るパターンが分かったこと
- 4 被害者や自分の与えた被害のことをよく考えるようになったこと
- 5 学業や仕事に関する知識や技能が高まったこと
- 6 学業や仕事の大切さが分かったこと
- 7 生活リズムや金銭の使い方が改善されたこと
- 8 自分の感情や考え方をうまくコントロールできるようになったこと
- 9 我慢強さや辛抱強さが向上したこと
- 10 他人の気持ちを考えて行動できるようになったこと
- 11 家族の大切さや家庭の中での役割が分かったこと
- 12 友達との適切なつきあい方が分かったこと
- 13 健康や体力が向上したこと
- 14 まじめになろうという気持ちが高まったこと
- 15 仕事をさがしたり、悪い仲間から抜けたりする手助けをしてもらったこと
- 16 その他

3-3-1図は、調査対象者のうち、保護処分歴（児童自立支援施設等送致歴のみを有する者を除く。）又は罰金以上の刑事処分歴を有する者について、処分を受けて役に立ったとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を見たものである（調査対象者の処分歴の詳細は、次頁参考参照）。非行少年・若年犯罪者の別に見ると（①参照）、非行少年の方が、若年犯罪者に比べて、各項目の選択率が総じて高い。また、非行少年について保護処分歴別に見ると（②参照）、保護観察歴を有する者よりも少年院送致歴を有する者の方が、各項目の選択率が高い。これは、少年院送致が施設内処遇であり、多方面にわたる集中的な指導が可能であることが影響していると考えられる。

若年犯罪者については、保護処分と刑事処分の両方を受けたことのある者がいることから、両処分を通じて最も重いものを「主要処分」（処分の重さは、実刑、執行猶予、罰金、少年院送致、保護観察の順により、複数の処分を受けている場合は、最も重い処分に計上している。）とし、その特徴を見た。まず、主要処分歴別に見ると（③ア参照）、「まじめ

になろうという気持ちが高まる」については、受けた処分にかかわらず選択率が高かったが、「学業や仕事に関する知識や技能が高まったこと」においては、主要処分が施設内処遇である少年院送致及び実刑の者の選択率が高かった。また、「我慢強さや辛抱強さが向上した」、「他人の気持ちを考えて行動できるようになったこと」及び「健康や体力が向上した」においては、主要処分が少年院送致である者の選択率が有意に高く、少年院における集団処遇や規則正しい生活の効果が認識されていることがうかがえた。

次に、保護処分による効果を除いて見るため、刑事処分歴のみを有する者について、主要処分歴別の選択状況を見ると（③イ参照）、主要処分が実刑である者（10人）において選択率が高かったのは、「まじめになろうという気持ちが高まる」、「処分の厳しさを知る」及び「被害者や被害のことをよく考える」であり、主要処分が執行猶予である者（90人）では、「まじめになろうという気持ちが高まる」、「処分の厳しさを知る」及び「社会のルールや責任について考える」であった。主要処分が罰金である者（3人）については、実人員が少ないものの、役に立ったことがあるとして選択された事項は、「まじめになろうという気持ちが高まる」のみであった。

【参考】 主要処分別保護処分歴・刑事処分歴（非行少年・若年犯罪者別）

① 非行少年

主要処分		保護観察歴あり [220]	
少年院送致	[72]	40	(55.6)
保護観察	[180]		

② 若年犯罪者

主要処分		保護観察歴あり [162]		少年院送致歴あり [112]		罰金歴あり [83]		執行猶予歴あり [247]	
実刑	[61]	34	(55.7)	29	(47.5)	19	(31.1)	41	(67.2)
執行猶予	[206]	92	(44.7)	59	(28.6)	53	(25.7)		
罰金	[11]	7	(63.6)	4	(36.4)				
少年院送致	[20]	12	(60.0)						
保護観察	[17]								

注 1 「主要処分」は、保護処分及び刑事処分を通じて最も重い処分をいう。処分の重さは、実刑、執行猶予、罰金、少年院送致及び保護観察の順による。

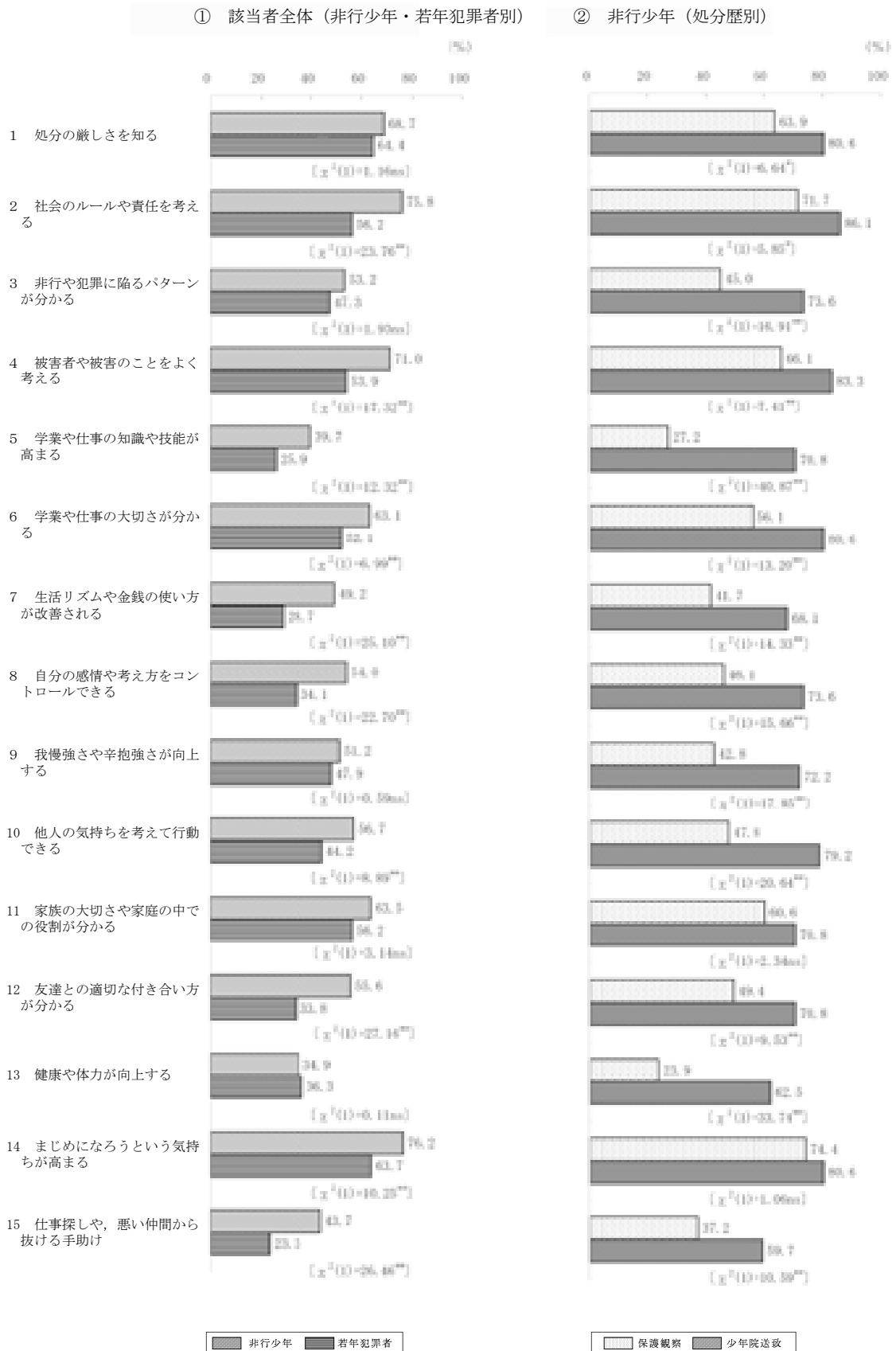
2 処分歴が不詳の者を除く。

3 複数の処分歴を有する場合、それぞれに計上している。

4 [] 内は、実人員である。

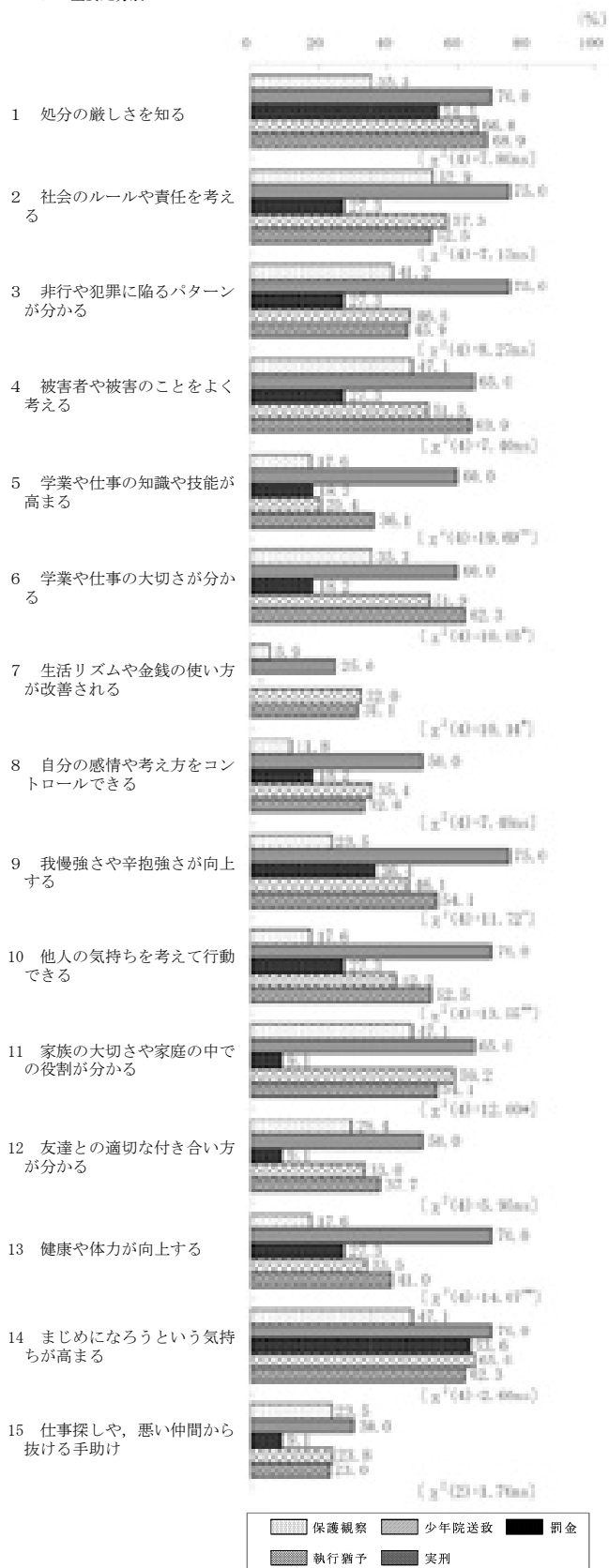
5 () 内は、主要処分該当人員に占める各処分人員の比率である。

3-3-1 図 処分を受けて役に立ったこと（非行少年・若年犯罪者別・処分歴別）

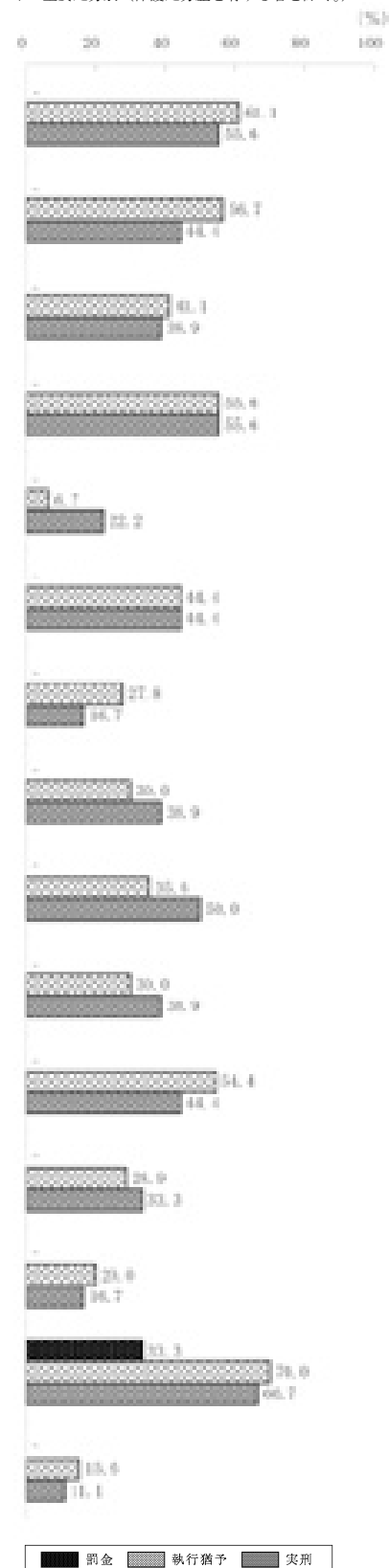


③ 若年犯罪者

ア 主要処分別



イ 主要処分別（保護処分歴を有する者を除く。）



注 1 「該当者」は、保護処分（保護観察又は少年院送致）又は刑事処分（罰金、執行猶予又は実刑）の各処分歴を有する者である。
 2 「主要処分」は、保護処分及び刑事処分を通じて最も重い処分をいう。処分の重さは、実刑、執行猶予、罰金、少年院送致及び保護観察の順による。
 3 上図「イ 主要処分別」は「罰金」区分のケース数が僅かなため統計的数字を割愛した。

4 再非行・再犯に及んだ要因に関する認識

Q23 Q16で、「(処分を受けたことが) ある(1～5)」と答えた方にうかがいます。

処分を受けたあとで、あなたがふたたび非行や犯罪をしてしまったのは、どんなことが影響していたと思いますか。

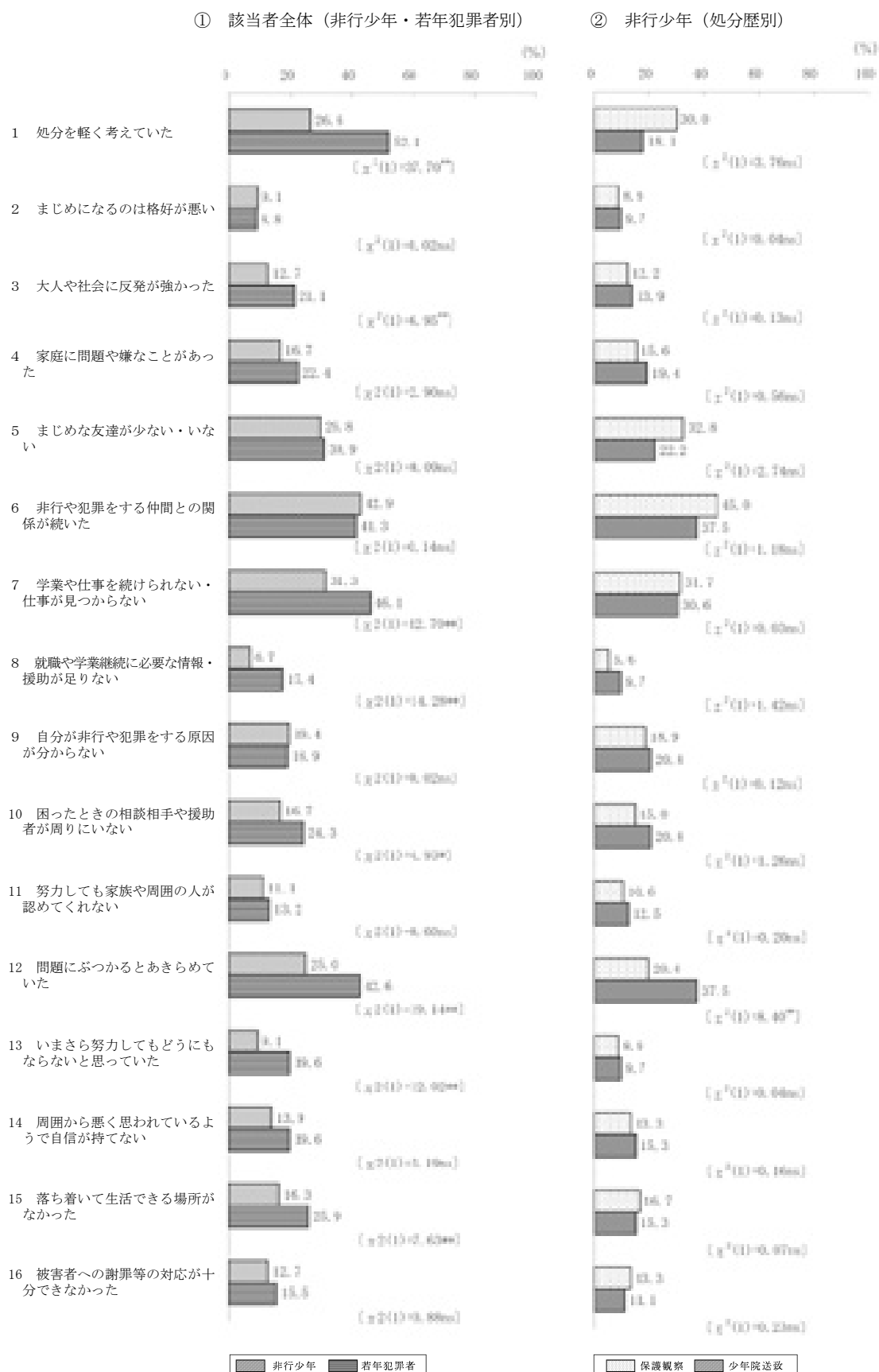
次の中から、あなたにあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

- 1 処分を軽く考えていたこと
- 2 まじめになるのは、格好が悪いと考えていたこと
- 3 大人や社会に反発が強かったこと
- 4 家庭に問題や嫌なことがあったこと
- 5 まじめな友達が少なかった・いなかったこと
- 6 非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと
- 7 学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかったこと
- 8 就職や学業を続けるために必要な情報や援助が足りなかったこと
- 9 自分が非行や犯罪をする原因が分からなかったこと
- 10 困ったときの相談相手や援助してくれる人が周りにいなかったこと
- 11 自分が努力しても、家族や周囲の人が認めてくれなかったこと
- 12 問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと
- 13 いまさら努力してもどうにもならないと思っていたこと
- 14 周囲から悪く思われているようで自信が持てなかったこと
- 15 自分が落ち着いて生活できる場所がなかったこと
- 16 被害者への謝罪などの対応が十分でなかったこと
- 17 その他

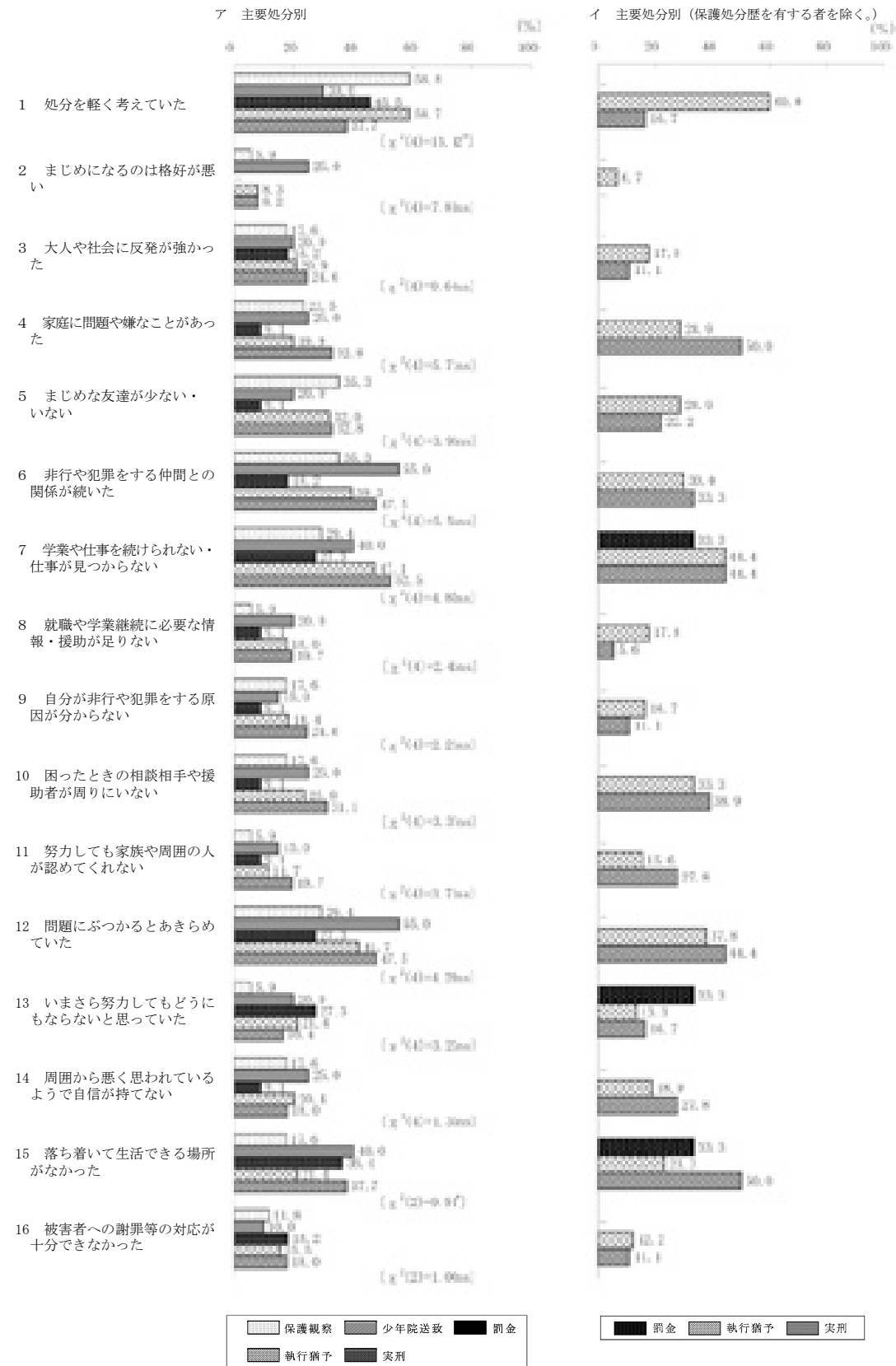
3-4-1図は、調査対象者のうち、保護処分歴（児童自立支援施設等送致歴のみを有する者を除く。）又は罰金以上の刑事処分歴を有する者について、再非行や再犯をした原因として各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を見たものである。

非行少年・若年犯罪者の別に見ると（①参照）、若年犯罪者は、非行少年に比べ、「処分を軽く考えていた」、「大人や社会に反発が強かった」、「学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかった」、「就職や学業を続けるために必要な情報や援助が足りなかった」、「困ったときの相談相手や援助してくれる人が周りにいなかった」、「問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていた」、「いまさら努力してもどうにもならないと思っていた」及び「自分が落ち着いて生活できる場所がなかった」において選択率が高かった。

3-4-1 図 再非行・再犯に及んだ要因についての認識（非行少年・若年犯罪者別・処分歴別）



③ 若年犯罪者



注 1 「該当者」は、保護処分（保護観察又は少年院送致）又は刑事処分（罰金、執行猶予又は実刑）の各処分歴を有する者である。

2 「主要処分」は、保護処分及び刑事処分を通じて最も重い処分をいう。処分の重さは、実刑、執行猶予、罰金、少年院送致及び保護観察の順による。

3 上図「イ 主要処分別」は「罰金」区分のケース数が僅かなため統計的数字を割愛した。

また、非行少年について保護処分歴別に見ると（②参照）、「問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと」において、少年院送致歴を有する者が保護観察歴のみを有する者に比べて選択率が高かった。

若年犯罪者について主要処分歴別に見ると（③ア参照）、「処分を軽く考えていたこと」において、主要処分が執行猶予であった者の選択率が有意に高かった。また、「自分が落ち着いて生活できる場所がなかったこと」においては、主要処分が実刑であった者の選択率が高く、執行猶予であった者の選択率が低かった。保護処分歴のない者について主要処分歴別に見ても（③イ参照）、「処分を軽く考えていたこと」において、処分が執行猶予であった者の選択率が顕著に高く、執行猶予については特に、処分の意義・重みを認識させる必要性が高いと考えられる。

次に、Q 17からQ 21の各イにおいて処分後の態度がまじめだった者とあまりまじめではなかった者の別に、選択率が高かった項目を見ると、3-4-2表のとおりである。処分後の態度にかかわらず、非行少年においては、不良交友が1位となっており、若年犯罪者においては、処分の受け止め方の甘さが1位となっていた。2位以下を見ると、非行少年において、まじめに指導を受けていた者では、処分を軽く考えていたことが2位となっており、あまりまじめに指導を受けなかった者では、まじめな友達が少なかったこと及び問題解決への諦めが同率2位であった。若年犯罪者においては、まじめに生活していた者では、問題解決への諦めが2位、あまりまじめに生活していなかった者では、不良交友が2位となっていた。

3-4-2表 処分に対する態度別再非行・再犯の原因認識

	非行少年				若年犯罪者			
	まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた [146]	選択率 (%)	あまりまじめに指導を受けなかった [13]	選択率 (%)	まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた [169]	選択率 (%)	あまりまじめに生活していなかった [94]	選択率 (%)
1位	非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと	39.0	非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと	76.9	処分を軽く考えていたこと	46.2	処分を軽く考えていたこと	66.0
2位	処分を軽く考えていたこと	26.0	まじめな友達が少なかったこと・いなかったこと	61.5	問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと	45.0	非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと	51.1
3位	まじめな友達が少なかったこと・いなかったこと	27.4	問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと	61.5	学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかったこと	43.8	学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかったこと	47.9
4位	学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかったこと	25.3	処分を軽く考えていたこと	46.2	非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと	39.1	問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと	41.5
5位	問題にぶつかるとうだめだとあきらめたりしていたこと	22.6	自分が非行や犯罪をする原因が分からなかったこと	46.2	まじめな友達が少なかったこと・いなかったこと	29.0	まじめな友達が少なかったこと・いなかったこと	39.4

注 1 若年犯罪者の「まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた」は、保護処分における「まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた」を含み、「あまりまじめに生活していなかった」は、保護処分における「まじめに指導を受けなかった」を含む。

2 [] 内は、Q18～Q21の各イに対する回答において、「まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた」又は「あまりまじめに指導を受けなかった」を選択した者の実人員である。

5 今後の生活や立ち直りに必要なこと

Q26 これからの生活で、あなたが非行や犯罪から立ち直るためにとても必要だと考える働きかけや援助にはどんなことがありますか。あなたの考えを下の欄に自由に書いてください。

（１）属性等

3-5-1表は、今後の生活や立ち直りに必要だと考える働きかけや援助についての自由記載を、内容別に分類し、非行少年・若年犯罪者別に見たものである。質問は、働きかけや援助を問うものであったが、実際の回答を見ると、自分自身の決意や人間関係に関する希望などが多かったことから、これらの事項も調査対象者のニーズとして取り上げることとした。

調査対象者のうち、無回答又は「特になし」と記載していた者は180人（16.3%）であり、何らかの事項を記載していた者は、非行少年616人（84.4%）、若年犯罪者306人（82.3%）であった。記載されていた内容として多いものは、家族、就労、交友関係、生活、自己の問題に関する領域のものであり、記載内容が複数の領域にまたがっているものも見られた¹。

調査対象者のうち、各内容を記載した者の比率を「記載率」とし、非行少年・若年犯罪者別に、記載率の高かった項目を見ると、非行少年、若年犯罪者共に、家族、就労、交友関係及び自己の問題に関する領域の記載率が高かったが、非行少年では、「就労、資格取得、資格取得のための勉強をする」（例：「仕事をまじめにして金を稼ぐ。」、「アルバイトや勉強など一日の軸となるものを見つける。」等）が最も高く、「家族の存在」（例：「親に迷惑をかけすぎたので、これからは親のことを思って生活する。」、「家族が応援してくれれば頑張れる。」、「今まで犯罪をしてきたのは、悲しむ人もいないから、自己中心的な考えでやってきました。…（中略）…これからは父として一人の大人として、しっかり責任を持ち、小さな家庭を思う気持ちが大切だと思います。」等）、「不良交友の断絶」（例：「悪い友達とは付き合わない。」、「悪い友人と離れるきっかけを見つけてもらうこと。」等）、「意志の問題」（例：「自分の意志を強くすること」、「立ち直るのは自分自身の力」等）、「健全又は健康な生活」（例：「規則正しい生活を送る。」、「厳しく、自分のふだんの生活に目をやってもらうこと。」等）が次いでいる。若年犯罪者では、「就労、資格取得、資格取得のための勉強をする」（例：「やりたい仕事じゃなくてもまず手に職をつける。」、「仕

1 その他の領域における「生活支援」には、出所後の生活費の援助や居住地の確保等の要望があり、「刑務所等の処遇の充実」には、社会生活で困ったときの対処法に関する指導や、同じ境遇の人と話し合ったり失敗を重ねてきた人の話を聞いたりする機会の付与等があった。また、「その他」には、地域社会で法律や規則を学ぶ場を作ること、厳罰化、新しくやり直すための時間等があった。

事をまじめにしているときは生活のリズムがちゃんとしているので、社会復帰後の仕事に役立つ資格取得が必要だと思っています。」等)が最も高く、「家族の存在」(例:「家族のために頑張る。」,「自分のことを思ってくれている人間がいること。誰にも必要とされていなければ、自分の中で頑張る理由がわからなくなる。」等),「就職援助,資格取得指導,職業訓練」(例:「技術を身に付け,人並みの生活を送れるようにすること。職を探す手助けと,それまでの資金援助,又は資格取得の援助。」等),「意志の問題」(例:「援助はいらない。自分の意志の問題だと思う。」,「必要なことは,自分自身に変化することだと思っています。援助とかがあると,それに甘える気持ちが出て,結果的に自分自身で解決するという知恵や知識が身に付かず,また,人任せになって何も解決にならないと思う。」等),「不良交友の断絶」(例:「悪い友人,知人との関係をうまく整理できる方法を教えて欲しい。」,「組織からの離脱の協力をお願いしたい。」等)の順であった。

3-5-1表 今後の生活や立ち直りに必要なことの認識（非行少年・若年犯罪者別）

領域	項目	総数 [1, 102]		非行少年 [730]		若年犯罪者 [372]	
家族	家族の存在	215	(19.5)	150	(20.5)	65	(17.5)
	家族との良好な関係	48	(4.4)	35	(4.8)	13	(3.5)
学校	学校に行く、勉強する	61	(5.5)	61	(8.4)	-	
就労	就労、資格取得、資格取得のための勉強をする	241	(21.9)	173	(23.7)	68	(18.3)
	就職援助、資格取得指導、職業訓練	63	(5.7)	10	(1.4)	53	(14.2)
交友関係	不良交友の断絶	146	(13.2)	115	(15.8)	31	(8.3)
	友人・知人又は交際相手の存在	55	(5.0)	37	(5.1)	18	(4.8)
	充実又は信頼ある人間関係を築く	13	(1.2)	6	(0.8)	7	(1.9)
薬物等	アルコールからの離脱	7	(0.6)	4	(0.5)	3	(0.8)
	薬物からの離脱	2	(0.2)	-		2	(0.5)
余暇	ボランティア活動等	23	(2.1)	16	(2.2)	7	(1.9)
	暇な時間を作らない	21	(1.9)	17	(2.3)	4	(1.1)
	ギャンブルからの離脱	4	(0.4)	-		4	(1.1)
生活	健全又は健康な生活	103	(9.3)	79	(10.8)	24	(6.5)
	将来の生活設計・夢・目標を持つ	55	(5.0)	44	(6.0)	11	(3.0)
	生活環境を変える・整える	20	(1.8)	10	(1.4)	10	(2.7)
	健全なお金の使い方	13	(1.2)	5	(0.7)	8	(2.2)
性格	我慢・忍耐力	22	(2.0)	9	(1.2)	13	(3.5)
	感情をコントロールする	12	(1.1)	5	(0.7)	7	(1.9)
態度	他人の気持ちを考える	68	(6.2)	45	(6.2)	23	(6.2)
	物事をよく考えてから行動する	44	(4.0)	26	(3.6)	18	(4.8)
	被害者のことを考える	26	(2.4)	16	(2.2)	10	(2.7)
	法律やルールを守る	17	(1.5)	5	(0.7)	12	(3.2)
	善悪を判断する	13	(1.2)	11	(1.5)	2	(0.5)
	人の話を聞く	9	(0.8)	5	(0.7)	4	(1.1)
自己の問題	意志の問題	145	(13.2)	94	(12.9)	51	(13.7)
	自分自身のことを考える	23	(2.1)	17	(2.3)	6	(1.6)
	努力する	22	(2.0)	12	(1.6)	10	(2.7)
	自分に自信を持つ	13	(1.2)	3	(0.4)	10	(2.7)
反省	今回の処分を忘れない	21	(1.9)	15	(2.1)	6	(1.6)
	反省する	15	(1.4)	14	(1.9)	1	(0.3)
	自己の犯した犯罪や非行を考える	14	(1.3)	7	(1.0)	7	(1.9)
支援者等	相談相手	65	(5.9)	35	(4.8)	30	(8.1)
	注意又は指導監督をしてくれる者	39	(3.5)	29	(4.0)	10	(2.7)
	理解・受容	33	(3.0)	25	(3.4)	8	(2.2)
	大切な人の存在	22	(2.0)	14	(1.9)	8	(2.2)
その他	生活支援	20	(1.8)	3	(0.4)	17	(4.6)
	刑事施設等における処遇等の充実	16	(1.5)	2	(0.3)	14	(3.8)
	その他	42	(3.8)	29	(4.0)	13	(3.5)
特になし		180	(16.3)	114	(15.6)	66	(17.7)

- 注 1 自由記述回答による。
2 回答が複数の項目にわたる場合、それぞれの項目に計上している。
3 「家族の存在」は、家族からの支援及び家族のために頑張ることを含む。
4 「不良交友の断絶」は、不良集団からの離脱及び健全な交友関係の構築を含む。
5 「友人・知人又は交際相手の存在」は、友人知人又は交際相手からの支援及び友人知人又は交際相手のために頑張ることを含む。
6 「ボランティア活動等」は、社会や人のために行動することを含む。
7 「暇な時間を作らない」は、趣味やクラブ活動に打ち込む等、時間を有意義に過ごすことを含む。
8 「健全又は健康な生活」は、規則正しい生活を送ることを含む。
9 「他人の気持ちを考える」は、他人を含めた周囲への迷惑や気持ちを考えることを含む。
10 「法律やルールを守る」は、法律を勉強することを含む。
11 「意志の問題」は、強い気持ちを持つ、自分を律する、自分自身を変える等を含む。
12 「努力する」は、具体的な目的語はなく、漠然と「努力する」、「頑張る」、「真面目になる」と記載していたものである。
13 「自分に自信を持つ」は、前向きになることを含む。
14 「今回の処分を忘れない」は、逮捕されたことを忘れない及び施設での生活を今後に生かすことを含む。
15 「反省する」は、具体的な目的語はなく、漠然と「反省する」と記載していたものである。
16 「相談相手」は、カウンセラー等の具体的な相談相手の存在のほか、誰かに相談する行為そのものを含む。
17 「注意又は指導監督をしてくれる者」は、保護司等である。
18 「理解・受容」は、自分を見守ってくれる存在や環境があることを含む。
19 「大切な人の存在」は、具体的な対象は不明だが大切な人と記載してあったもののほか、自分を思ってくれる人の存在を含む。
20 「特になし」は、無回答を含む。
21 () 内は、総数、非行少年及び若年犯罪者の各調査対象人員に占める各項目記載者の比率（記載率）である。
22 [] 内は、実人員である。

非行少年と若年犯罪者で記載率に有意差のあった項目を見ると、非行少年が若年犯罪者より記載率が高かったのは、「学校に行く、勉強する」($\chi^2(1)=32.91^{**}$)、「就労、資格取得、資格取得のための勉強をする」($\chi^2(1)=4.24^*$)、「不良交友の断絶」($\chi^2(1)=11.81^{**}$)、「健全又は健康な生活」($\chi^2(1)=5.56^*$)、「将来の生活設計・夢・目標を持つ」($\chi^2(1)=4.90^*$)及び「反省する」($\chi^2(1)=4.99^*$)であった。一方、若年犯罪者が非行少年より記載率が高かったのは、「就職援助、資格取得指導、職業訓練」($\chi^2(1)=75.81^{**}$)、「薬物からの離脱」($\chi^2(1)=3.93^*$)、「ギャンブルからの離脱」($\chi^2(1)=7.88^{**}$)、「健全なお金の使い方」($\chi^2(1)=4.54^*$)、「我慢・忍耐力」($\chi^2(1)=6.44^*$)、「法律やルールを守る」($\chi^2(1)=10.48^{**}$)、「自分に自信を持つ」($\chi^2(1)=10.96^{**}$)、「相談相手」($\chi^2(1)=4.75^*$)、「生活支援（生活費・住居等）」($\chi^2(1)=23.92^{**}$)及び「刑事施設等における処遇の充実」($\chi^2(1)=20.97^{**}$)であり、若年犯罪者の方が、生活上必要な、より具体的な支援等を望んでいることがうかがえる。

男女別に見ると、非行少年では、「就労・資格取得・そのための勉強」において男子(643人)の記載率が25.0%(161人)であったのに対し、女子(87人)では13.8%(12人)と、男子の方が高かった($\chi^2(1)=5.36^*$)。若年犯罪者では、「相談できる人」において、男性(350人)の記載率が6.6%(23人)であったのに対し、女性(22人)の記載率は31.8%(7人)と高く($\chi^2(1)=17.80^{**}$)、また、「生活支援（生活費・住居等）」においても、男性の記載率が3.7%(13人)であるのに比して、女性の記載率は18.2%であった。

(2) 初入・再入別

初入・再入別の記載率を見ると、非行少年では、「今回の逮捕・入所を忘れない・施設での生活を生かす」(初入者2.8%(14人)、再入者0.5%(1人))において、初入者(509人)が再入者(221人)より記載率が高く、「就労、資格取得、資格取得のための勉強をする」(初入者20.8%(106人)、再入者30.3%(67人)、 $\chi^2(1)=7.68^{**}$)及び「注意・指導・監督する人」(初入者2.8%(14人)、再入者6.8%(15人))においては、再入者が初入者より記載率が高かった。一方、若年犯罪者では、「生活支援（生活費・住居等）」において、初入者(313人)より再入者(59人)の記載率が高かった(初入者3.5%(11人)、再入者10.2%(6人))。

第4 まとめ

今回の調査は、過去3回の調査をフォローし、この20年余りの間に非行少年の意識や価値観に生じた変化を捉えている。また、今回は、新たに対象を年齢30歳未満の若年犯罪者に拡張することで、非行や犯罪により矯正施設に収容された青少年の意識や価値観を幅広く捉えた。さらに、今回調査では、非行や犯罪の原因、再非行・再犯の要因等に関わる意識についても質問を付加し、様々な所見を得た。ここでは、以上の分析結果に現れた主要な特徴を総括し、若干の考察を加える。

(1) 家庭生活に対する満足度は、4回の調査を通じ上昇傾向にあり、今回調査では非行少年の約75%の者が「満足」と評価している。家庭生活に対する肯定的態度は、家族との対話を肯定的に捉える回答が上昇傾向にあることや、家内不和や親の無理解を家庭生活の不満の理由とする者が減少傾向にあることから確認できる。総じて、身近な家族への親和感が高まり、親子の心理的距離が縮小してきていることが推察される。一方、不満の理由では、家庭の収入が少ないことを選択する者が、非行少年では半数程度、若年犯罪者では約6割に及び、家庭生活の不満に経済的問題の占めるウェイトが高まってきていることがうかがえる。構造的な不況が長引き、格差社会が進行していると言われる中で、こうした経済的な問題の影響を今後とも注視していく必要があるだろう。

(2) 交友関係の満足度も上昇傾向にあり、今回調査では非行少年の約8割の者が「満足」と評価している。ただし、交友関係の満足度は、保護処分歴別の差異が認められ、少年院送致歴のある者では10pt程度低く、また、若年犯罪者の満足度は約6割程度と非行少年よりかなり低くなっている。一方、不満の理由では、「お互いに心を打ち明け合うことができない」を選択した者が半数を超えており、「自分のことをわかってくれない」、「つき合っても張り合いがなく自分が向上しない」を選択した者も多く、交友関係の質の面では、相互理解や啓発し合えるような建設的な関わりには必ずしもなっていないことがうかがえる。

(3) 身近な相談相手として同世代の友達や交際相手等を重視する傾向が高いことは、これまでの調査を通じて一貫しており、青少年期に特有の特徴と考えられる。ともあれ、非行少年には、「注意をされていることをきく人」、あるいは『こんな人になりたい』と思う人」として親を選択する者が多く、親は権威像としても将来のモデルとしても重要な存在であり、親子の関係性の改善は、不良な交友関係からの影響を阻む上でも重要な役割を果たすと推察される。親子関係等の家族関係の重要性は、調査対象者の多くが、親や家族を非行や犯罪を思いとどまる際の「心のブレーキ」として認識していることから支持されよう。

(4) 学校生活は、家庭生活とともに、特に少年にとっては重要な生活基盤をなしているが、調査対象者のうち非行少年においては8割を超える者が「勉強がわからないことが多

かった」に該当すると回答し、「学校に行くのがいやだった」や「周りから悪く思われていた」にも4割を超える者が該当すると回答している。その傾向は、少年院送致歴を有する者でより深刻となっており、学校不適應で疎外感も抱きながら生活してきたことがうかがえる。これに関連し、非行や犯罪の原因と思われる要因を選択させたリスク領域別の質問でも、非行少年、若年犯罪者共に、7割を超える者が学校生活に何らかの問題を認めており、学校不適應は、過去のつまずきの要因としても、非行や犯罪に向かわせる要因としても大きな役割を果たしていると考えられる。学校不適應が継続し、学校生活からドロップアウトしてしまうことは、将来の雇用や資格取得の機会にも影響を与えるだけに、早期の段階において学業不振や学校不適應を手当てする働き掛けや、再度のチャレンジを可能にするような学習支援を行うことが、非行や犯罪の防止対策上も重要と考えられる。

(5) 就労生活の確保や維持は、非行や犯罪を抑止する保護因子であり、再非行や再犯の防止にとっても極めて重要な課題領域である。今回の調査対象者は、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても8割を上回る者が就労を通じた社会的自立を志向する態度を示し、資格・免許の取得にも同様に大多数の者が前向きであった。青少年期という可塑性の大きい時期に、職業能力を伸ばし雇用に結び付けていくことは、再非行や再犯の防止につながるだけでなく、学校生活における挫折体験を挽回し、自信や自尊心を適切な形で高めることにもつながると期待される。この世代の者に就労支援のニーズは高く、かつ、その支援効果も大きいと考えられる。なお、今回の調査では、非行少年、若年犯罪者共に、安直な職業観を有する者や、対人関係上の問題が就労生活の途絶や無職生活の継続に影響していると見られる者も一定数存在することが確認された。就労領域の指導においては、職業の知識・技能の育成とともに、対象者の特質に応じて健全な職業観や対人スキルの獲得等、総合的に雇用可能性を増進させるような指導や支援の必要性が示唆される。

(6) 非行や犯罪をした青少年の地域社会との関わりを見ると、祭りなどの行事への参加体験は大半の者に経験があることが認められるが、スポーツ活動や地域の清掃等のボランティア活動となると、参加体験がある者の割合は大きく低下する。こうした地域社会における各種活動への参加体験は、地域のメンバーからの人的な支援に対する信頼（「地域の人は困ったときに力になってくれる」という項目への該当率）や地域貢献に対する前向きな態度（「地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい」という項目への該当率）を高める方向に関連性を持つことが今回調査で確認された。地域活動への参加の機会や地域貢献をする機会を意図的に増やしていくことは、薄れつつあると言われる地域社会への信頼や地域の「絆」の強化にもつながるものと推察される。

(7) 社会に対する満足度の面では、「満足」とする者の割合は、非行少年では4割弱という水準にあり、経年比較で大きな変化はないが、若年犯罪者では「満足」とする者の割合が非行少年の半分以下の水準に落ちる。生活上の不満の理由としては、前記(1)でも指摘した経済的格差を選択する者が6割を超える。なお、社会に対する満足度は、非行少

年、若年犯罪者共に、家庭生活への満足度、交友関係の満足度、自分の生き方への満足度とそれぞれ関連し合っており、これらの領域の満足度が高い者は社会生活への満足度も高い傾向にある。親子関係や交友関係等、個々の領域の変化がきっかけになって、生活全般の意味付けが変わっていくことは、更生事例の処遇においてしばしば経験されることであるが、この調査所見はそうした経験的事実を支持していると考えられる。

(8) 態度・価値観の面では、20年余りの間に大きく変化が生じた項目が散見される。まず、平成2年の第1回調査時に8割ほどの者が選択していた「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」という項目への賛成率は、今回5割程度に低下し、また、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」への賛成率も、4回の調査を通じて約10pt低下し、さらに、「年上や目上の人には従うべきだ」への賛成率は、同期間に約10pt上昇を見せるなどしている。総じて、非行少年の態度は、従前に比べ、保守的で堅実な生活志向の者が増加する傾向にあると思われる。

(9) 対人感情面でも、ここ20年余りの間に変化が生じている項目が散見される。初めの頃の調査結果からは、周囲から不良視され孤立無援で疎外感も大きく、心理的な不充足感を拝金主義的な態度で埋め合わせるような非行少年のイメージが浮かび上がってくるが、今回調査ではそのような特徴はいずれも目立たなくなっている。むしろ、そのような特徴は若年犯罪者に顕著に認められ、若年犯罪者においては社会的疎外感が大きいことが推察される。もっとも、非行少年においても、自分の性格に嫌悪感を持つ者が7割を超え、何をやってもだめな人間だと感じる者も6割程度に及ぶなど、自己肯定感を持っていない者が大半であり、更生に向けての指導や支援を通じて長所を伸ばし、自信を持たせていくことが、非行や犯罪をした青少年の多くに共通する指導上の課題であることがうかがえる。

(10) 非行・犯罪の原因に関する認識にも経年変化が認められる。非行少年において、非行・犯罪の原因を自分自身だとする者は、いずれの調査においても一番多いが、友達・仲間や家族（親）を選択する者の構成比は低下傾向にあり、自分自身を選択する者の構成比が増加している。また、非行・犯罪への対応についても、「あたたかく指導する」を選択する者が「厳しく罰する」を選択する者より多いことは変わらないが、前者の構成比は前回より10ptほど低下し、自己責任を意識する者が近年増えている。また、調査対象者は、自分の生活習慣、生活態度、行動傾向、交友関係、就労生活等、各種領域における様々な問題が非行・犯罪の原因となっていると考えており、非行少年、若年犯罪者共に、非行や犯罪の傾向が進んだ者ほど、主観的にも多様な問題を抱えていると認識していた。また、そのような主観的なリスク水準の高い者は、低い者に比べ、自己評価が低く安逸な態度を示しやすい等の特徴が見られ、資質面の問題の改善とともに、交友関係や就労等各種領域における課題に多面的に対処していく必要性が示唆される。

(11) 処分の受け止め方と立ち直りに必要な指導支援に関しては、非行少年、若年犯罪者共に、処分を重ねるほど、処分の受け止め方に真摯な態度が薄れてしまう傾向がうかがえ、

処分の際に感銘力を与える働き掛けの重要性が示唆される。再非行・再犯の要因としては、処分の軽視、不良交友関係、問題解決の諦めや就労途絶等の問題がリスク要因として大きく作用しているが、個々人が抱える問題はそれぞれに固有であるため、適切なアセスメントを通じてその問題性に応じた処遇を検討していく必要がある。この関連で、少年矯正の分野で現在開発が進められているリスクアセスメントツールは、個に応じた働き掛けを関係機関が協働しながら実践し、一貫したケースマネジメントや評価を行う上で、大きな役割を果たすと期待される。

非行少年や若年犯罪者の意識を継続的にフォローし、つまずきや立ち直りの要因等について検討することは、非行や犯罪の未然防止や再非行・再犯の防止にとって重要な基礎資料を与えるものである。今回の調査報告では、調査項目が従前に増して広範に及んだことから、各質問ごとの単純集計結果の報告を中心とさせていただいたが、本報告が、非行や犯罪をした青少年の現状理解や彼らの更生に資する指導・支援の検討の一助となれば幸いである。

整理 番号				-					
----------	--	--	--	---	--	--	--	--	--

巻末資料Ⅰ

青少年の生活意識と価値観に関する調査

法務総合研究所

この意識調査は、少年鑑別所に入った少年や刑務所に入った若者が、どんなことを思ったり、感じたりしているかなどについて研究するために、法務省の法務総合研究所が作成したものです。

あなたの答えが、施設での成績や評価、今後の処分などに影響することは一切ありません。どうぞ、ありのままを答えてください。

* まずはじめに、あなたご自身のことについてお聞きします。答えは、右側の回答欄に記入してください。

F 1 あなたの性別は

- 1 男 2 女

F 1

F 2 あなたの今の年齢はおいくつですか。
年齢を数字で記入してください。

F 2

F 3 あなたの学歴について、
あてはまる番号をひとつだけ選んで記入してください。

F 3

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1 中学在学中 | 2 中学卒業 | |
| 3 高校在学中 | 4 高校中退 | 5 高校卒業 |
| 6 専門学校在学中 | 7 専門学校中退 | 8 専門学校修了 |
| 9 短大・高専在学中 | 10 短大・高専中退 | 11 短大・高専卒業 |
| 12 大学以上在学中 | 13 大学以上中退 | 14 大学以上卒業・修了 |
| 15 その他 | | |

* 次のページから、家庭や友達、物事の考え方や感じ方などについて、おたずねします。
答えは、右側の回答欄に番号を記入するか、または回答欄に○をつけるかのどちらかです。
「その他」の場合は、具体的内容を()内に記入してください。
まちがわないように注意してください。

Q1 あなたは、家庭生活にどのくらい満足していますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q1

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

--

Q1b (上の質問で「4 やや不満」「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

Q1b

- 1 家庭に収入が少ない
- 2 家庭内に争いごとがある
- 3 親の愛情が足りない
- 4 親が自分を理解してくれない
- 5 病人がいる
- 6 きょうだいと気が合わない
- 7 家の周囲の環境が悪い
- 8 家が狭すぎる
- 9 ただなんとなく
- 10 その他 ()

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

Q2 あなたは家の中で、次のこと(ア～キ)を感じたり思ったりしたことがありますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q2

ア 家族との話を楽しいと感じることが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思うことが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ウ 自分の将来について、親に話したいと思うことが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じる・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

オ 親がきびしすぎると感じる・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	

- カ 親のいうことは、気まぐれであると感じることが・・・
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる・・・
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

カ	
キ	

Q3 あなたは、友達づきあいにどれくらい満足していますか。
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q3

--

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満



Q3b (上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

Q3b

- 1 気の合う友達がいない
 2 お互いに心を打ち明け合うことができない
 3 自分よりもほかの人と仲良くする
 4 仲間はずれにされる
 5 自分のすることに口出ししてくる
 6 グループの中のまとまりが悪い
 7 自分のことを分かってくれない
 8 自分のいうことが通らない
 9 つき合っても張り合いがなく自分が向上しない
 10 自分に冷たい
 11 好きでもないのにつき合わなければならない
 12 その他 ()

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

Q4 あなたと友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選び、番号の欄に○をつけてください。

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつけている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何も言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互いに悪いところは悪いと言い合える
- 11 一緒にいるときでも別々のことをしている

Q 4

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

Q5 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。

次の中から、一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 いつもそばにいて相手になってくれる人
- 2 他の人にいけないことを聞いてくれる人
- 3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人
- 4 いろいろな情報を教えてくれる人
- 5 困ったときに助けてくれる人
- 6 興味や趣味が似ている人

Q 5

--

Q6 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。
あてはまる人を何人でも選び、番号に○をつけてください。

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。

Q 6 7

- | | | |
|---------------------|-----------------|------------|
| 1 父親 | 2 母親 | 3 兄弟姉妹 |
| 4 祖父母（おじいさん・おばあさん） | 5 親戚の人 | 6 同性の友達・仲間 |
| 7 異性の友達・恋人・配偶者（夫や妻） | 8 先輩 | 9 先生 |
| 10 近所の人 | 11 ネット上の友達・知り合い | 12 誰もいない |
| 13 その他（ ） | | |

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13		

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。

Q 6 イ

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母 (おじいさん・おばあさん) 5 親戚の人 6 同性の友達・仲間
7 異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻) 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 ネット上の友達・知り合い 12 誰もいない
13 その他 ()

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13		

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。

Q 6 ウ

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母 (おじいさん・おばあさん) 5 親戚の人 6 同性の友達・仲間
7 異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻) 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 ネット上の友達・知り合い 12 誰もいない
13 その他 ()

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13		

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

Q 6 エ

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母 (おじいさん・おばあさん) 5 親戚の人 6 同性の友達・仲間
7 異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻) 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 ネット上の友達・知り合い 12 誰もいない
13 その他 ()

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13		

Q 7 あなたの中学時代や高校時代の学校生活についてうかがいます。

(高校に入ったことのある人はあなたの高校生活について答えてください。それ以外
の人は、あなたの中学校生活について答えてください。)

あなたがその学校の生徒や学生だったとき、次のこと (ア～キ) がどれくらいあり
ましたか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q 7

ア 学校に行くのがいやだった

- 1 とても 2 やや 3 あまり 4 まったく
あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

イ 勉強が分からないことが多かった

- 1 とても 2 やや 3 あまり 4 まったく
あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

ア	
イ	

ウ	クラブ活動 ^{クラブ活動} などうちこめるものがあつた	1 とても	2 やや	3 あまり	4 まったく
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
エ	先生 ^{せんせい} から理解 ^{りかい} されていた	1 とても	2 やや	3 あまり	4 まったく
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
オ	同級生 ^{どうきゅうせい} から理解 ^{りかい} されていた	1 とても	2 やや	3 あまり	4 まったく
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
カ	学校 ^{がっこう} ではひとりぼっちや仲間 ^{なかま} はずれになっていた	1 とても	2 やや	3 あまり	4 まったく
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
キ	周り ^{まわり} から悪 ^{わる} く思 ^{おも} われていた	1 とても	2 やや	3 あまり	4 まったく
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない

Q8 働くことや仕事^{しごと}について、あなたの考え^{かんが}をうかがいます。
次^{つぎ}の中から、自分^{おのれ}にもっともあてはまる番号^{ばんごう}をひとつ選^{えら}んで番号^{ばんごう}を記入^{きじり}してください。

Q 8

ア	学校 ^{がっこう} を卒業 ^{そつぎょう} したら、できるだけ早 ^{はや} く就職 ^{しゅうしょく} して、親 ^{おや} から自立 ^{りいうつ} すべきだ	1 とても	2 どちらかといえば	3 どちらかといえば	4 ぜんぜん
		そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} わない	そう思 ^{おも} わない
イ	汗水 ^{あせみずなみ} 流 ^{なが} して働 ^{はたら} くより、楽 ^{らく} に金 ^{かね} を稼 ^{かせ} げる仕事 ^{しごと} がしたい	1 とても	2 どちらかといえば	3 どちらかといえば	4 ぜんぜん
		そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} わない	そう思 ^{おも} わない
ウ	自分 ^{おのれ} のやりたい仕事 ^{しごと} が見 ^み つからなければ働 ^{はたら} かなくてもよい	1 とても	2 どちらかといえば	3 どちらかといえば	4 ぜんぜん
		そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} わない	そう思 ^{おも} わない
エ	フリーターや派遣社員 ^{はいせんしかいん} は、長期間 ^{ちやうきかん} 続 ^{つづ} けるべき仕事 ^{しごと} ではない	1 とても	2 どちらかといえば	3 どちらかといえば	4 ぜんぜん
		そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} わない	そう思 ^{おも} わない
オ	仕事 ^{しごと} や就職 ^{しゅうしょく} に役立 ^{やくど} つ資格 ^{しやくかく} や免許 ^{めんぎょ} は苦勞 ^{くろう} しても取りたい	1 とても	2 どちらかといえば	3 どちらかといえば	4 ぜんぜん
		そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} う	そう思 ^{おも} わない	そう思 ^{おも} わない

カ 職場の人間関係は面倒くさい

- 1 とても 2 どちらかといえば 3 どちらかといえば 4 ぜんぜん
 そう思う そう思う そう思わない そう思わない

キ 努力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ

- 1 とても 2 どちらかといえば 3 どちらかといえば 4 ぜんぜん
 そう思う そう思う そう思わない そう思わない

ク 仕事について夢や目標を持っている

- 1 とても 2 どちらかといえば 3 どちらかといえば 4 ぜんぜん
 そう思う そう思う そう思わない そう思わない

カ	
キ	
ク	

Q9 あなたの住んでいた地域とのかかわりで、次のことがどれくらいあてはまりますか。
 次の中から、自分にもっともあてはまる番号をひとつ選んで記入してください。

Q 9

ア 地域のお祭りなど行事にはよく参加した

- 1 とても 2 やや 3 やや 4 まったく
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

イ 地域のスポーツ活動によく参加した

- 1 とても 2 やや 3 やや 4 まったく
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

ウ 公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した

- 1 とても 2 やや 3 やや 4 まったく
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

エ 地域の人々は、困ったときに力になってくれる

- 1 とても 2 やや 3 やや 4 まったく
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

オ 地域の人々が喜ぶようなことをしてあげたい

- 1 とても 2 やや 3 やや 4 まったく
 あてはまる あてはまる あてはまらない あてはまらない

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	

Q10 あなたは、今の社会についてどのくらい満足していますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満



Q 10

--

Q10b (上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

Q 10 b

- 1 社会のしくみがきまりきっている
2 若者の意見が反映されない
3 正しいと思うことが通らない
4 国民の意見がまとまっていない
5 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる
6 まじめな者がむくわれない
7 人々の考え方や行動が乱れている
8 その他 ()

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Q11 あなたは、次の意見（ア～タ）に賛成ですか、それとも反対ですか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q 11

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

オ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	

カ	「世の中は、なるようにしかならないものだ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	カ	
キ	「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	キ	
ク	「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	ク	
ケ	「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	ケ	
コ	「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	コ	
サ	「義理人情を大切にすべきだ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	サ	
シ	「努力するよりも要領よくふるまう方がよい」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	シ	
ス	「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	ス	
セ	「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	セ	
ソ	「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	ソ	
タ	「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対	タ	

Q12 あなたは日ごろの生活で、次(ア～シ)のような感じになることがありますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q 12

- ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- ウ 心のあたたま思いが少ないという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- エ 自分の性格がいやになるという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- カ 自分は世の中から取り残されているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- キ 自分だけが悪く思われているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- ク 自分は意志が弱いという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- ケ 自分はものごとに打ち込んでいっているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- コ 自分は頼りにされているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない
- シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが・・・
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	

- Q 13 青少年の非行や犯罪についてお聞きします。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q 13

- ア あなたは、青少年が非行や犯罪に走るのには、どこに主な原因があると思いますか。
1 自分自身 2 家族（親） 3 友達・仲間
4 その他（ ）
- イ あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。
1 厳しく罰する 2 あたたく指導する

ア	
イ	

- Q 14 次のような人について、あなたの考えをうかがいます。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

Q 14

- ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- イ あなたは「覚せい剤」を使う人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- エ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- オ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- カ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる
- キ あなたは「振り込め詐欺」をする人についてどう思いますか
1 自分には無関係 2 気持ちが理解できる 3 親しみを感ずる

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	

Q 15 あなたご自身が非行や犯罪をした原因として、どんなことが影響していたと思いますか。

次の中からあてはまるものを、いくつでも選び、番号に○をつけてください。

ア 家庭では・・・

- 1 家族の愛情やかかわりが不足していたこと
- 2 家族の関係が悪かったこと
- 3 家族からの暴力があったこと
- 4 親の世話やしつけが良くなかったこと
- 5 何でも自分の思うように自由にできたこと
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はなかった

Q 15 ア

1	2	3
4	5	6
7		

イ 学校では・・・

- 1 勉強が分からなかった・つまらなかったこと
- 2 欠席やさぼりが多かったこと
- 3 先生との間にトラブルがあったこと
- 4 生徒との関係が悪かったこと
- 5 中退したこと
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はなかった

Q 15 イ

1	2	3
4	5	6
7		

ウ 職場では・・・(* 仕事の経験のある人だけ回答してください)

- 1 仕事が長続きしなかった・転職が多かったこと
- 2 雇い主との関係が悪かったこと
- 3 職場の同僚との関係が悪かったこと
- 4 仕事の知識や技能が不足していたこと
- 5 仕事をやる気が不足していたこと
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はなかった

Q 15 ウ

1	2	3
4	5	6
7		

エ 友達関係では・・・

- 1 非行や犯罪をする友人や知人がいたこと
- 2 非行や犯罪をする人の誘惑があったこと
- 3 暴走族、ギャング、暴力団などの集団に関係していたこと
- 4 まじめな友人や知人があまりいなかったこと
- 5 助けてくれる友人や知人がいなかったこと
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はなかった

Q 15 エ

1	2	3
4	5	6
7		

オ 酒や薬物などでは・・・

- 1 飲酒が習慣になり生活が乱れていたこと
- 2 飲酒した時に喧嘩などのトラブルがあったこと
- 3 時々薬物を使用していたこと
- 4 薬物をやめられなくなっていたこと
- 5 薬物を手に入れるため非行や犯罪をするようになっていたこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

Q 15 オ

1	2	3
4	5	6
7		

カ ひまなときの過ごし方では・・・

- 1 部・クラブ活動に参加しなかったこと
- 2 趣味など打ち込めるものがなかったこと
- 3 退屈してぶらぶらすることが多かったこと
- 4 ゲームばかりしていたこと
- 5 賭け事やギャンブルが多かったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

Q 15 カ

1	2	3
4	5	6
7		

キ 生活の習慣では・・・

- 1 遊び中心で生活が乱れていたこと
- 2 金づかみが荒かったこと
- 3 ローンや借金が多かったこと
- 4 決まった所で暮らしていなかったこと
- 5 ひきこもりがちだったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

Q 15 キ

1	2	3
4	5	6
7		

ク あなた自身の性格では・・・

- 1 すぐかっとなりやすかったこと
- 2 がまんが足りなかったこと
- 3 落ち着きが足りなかったこと
- 4 刺激やスリルが好きだったこと
- 5 悪いことで自立したかったこと
- 6 その他（ ）
- 7 特に問題はなかった

Q 15 ク

1	2	3
4	5	6
7		

ケ あなた自身の態度では・・・

- 1 規則や注意を軽く考えていたこと
- 2 大人や社会に反発していたこと
- 3 つかまってもあまり反省をしなかったこと
- 4 自分が困っていても素直に助けを求めようとしなかったこと
- 5 他人の気持ちや迷惑に思いやりや関心が足りなかったこと
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はなかった

Q 15 ケ

1	2	3
4	5	6
7		

Q 16 あなたは、今回の事件でここに来る前に、別の事件で審判や裁判を受け、何か処分を受けたことがありますか。

次の中から、あてはまる番号をすべて下の欄に記入してください。

- 0 ない (今回が初めて) ⇒ Q 24 へ
- 1 ある：保護観察 (家庭裁判所で言い渡されたものに限る) ⇒ Q 17・Q 22・Q 23 へ
- 2 ある：少年院送致 ⇒ Q 18・Q 22・Q 23 へ
- 3 ある：刑事処分 (罰金) ⇒ Q 19・Q 22・Q 23 へ
- 4 ある：刑事処分 (執行猶予) ⇒ Q 20・Q 22・Q 23 へ
- 5 ある：刑事処分 (実刑) ⇒ Q 21・Q 22・Q 23 へ
- 6 ある：その他 () ⇒ Q 24 へ

Q 16

--	--	--	--	--	--

Q 17 Q 16で「1 ある 保護観察 (家庭裁判所で言い渡されたものに限る)」と答えた方にうかがいます。

(何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて教えてください。)

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

- 1 軽い
- 2 適当
- 3 重い

Q 17 ア

--

イ 保護観察を受けていたときの態度はどうでしたか。

- 1 まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた。
- 2 まじめなときと、ふまじめになったときがあった。
- 3 あまりまじめに指導を受けなかった。

Q 17 イ

--

Q18 Q16で「2 ある 少年院送致」と答えた方にうかがいます。
 (何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて教えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

Q 18 7

- 1 軽い 2 適当 3 重い

イ 少年院で指導を受けていたときの態度はどうでしたか。

Q 18 1

- 1 まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた。
 2 まじめなときと、ふまじめになったときがあった。
 3 あまりまじめに指導を受けなかった。

Q19 Q16で「3 ある 刑事処分(罰金)」と答えた方にうかがいます。

(何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて教えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

Q 19 7

- 1 軽い 2 適当 3 重い

イ 罰金後の態度はどうでしたか。

Q 19 1

- 1 まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。
 2 まじめなときと、ふまじめになったときがあった。
 3 あまりまじめに生活していなかった。

Q20 Q16で「4 ある 刑事処分(執行猶予)」と答えた方にうかがいます。

(何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて教えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

Q 20 7

- 1 軽い 2 適当 3 重い

イ 執行猶予中の態度はどうでしたか。

Q 20 1

- 1 まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。
 2 まじめなときと、ふまじめになったときがあった。
 3 あまりまじめに生活していなかった。

Q21 Q16で「5 ある 刑事処分（実刑）」と答えた方にうかがいます。
 (何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて教えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

- 1 軽い 2 適当 3 重い

Q 21 7

イ 受刑中の態度はどうでしたか。

- 1 まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。
 2 まじめなときと、ふまじめになったときがあった。
 3 あまりまじめに生活していなかった。

Q 21 1

Q22 Q16で「(処分を受けたことが) ある (1～5)」と答えた方にうかがいます。
 その(それらの)処分を受けてあなたの役にたったことは何ですか。
 次の中から、あなたにあてはまるものをすべて選んで、○をつけてください。

Q 22

- 1 処分の厳しさを知ったこと
- 2 社会のルールや責任を考えるようになったこと
- 3 非行や犯罪に陥るパターンが分かったこと
- 4 被害者や自分の与えた被害のことをよく考えるようになったこと
- 5 学業や仕事に関する知識や技能が高まったこと
- 6 学業や仕事の大切さが分かったこと
- 7 生活リズムや金銭の使い方が改善されたこと
- 8 自分の感情や考え方をうまくコントロールできるようになったこと
- 9 我慢強さや辛抱強さが向上したこと
- 10 他人の気持ちを考えて行動できるようになったこと
- 11 家族の大切さや家庭の中での役割が分かったこと
- 12 友達との適切なつきあい方が分かったこと
- 13 健康や体力が向上したこと
- 14 まじめになろうという気持ちが高まったこと
- 15 仕事をさがしたり、悪い仲間から抜けたりする手助けをしてもらったこと
- 16 その他 ()

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

- Q23 Q16で、「(処分を受けたことが) ある(1～5)」と答えた方にうかがいます。
 処分を受けたあとで、あなたがふたたび非行や犯罪をしてしまったのは、どんな
 ことが影響していたと思いますか。
 次の中から、あなたにあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

Q 23

1 処分を軽く考えていたこと	1	
2 まじめになるのは、格好が悪いと考えていたこと	2	
3 大人や社会に反発が強かったこと	3	
4 家庭に問題や嫌なことがあったこと	4	
5 まじめな友達が少なかった・いなかったこと	5	
6 非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと	6	
7 学業や仕事を続けられなかったり、仕事が見つからなかったこと	7	
8 就職や学業を続けるために必要な情報や援助が足りなかったこと	8	
9 自分が非行や犯罪をする原因が分からなかったこと	9	
10 困ったときの相談相手や援助してくれる人が周りにいなかったこと	10	
11 自分が努力しても、家族や周囲の人が認めてくれなかったこと	11	
12 問題にぶつかるともうだめだとあきらめたりしていたこと	12	
13 いまさら努力してもどうにもならないと思っていたこと	13	
14 周囲から悪く思われているようで自信が持てなかったこと	14	
15 自分が落ち着いて生活できる場所がなかったこと	15	
16 被害者への謝罪などの対応が十分でなかったこと	16	
17 その他 ()	17	

(ここからまた全員回答となります)

- Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、
 あなたを思いとどませる心のブレーキになるのは次のどれですか。
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 父母のこと 2 兄弟(妻子)を含めた家族全体のこと
 3 友達から仲間はずれになること 4 学校や職場に対する迷惑のこと
 5 社会から白い目で見られること 6 警察につかまること
 7 自分で自分がいやになるから 8 その他
 9 特に心のブレーキになるものはない

Q 24

--

Q 25 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの3つを選んで、番号を記入してください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 規則正しい生活をおくる | 2 お金のむだ使いをしない |
| 3 健全な趣味や遊びをする | 4 学校や仕事を休まずに続ける |
| 5 資格や技術を身につける | 6 知識を身につけ心を豊かにする |
| 7 親の言うことをきく | 8 家族の人と仲良くやっていく |
| 9 悪い友達や先輩とはつき合わない | 10 被害者のために何かお詫びをする |
| 11 地元の人たちの役にたつことをする | |
| 12 保護観察官・保護司とよく相談する | 13 もう少し要領よくふるまう |
| 14 その他 | |

Q 25

Q 26 これからの生活で、あなたが非行や犯罪から立ち直るためにとても必要だと考える働きかけや援助にはどんなことがありますか。あなたの考えを下の欄に自由に書いてください。

Q 26

--

Q 27 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

Q 27

--

御協力大変ありがとうございました。

記入もれがないか、最初のページから確認してから

提出してください。

巻末資料Ⅱ 青少年の生活意識と価値観に関する調査集計結果

F 1 あなたの性別は

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
男子		1,689 (79.8)	2,011 (88.4)	2,552 (88.1)	643 (88.1)	350 (94.1)
女子		428 (20.2)	263 (11.6)	345 (11.9)	87 (11.9)	22 (5.9)

F 2 あなたの今の年齢はおいくつですか。年齢を数字で記入してください。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
13歳		~	~	~	8 (1.1)	~
14歳		149 (7.0)	129 (5.7)	275 (9.5)	104 (14.2)	~
15歳		212 (10.0)	242 (10.6)	329 (11.4)	81 (11.1)	~
16歳		369 (17.4)	479 (21.1)	593 (20.5)	144 (19.7)	~
17歳		504 (23.8)	525 (23.1)	585 (20.2)	138 (18.9)	~
18歳		463 (21.9)	452 (19.9)	599 (20.7)	111 (15.2)	3 (0.8)
19歳		420 (19.8)	447 (19.7)	516 (17.8)	143 (19.6)	3 (0.8)
20歳		~	~	~	1 (0.1)	7 (1.9)
21歳		~	~	~	~	31 (8.3)
22歳		~	~	~	~	43 (11.6)
23歳		~	~	~	~	45 (12.1)
24歳		~	~	~	~	58 (15.6)
25歳		~	~	~	~	46 (12.4)
26歳		~	~	~	~	25 (6.7)
27歳		~	~	~	~	46 (12.4)
28歳		~	~	~	~	30 (8.1)
29歳		~	~	~	~	35 (9.4)

F 3 あなたの学歴について。(今回調査新設)

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	730 (100.0)	372 (100.0)
中学在学中		144 (19.7)	~
中学卒業		196 (26.9)	128 (34.4)
高校在学中		115 (15.8)	1 (0.3)
高校中退		225 (30.8)	143 (38.4)
高校卒業		41 (5.6)	64 (17.2)
専門学校在学中		5 (0.7)	~
専門学校中退		6 (0.8)	10 (2.7)
専門学校修了		~	9 (2.4)
短大・高専在学中		2 (0.3)	~
短大・高専中退		2 (0.3)	3 (0.8)
大学以上在学中		4 (0.5)	~
大学以上中退		~	10 (2.7)
大学以上卒業・修了		~	4 (1.1)

Q 1 あなたは、家庭生活にどのくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,103 (100.0)	2,267 (100.0)	2,870 (100.0)	726 (100.0)	372 (100.0)
満足		732 (34.8)	914 (40.3)	1,345 (46.9)	366 (50.4)	122 (32.8)
やや満足		530 (25.2)	617 (27.2)	771 (26.9)	181 (24.9)	95 (25.5)
どちらとも言えない		489 (23.3)	435 (19.2)	389 (13.6)	96 (13.2)	94 (25.3)
やや不満		229 (10.9)	223 (9.8)	252 (8.8)	54 (7.4)	28 (7.5)
不満		123 (5.8)	78 (3.4)	113 (3.9)	29 (4.0)	33 (8.9)

Q 1 b (上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中で当てはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
該当者総数	数	352 (100.0)	301 (100.0)	365 (100.0)	83 (100.0)	61 (100.0)
家庭に収入が少ない		79 (22.4)	94 (31.2)	143 (39.2)	39 (47.0)	36 (59.0)
家庭内に争いごとがある		166 (47.2)	118 (39.2)	141 (38.6)	27 (32.5)	31 (50.8)
親の愛情が足りない		107 (30.4)	79 (26.2)	95 (26.0)	23 (27.7)	28 (45.9)
親が自分を理解してくれない		189 (53.7)	150 (49.8)	160 (43.8)	35 (42.2)	30 (49.2)
病人がいる		33 (9.4)	21 (7.0)	36 (9.9)	9 (10.8)	6 (9.8)
きょうだいが合わない		85 (24.1)	66 (21.9)	79 (21.6)	24 (28.9)	16 (26.2)
家の周囲の環境が悪い		64 (18.2)	45 (15.0)	55 (15.1)	10 (12.0)	11 (18.0)
家が狭すぎる		96 (27.3)	61 (20.3)	80 (21.9)	18 (21.7)	9 (14.8)
ただなんとなく		104 (29.5)	65 (21.6)	55 (15.1)	11 (13.3)	5 (8.2)
その他		114 (32.4)	73 (24.3)	106 (29.0)	18 (21.7)	8 (13.1)

Q2 あなたは家の中で、次のこと（ア～キ）を感じたり思ったりしたことがありますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 家族との絆を失いたいと感じることが・・・（10年調査以前は「家族と断絶することが」）

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,108 (100.0)	2,260 (100.0)	2,862 (100.0)	724 (100.0)	372 (100.0)
よくある		976 (46.3)	1,257 (55.6)	1,472 (51.4)	372 (51.4)	171 (46.0)
ときどきある		687 (32.6)	639 (28.3)	1,048 (36.6)	264 (36.5)	121 (32.5)
あまりない		361 (17.1)	325 (14.4)	277 (9.7)	71 (9.8)	53 (14.2)
まったくない		84 (4.0)	39 (1.7)	65 (2.3)	17 (2.3)	27 (7.3)

イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思うことが・・・（10年調査以前は「家では自分の部屋にひとりであることが」）

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,106 (100.0)	2,257 (100.0)	2,861 (100.0)	724 (100.0)	372 (100.0)
よくある		943 (44.8)	991 (43.9)	787 (28.8)	180 (24.9)	123 (33.1)
ときどきある		510 (24.2)	604 (26.8)	1,073 (37.5)	264 (36.5)	130 (34.9)
あまりない		438 (20.8)	480 (21.3)	814 (28.5)	211 (29.1)	95 (25.5)
まったくない		215 (10.2)	182 (8.1)	207 (7.2)	69 (9.5)	24 (6.5)

ウ 自分の将来について、親に話したいと思うことが・・・（10年調査以前は「自分の将来について、親に話しかけることが」）

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,106 (100.0)	2,258 (100.0)	2,859 (100.0)	724 (100.0)	372 (100.0)
よくある		340 (16.1)	371 (16.4)	806 (28.2)	188 (26.0)	62 (16.7)
ときどきある		767 (36.4)	969 (42.9)	1,132 (39.6)	277 (38.3)	140 (37.6)
あまりない		678 (32.2)	667 (29.5)	700 (24.5)	191 (26.4)	108 (29.0)
まったくない		321 (15.2)	251 (11.1)	221 (7.7)	68 (9.4)	62 (16.7)

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感ずることが・・・

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,100 (100.0)	2,257 (100.0)	2,857 (100.0)	724 (100.0)	372 (100.0)
よくある		140 (6.7)	102 (4.5)	184 (6.4)	46 (6.4)	52 (14.0)
ときどきある		546 (26.0)	551 (24.4)	551 (19.3)	152 (21.0)	77 (20.7)
あまりない		941 (44.8)	1,099 (48.7)	1,336 (46.8)	348 (48.1)	140 (37.6)
まったくない		473 (22.5)	505 (22.4)	786 (27.5)	178 (24.6)	103 (27.7)

オ 親がきびしすぎると感ずることが・・・

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,106 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)	724 (100.0)	372 (100.0)
よくある		238 (11.3)	202 (8.9)	298 (10.4)	61 (8.4)	45 (12.1)
ときどきある		698 (33.1)	753 (33.3)	983 (34.2)	231 (31.9)	105 (28.2)
あまりない		904 (42.9)	1,018 (45.1)	1,253 (43.6)	326 (45.0)	138 (37.1)
まったくない		266 (12.6)	286 (12.7)	341 (11.9)	106 (14.6)	84 (22.6)

カ 親のいうことは、気まぐれであると感ずることが・・・

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,102 (100.0)	2,259 (100.0)	2,872 (100.0)	726 (100.0)	372 (100.0)
よくある		145 (6.9)	106 (4.7)	156 (5.4)	48 (6.6)	40 (10.8)
ときどきある		503 (23.9)	490 (21.7)	607 (21.1)	166 (22.9)	98 (26.3)
あまりない		890 (42.3)	1,035 (45.8)	1,192 (41.5)	328 (45.2)	133 (35.8)
まったくない		564 (26.8)	628 (27.8)	917 (31.9)	184 (25.3)	101 (27.2)

キ 親が自分のいいなりになりすぎると感ずることが・・・

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,101 (100.0)	2,256 (100.0)	2,875 (100.0)	727 (100.0)	372 (100.0)
よくある		46 (2.2)	28 (1.2)	24 (0.8)	10 (1.4)	16 (4.3)
ときどきある		253 (12.0)	213 (9.4)	261 (9.1)	53 (7.3)	39 (10.5)
あまりない		889 (42.3)	988 (43.8)	1,087 (37.8)	268 (36.8)	131 (35.2)
まったくない		913 (43.5)	1,027 (45.5)	1,503 (52.3)	406 (55.8)	186 (50.0)

Q3 あなたは、友達づきあいにどれくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,107 (100.0)	2,268 (100.0)	2,892 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
満足		874 (41.5)	1,042 (45.9)	1,391 (48.3)	371 (50.8)	128 (34.4)
やや満足		606 (28.8)	636 (28.0)	821 (28.5)	196 (26.8)	96 (25.8)
どちらとも言えない		409 (19.4)	412 (18.2)	407 (14.1)	111 (15.2)	84 (22.6)
やや不満		144 (6.8)	129 (5.7)	195 (6.8)	42 (5.8)	27 (7.3)
不満		74 (3.5)	49 (2.2)	68 (2.4)	10 (1.4)	37 (9.9)

Q3b (上の質問で「4やや不満」、「5不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中からあてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
該当者総数	数	218 (100.0)	178 (100.0)	263 (100.0)	82 (100.0)	64 (100.0)
気の合う友達がない		108 (49.5)	77 (43.3)	101 (38.4)	23 (44.2)	34 (53.1)
お互いに心を打ち明け合うことができない		109 (50.0)	106 (59.6)	138 (52.5)	29 (55.8)	38 (59.4)
自分よりもほかの人と仲良くする		52 (23.9)	47 (26.4)	69 (26.2)	14 (26.9)	13 (20.3)
仲間はずれにされる		38 (17.4)	42 (23.6)	49 (18.6)	12 (23.1)	7 (10.9)
自分のすることに口出ししてくる		56 (25.7)	40 (22.5)	62 (23.6)	15 (28.8)	6 (9.4)
グループの中のまとまりが悪い		84 (38.5)	70 (39.3)	83 (31.6)	18 (34.6)	16 (25.0)
自分のことを分かってくれない		61 (28.0)	61 (34.3)	80 (30.4)	19 (36.5)	18 (28.1)
自分のいうことが通らない		49 (22.5)	49 (27.5)	54 (20.5)	13 (25.0)	7 (10.9)
つき合っているにもかかわらず自分が向かない		95 (43.6)	82 (46.1)	92 (35.0)	19 (36.5)	25 (39.1)
自分に冷たい		31 (14.2)	33 (18.5)	40 (15.2)	9 (17.3)	5 (7.8)
好きでもないのにつき合わなければならない		80 (36.7)	77 (43.3)	112 (42.6)	18 (34.6)	17 (26.6)
その他		80 (36.7)	51 (28.7)	96 (36.5)	10 (19.2)	16 (25.0)

Q4 あなたと友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選び、番号の欄に○をつけてください。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
悲しいことがあったら話を聞いてもらう		1,475 (69.7)	1,725 (75.9)	2,168 (74.8)	554 (75.9)	249 (66.9)
相手にけっこう気をつけている		687 (32.5)	886 (39.0)	1,101 (38.0)	220 (30.1)	160 (43.0)
あまり深刻な相談はしない		562 (26.5)	604 (26.6)	809 (27.9)	207 (28.4)	120 (32.3)
つき合っているのは、何か得るものがあるからだ		406 (19.2)	543 (23.9)	978 (33.8)	237 (32.5)	119 (32.0)
お互いに張り合う気持ちがある		683 (32.3)	822 (36.1)	1,031 (35.6)	246 (33.7)	160 (43.0)
けんかをし合える		717 (33.9)	897 (39.4)	1,392 (48.0)	392 (53.7)	189 (50.8)
何も言わなくても、分かり合えている		856 (40.4)	959 (42.2)	1,418 (48.9)	387 (53.0)	158 (42.5)
お互いの性格は裏の裏まで知っている		987 (46.6)	976 (42.9)	1,396 (48.2)	325 (44.5)	122 (32.8)
自分のすべてをさらけ出すわけではない		463 (21.9)	665 (29.2)	808 (27.9)	198 (27.1)	140 (37.6)
お互いに悪いところは悪いと言合える		1,217 (57.5)	1,509 (66.4)	1,996 (68.9)	512 (70.1)	251 (67.5)
一緒にいるときでも別々のことをしている		359 (17.0)	496 (21.8)	724 (25.0)	217 (29.7)	107 (28.8)

Q5 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。

次の中から、一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,107 (100.0)	2,282 (100.0)	2,857 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
いつもそばにいて相手になってくれる人		210 (10.0)	240 (10.6)	391 (13.7)	113 (15.6)	33 (8.9)
他の人にいえないことを聞いてくれる人		591 (28.0)	534 (23.6)	587 (20.5)	123 (17.0)	60 (16.2)
競争相手となって自分を伸ばしてくれる人		401 (19.0)	371 (16.4)	470 (16.5)	101 (14.0)	94 (25.3)
いろいろな情報を教えてくれる人		32 (1.5)	13 (0.6)	44 (1.5)	6 (0.8)	10 (2.7)
困ったときに助けてくれる人		804 (38.2)	976 (43.1)	1,172 (41.0)	329 (45.4)	138 (37.2)
面白味や個性が溢れている人		69 (3.3)	128 (5.7)	193 (6.8)	52 (7.2)	36 (9.7)

Q6 あなたにとって、次の質問(A～E)にあてはまる人はどんな人ですか。

あてはまる人を何人でも選び、番号に○をつけてください。

A あなたが、気楽に話ができると思うのはどんな人ですか。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
父親		787 (37.2)	969 (42.6)	1,296 (44.7)	292 (40.0)	118 (31.7)
母親		1,367 (64.6)	1,625 (71.5)	2,147 (74.1)	504 (69.0)	210 (56.5)
兄弟姉妹		1,198 (56.6)	1,449 (63.7)	1,804 (62.3)	378 (51.8)	187 (50.3)
祖父母 (おじいさん・おばあさん)		454 (21.4)	624 (27.4)	914 (31.5)	221 (30.3)	80 (21.5)
親戚の人		404 (19.1)	454 (20.0)	614 (21.2)	121 (16.6)	53 (14.2)
同性の友達・仲間		1,826 (86.3)	2,018 (88.7)	2,503 (86.4)	623 (85.3)	284 (76.3)
異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻)		1,898 (89.6)	1,834 (80.7)	2,304 (79.5)	518 (71.0)	271 (72.8)
先輩		885 (41.8)	985 (43.3)	1,042 (36.0)	243 (33.3)	122 (32.8)
先生		298 (14.1)	455 (20.0)	689 (23.8)	132 (18.1)	28 (7.5)
近所の人		144 (6.8)	198 (8.7)	232 (8.0)	34 (4.7)	21 (5.6)
ネット上の友達・知り合い		---	---	---	54 (7.4)	45 (12.1)
誰もいない		27 (1.3)	10 (0.4)	22 (0.8)	4 (0.5)	12 (3.2)
その他		206 (9.7)	150 (6.6)	216 (7.5)	19 (2.6)	16 (4.3)

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
父親		414 (19.6)	461 (20.3)	774 (26.7)	192 (26.3)	88 (23.7)
母親		789 (37.3)	911 (40.1)	1,458 (50.3)	351 (48.1)	154 (41.4)
兄弟姉妹		581 (27.4)	652 (28.7)	1,013 (35.0)	235 (32.2)	141 (37.9)
祖父母 (おじいさん・おばあさん)		136 (6.4)	149 (6.6)	394 (13.6)	102 (14.0)	43 (11.6)
親戚の人		147 (6.9)	121 (5.3)	226 (7.8)	59 (8.1)	30 (8.1)
同性の友達・仲間		1,895 (88.3)	1,793 (78.8)	2,223 (76.7)	561 (76.8)	247 (66.4)
異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻)		1,406 (66.4)	1,535 (67.5)	2,001 (69.1)	452 (61.9)	231 (62.1)
先輩		557 (26.3)	578 (25.4)	742 (25.6)	174 (23.8)	107 (28.8)
先生		156 (7.4)	209 (9.2)	380 (13.1)	88 (12.1)	21 (5.6)
近所の人		18 (0.9)	22 (1.0)	41 (1.4)	6 (0.8)	4 (1.1)
ネット上の友達・知り合い		---	---	---	36 (4.9)	28 (7.5)
誰もいない		74 (3.5)	63 (2.8)	70 (2.4)	22 (3.0)	25 (6.7)
その他		141 (6.7)	95 (4.2)	148 (5.1)	16 (2.2)	16 (4.3)

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのは、どの人ですか。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
父親		920 (43.5)	1,135 (49.9)	1,533 (52.9)	375 (51.4)	142 (38.2)
母親		948 (44.8)	1,147 (50.4)	1,669 (57.6)	429 (58.8)	155 (41.7)
兄弟姉妹		530 (25.0)	632 (27.8)	843 (29.1)	185 (25.3)	114 (30.6)
祖父母 (おじいさん・おばあさん)		504 (23.8)	610 (26.8)	952 (32.9)	226 (31.0)	76 (20.4)
親戚の人		445 (21.0)	476 (20.9)	664 (22.9)	147 (20.1)	48 (12.9)
同性の友達・仲間		927 (43.8)	1,174 (51.6)	1,506 (52.0)	365 (50.0)	164 (44.1)
異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻)		1,395 (65.9)	1,472 (64.7)	1,938 (66.9)	411 (56.3)	197 (53.0)
先輩		848 (40.1)	1,093 (48.1)	1,444 (49.8)	326 (44.7)	147 (39.5)
先生		355 (16.8)	511 (22.5)	786 (27.1)	153 (21.0)	50 (13.4)
近所の人		143 (6.8)	176 (7.7)	303 (10.5)	65 (8.9)	20 (5.4)
ネット上の友達・知り合い		---	---	---	12 (1.6)	12 (3.2)
誰もいない		88 (4.2)	44 (1.9)	70 (2.4)	13 (1.8)	23 (6.2)
その他		195 (9.2)	140 (6.2)	205 (7.1)	29 (4.0)	29 (7.8)

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
父親		755 (35.7)	884 (38.9)	1,241 (42.8)	330 (45.2)	144 (38.7)
母親		498 (23.5)	548 (24.1)	1,031 (35.6)	282 (38.6)	107 (28.8)
兄弟姉妹		227 (10.7)	300 (13.2)	392 (13.5)	105 (14.4)	66 (17.7)
祖父母 (おじいさん・おばあさん)		178 (8.4)	185 (8.1)	396 (13.7)	86 (11.8)	51 (13.7)
親戚の人		190 (9.0)	186 (8.2)	243 (8.4)	66 (9.0)	28 (7.5)
同性の友達・仲間		375 (17.7)	424 (18.6)	580 (20.0)	119 (16.3)	84 (22.6)
異性の友達・恋人・配偶者 (夫や妻)		252 (11.9)	225 (9.9)	293 (10.1)	60 (8.2)	46 (12.4)
先輩		502 (23.7)	589 (25.9)	766 (26.4)	212 (29.0)	96 (25.8)
先生		218 (10.3)	207 (9.1)	329 (11.4)	64 (8.8)	29 (7.8)
近所の人		50 (2.4)	37 (1.6)	58 (2.0)	10 (1.4)	4 (1.1)
ネット上の友達・知り合い		---	---	---	9 (1.2)	10 (2.7)
誰もいない		354 (16.7)	347 (15.3)	359 (12.4)	76 (10.4)	67 (18.0)
その他		369 (17.4)	309 (13.6)	387 (13.4)	44 (6.0)	26 (7.0)

Q7 あなたの中学時代や高校時代の学校生活についてうかがいます。

(高校に入ったことのある人はあなたの高校生活について答えてください。それ以外の人は、あなたの中学校生活について答えてください。)

あなたがその学校の生徒や学生だったとき、次のこと(ア〜キ)がどれくらいありましたか。

(17年調査は「あなたが中学生の時、次の(ア〜キ)のことが、どれくらいあてはまりましたか。」)

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 学校に行くのがいやだった

区	分	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,877 (100.0)	727 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		442 (15.4)	110 (15.1)	81 (21.8)
ややあてはまる		909 (31.6)	227 (31.2)	75 (20.2)
あまりあてはまらない		782 (27.2)	201 (27.6)	121 (32.5)
まったくあてはまらない		744 (25.9)	189 (26.0)	95 (25.5)

イ 勉強が分からないことが多かった (今回調査新規)

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	727 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		356 (49.0)	160 (43.0)
ややあてはまる		245 (33.7)	121 (32.5)
あまりあてはまらない		103 (14.2)	69 (18.5)
まったくあてはまらない		23 (3.2)	22 (5.9)

ウ クラブ活動などうちこめるものがあった（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	371 (100.0)
とてもあてはまる		226 (31.1)	126 (34.0)
ややあてはまる		177 (24.3)	71 (19.1)
あまりあてはまらない		142 (19.5)	79 (21.3)
まったくあてはまらない		182 (25.0)	95 (25.6)

エ 先生から理解されていた（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	726 (100.0)	371 (100.0)
とてもあてはまる		109 (15.0)	41 (11.1)
ややあてはまる		254 (35.0)	118 (31.8)
あまりあてはまらない		239 (32.9)	136 (36.7)
まったくあてはまらない		124 (17.1)	76 (20.5)

オ 同級生から理解されていた（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	726 (100.0)	371 (100.0)
とてもあてはまる		192 (26.4)	58 (15.6)
ややあてはまる		348 (47.9)	167 (45.0)
あまりあてはまらない		131 (18.0)	109 (29.4)
まったくあてはまらない		55 (7.6)	37 (10.0)

カ 学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	728 (100.0)	371 (100.0)
とてもあてはまる		20 (2.7)	12 (3.2)
ややあてはまる		74 (10.2)	43 (11.6)
あまりあてはまらない		130 (17.9)	70 (18.9)
まったくあてはまらない		504 (69.2)	246 (66.3)

キ 悪く思われていた（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	370 (100.0)
とてもあてはまる		106 (14.6)	68 (18.4)
ややあてはまる		225 (30.9)	112 (30.3)
あまりあてはまらない		258 (35.5)	128 (34.6)
まったくあてはまらない		138 (19.0)	62 (16.8)

Q8 働くことや仕事について、あなたの考えをうかがいます。

次の中から、自分にもっともあてはまる番号をひとつ選んで番号を記入してください。（今回調査新設）

ア 学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から自立すべきだ

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	371 (100.0)
とてもそう思う		310 (42.6)	189 (50.9)
どちらかといえばそう思う		285 (39.2)	128 (34.5)
どちらかといえばそう思わない		107 (14.7)	47 (12.7)
ぜんぜんそう思わない		25 (3.4)	7 (1.9)

イ 汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事をしたい

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	371 (100.0)
とてもそう思う		81 (11.1)	58 (15.6)
どちらかといえばそう思う		192 (26.4)	121 (32.6)
どちらかといえばそう思わない		218 (30.0)	93 (25.1)
ぜんぜんそう思わない		236 (32.5)	99 (26.7)

ウ 自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	728 (100.0)	371 (100.0)
とてもそう思う		5 (0.7)	6 (1.6)
どちらかといえばそう思う		10 (1.4)	16 (4.3)
どちらかといえばそう思わない		120 (16.5)	69 (18.6)
ぜんぜんそう思わない		593 (81.5)	280 (75.5)

エ フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	722 (100.0)	371 (100.0)
とてもそう思う		190 (26.3)	133 (35.8)
どちらかといえばそう思う		232 (32.1)	111 (29.9)
どちらかといえばそう思わない		192 (26.6)	73 (19.7)
ぜんぜんそう思わない		108 (15.0)	54 (14.6)

オ 仕事や就職に役立つ資格や免許は習得しても取りたい

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	728 (100.0)	371 (100.0)
とてもそう思う		428 (58.8)	256 (69.0)
どちらかといえばそう思う		247 (33.9)	86 (23.2)
どちらかといえばそう思わない		43 (5.9)	23 (6.2)
ぜんぜんそう思わない		10 (1.4)	6 (1.6)

カ 職場の人間関係は面倒くさい

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	712 (100.0)	372 (100.0)
とてもそう思う		47 (6.6)	51 (13.7)
どちらかといえばそう思う		165 (23.2)	99 (26.6)
どちらかといえばそう思わない		241 (33.8)	115 (30.9)
ぜんぜんそう思わない		259 (36.4)	107 (28.8)

キ 努力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	720 (100.0)	372 (100.0)
とてもそう思う		402 (55.8)	189 (50.8)
どちらかといえばそう思う		243 (33.8)	125 (33.6)
どちらかといえばそう思わない		62 (8.6)	40 (10.8)
ぜんぜんそう思わない		13 (1.8)	18 (4.8)

ク 仕事について夢や目標を持っている

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	720 (100.0)	372 (100.0)
とてもそう思う		399 (55.4)	185 (49.7)
どちらかといえばそう思う		199 (27.6)	114 (30.6)
どちらかといえばそう思わない		89 (12.4)	50 (13.4)
ぜんぜんそう思わない		33 (4.6)	23 (6.2)

Q9 あなたの住んでいた地域とのかかわりで、次のことがどれくらいあてはまりますか。
次の中から、自分にもっともあてはまる番号をひとつ選んで記入してください。（今回調査新設）

ア 地域のお祭りなど行事にはよく参加した

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		343 (47.2)	145 (39.0)
ややあてはまる		227 (31.2)	115 (30.9)
ややあてはまらない		91 (12.5)	55 (14.8)
まったくあてはまらない		66 (9.1)	57 (15.3)

イ 地域のスポーツ活動によく参加した

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		136 (18.7)	63 (16.9)
ややあてはまる		154 (21.2)	64 (17.2)
ややあてはまらない		174 (23.9)	74 (19.9)
まったくあてはまらない		263 (36.2)	171 (46.0)

ウ 公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	726 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		49 (6.7)	28 (7.5)
ややあてはまる		132 (18.2)	75 (20.2)
ややあてはまらない		201 (27.7)	71 (19.1)
まったくあてはまらない		344 (47.4)	198 (53.2)

エ 地域の人は、困ったときに力になってくれる

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	727 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		71 (9.8)	33 (8.9)
ややあてはまる		205 (28.2)	103 (27.7)
ややあてはまらない		211 (29.0)	80 (21.5)
まったくあてはまらない		240 (33.0)	156 (41.9)

オ 地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	725 (100.0)	372 (100.0)
とてもあてはまる		159 (21.9)	99 (26.6)
ややあてはまる		288 (39.7)	128 (34.4)
ややあてはまらない		172 (23.7)	70 (18.8)
まったくあてはまらない		106 (14.6)	75 (20.2)

Q10 あなたは、今の社会についてどのくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,093 (100.0)	2,251 (100.0)	2,860 (100.0)	721 (100.0)	372 (100.0)
満足		270 (12.9)	284 (12.6)	306 (10.7)	78 (10.8)	20 (5.4)
やや満足		479 (22.9)	456 (20.3)	664 (23.2)	190 (26.4)	38 (10.2)
どちらとも言えない		894 (42.7)	963 (42.8)	1,208 (42.2)	296 (41.1)	172 (46.2)
やや不満		268 (12.8)	354 (15.7)	457 (16.0)	103 (14.3)	69 (18.5)
不満		182 (8.7)	194 (8.6)	225 (7.9)	54 (7.5)	73 (19.6)

Q10b (上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)
「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
該当者総数	数	450 (100.0)	548 (100.0)	682 (100.0)	157 (100.0)	142 (100.0)
社会のしくみがきまりきっている		221 (49.1)	286 (52.2)	289 (42.4)	57 (36.3)	57 (40.1)
若者の意見が反映されない		265 (58.9)	345 (63.0)	426 (62.5)	76 (48.4)	57 (40.1)
正しいと思うことが通らない		220 (48.9)	306 (55.8)	391 (57.3)	79 (50.3)	69 (48.6)
国民の意見がまとまっていない		134 (29.8)	183 (33.4)	284 (41.6)	65 (41.4)	62 (43.7)
金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる		303 (67.3)	332 (60.6)	501 (73.5)	104 (66.2)	104 (73.2)
まじめな者がむくわれない		126 (28.0)	171 (31.2)	201 (29.5)	50 (31.8)	65 (45.8)
人々の考え方や行動が乱れている		205 (45.6)	241 (44.0)	344 (50.4)	73 (46.5)	65 (45.8)
その他		170 (37.8)	165 (30.1)	222 (32.6)	37 (23.6)	44 (31.0)

Q11 あなたは、次の意見(ア～エ)に賛成ですか、それとも反対ですか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,113 (100.0)	2,267 (100.0)	2,870 (100.0)	727 (100.0)	372 (100.0)
賛成		760 (36.0)	688 (30.3)	789 (27.5)	153 (21.0)	109 (29.3)
やや賛成		626 (29.6)	683 (30.1)	973 (33.9)	248 (34.1)	102 (27.4)
どちらともいえない		507 (24.0)	614 (27.1)	725 (25.3)	240 (33.0)	119 (32.0)
やや反対		128 (6.1)	186 (8.2)	249 (8.7)	59 (8.1)	31 (8.3)
反対		92 (4.4)	96 (4.2)	134 (4.7)	27 (3.7)	11 (3.0)

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,114 (100.0)	2,267 (100.0)	2,867 (100.0)	725 (100.0)	372 (100.0)
賛成		304 (14.4)	279 (12.3)	433 (15.1)	125 (17.2)	57 (15.3)
やや賛成		616 (29.1)	663 (29.2)	968 (33.8)	275 (37.9)	107 (28.8)
どちらともいえない		781 (36.9)	747 (33.0)	848 (29.6)	194 (26.8)	147 (39.5)
やや反対		241 (11.4)	328 (14.5)	394 (13.7)	92 (12.7)	34 (9.1)
反対		172 (8.1)	250 (11.0)	224 (7.8)	39 (5.4)	27 (7.3)

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,114 (100.0)	2,265 (100.0)	2,868 (100.0)	727 (100.0)	372 (100.0)
賛成		466 (22.0)	392 (17.3)	483 (16.8)	102 (14.0)	49 (13.2)
やや賛成		408 (19.3)	456 (20.1)	575 (20.0)	140 (19.3)	65 (17.5)
どちらともいえない		632 (29.9)	714 (31.5)	871 (30.4)	246 (33.8)	113 (30.4)
やや反対		397 (18.8)	475 (21.0)	644 (22.5)	161 (22.1)	92 (24.7)
反対		211 (10.0)	228 (10.1)	295 (10.3)	78 (10.7)	53 (14.2)

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,113 (100.0)	2,267 (100.0)	2,867 (100.0)	726 (100.0)	372 (100.0)
賛成		187 (8.8)	143 (6.3)	257 (9.0)	68 (9.4)	25 (6.7)
やや賛成		400 (18.9)	375 (16.5)	678 (23.6)	181 (24.9)	82 (22.0)
どちらともいえない		724 (34.3)	802 (35.4)	904 (31.5)	233 (32.1)	127 (34.1)
やや反対		433 (20.5)	526 (23.2)	610 (21.3)	154 (21.2)	78 (21.0)
反対		369 (17.5)	421 (18.6)	418 (14.6)	90 (12.4)	60 (16.1)

オ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総数	数	2,114 (100.0)	2,257 (100.0)	2,850 (100.0)	727 (100.0)	372 (100.0)
賛成		944 (44.7)	705 (31.2)	929 (32.6)	245 (33.7)	97 (26.1)
やや賛成		470 (22.2)	484 (21.4)	658 (23.1)	164 (22.6)	76 (20.4)
どちらともいえない		456 (21.6)	640 (28.4)	691 (24.2)	182 (25.0)	111 (29.8)
やや反対		136 (6.4)	241 (10.7)	301 (10.6)	86 (11.8)	40 (10.8)
反対		108 (5.1)	187 (8.3)	271 (9.5)	50 (6.9)	48 (12.9)

カ 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,113 (100.0)	2,256 (100.0)	2,846 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		367 (17.4)	308 (13.7)	463 (16.3)	96 (13.2)	86 (23.2)
やや賛成		364 (17.2)	342 (15.2)	593 (20.8)	147 (20.2)	84 (22.6)
どちらともいえない		781 (37.0)	834 (37.0)	948 (33.3)	295 (40.6)	97 (26.1)
やや反対		290 (13.3)	415 (18.4)	476 (16.7)	107 (14.7)	54 (14.6)
反対		321 (15.2)	357 (15.8)	366 (12.9)	82 (11.3)	50 (13.5)

キ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,114 (100.0)	2,258 (100.0)	2,847 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		1,137 (53.8)	1,007 (44.6)	822 (28.9)	159 (21.9)	89 (24.0)
やや賛成		538 (25.4)	613 (27.1)	837 (29.4)	202 (27.8)	90 (24.3)
どちらともいえない		358 (16.9)	512 (22.7)	870 (30.6)	283 (38.9)	138 (37.2)
やや反対		42 (2.0)	71 (3.1)	193 (6.8)	54 (7.4)	26 (7.0)
反対		39 (1.8)	55 (2.4)	125 (4.4)	29 (4.0)	28 (7.5)

ク 「悪い事をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,113 (100.0)	2,257 (100.0)	2,844 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		893 (42.3)	456 (20.2)	545 (19.2)	120 (16.5)	76 (20.5)
やや賛成		588 (27.8)	567 (25.1)	725 (25.5)	165 (22.7)	75 (20.2)
どちらともいえない		589 (27.9)	718 (31.8)	849 (29.9)	227 (31.2)	95 (25.6)
やや反対		140 (6.6)	279 (12.4)	406 (14.3)	115 (15.8)	58 (15.6)
反対		103 (4.9)	237 (10.5)	319 (11.2)	100 (13.8)	67 (18.1)

ケ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,114 (100.0)	2,258 (100.0)	2,849 (100.0)	728 (100.0)	371 (100.0)
賛成		290 (13.2)	317 (14.0)	356 (12.5)	84 (11.5)	42 (11.3)
やや賛成		365 (17.3)	509 (22.5)	649 (22.8)	157 (21.6)	74 (19.9)
どちらともいえない		740 (35.0)	718 (31.8)	885 (30.4)	242 (33.2)	114 (30.7)
やや反対		451 (21.3)	480 (20.4)	669 (23.5)	151 (20.7)	69 (18.6)
反対		278 (13.2)	254 (11.2)	310 (10.9)	94 (12.9)	72 (19.4)

コ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方ないことだ」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,115 (100.0)	2,258 (100.0)	2,850 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		153 (7.2)	133 (5.9)	133 (4.7)	27 (3.7)	24 (6.5)
やや賛成		187 (8.8)	237 (10.5)	279 (9.8)	80 (11.0)	36 (9.7)
どちらともいえない		541 (25.6)	556 (24.6)	695 (24.4)	173 (23.8)	75 (20.2)
やや反対		558 (26.4)	589 (26.1)	867 (30.4)	222 (30.5)	91 (24.5)
反対		676 (32.0)	743 (32.9)	876 (30.7)	225 (30.9)	145 (39.1)

サ 「義理人情を大切にすべきだ」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,113 (100.0)	2,252 (100.0)	2,830 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
賛成		959 (45.4)	829 (36.8)	1,121 (39.6)	300 (41.4)	218 (58.8)
やや賛成		601 (28.4)	641 (28.5)	737 (26.0)	191 (26.4)	96 (26.9)
どちらともいえない		483 (22.9)	700 (31.1)	837 (29.6)	208 (28.7)	48 (12.9)
やや反対		48 (2.3)	51 (2.3)	85 (3.0)	17 (2.3)	4 (1.1)
反対		22 (1.0)	31 (1.4)	50 (1.8)	8 (1.1)	5 (1.3)

シ 「努力するよりも運よくふるまう方がよい」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,115 (100.0)	2,258 (100.0)	2,844 (100.0)	725 (100.0)	371 (100.0)
賛成		189 (8.9)	149 (6.6)	219 (7.7)	45 (6.2)	25 (6.7)
やや賛成		385 (18.2)	376 (16.7)	561 (19.7)	174 (24.0)	86 (23.2)
どちらともいえない		800 (37.8)	936 (41.5)	1,066 (37.5)	304 (41.9)	135 (36.4)
やや反対		430 (20.3)	524 (23.2)	662 (23.3)	143 (19.7)	83 (22.4)
反対		311 (14.7)	273 (12.1)	336 (11.8)	59 (8.1)	42 (11.3)

ス 「リーダーになって指導するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」

区	分	2年調査（少年）	10年調査（少年）	17年調査（少年）	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	2,113 (100.0)	2,258 (100.0)	2,845 (100.0)	728 (100.0)	371 (100.0)
賛成		128 (6.1)	131 (5.8)	224 (7.9)	43 (5.9)	22 (5.9)
やや賛成		245 (11.6)	260 (11.5)	452 (15.9)	108 (14.8)	51 (13.7)
どちらともいえない		793 (37.1)	706 (31.3)	790 (27.8)	214 (29.4)	99 (26.7)
やや反対		461 (21.8)	597 (26.4)	702 (24.7)	188 (25.8)	81 (21.8)
反対		496 (23.5)	564 (25.0)	677 (23.8)	175 (24.0)	118 (31.8)

セ 「将来のために現在の楽しみを我慢するのばかげている」

区	分	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,257 (100.0)	2,846 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		304 (13.5)	317 (11.1)	61 (8.4)	34 (9.2)
やや賛成		410 (18.2)	454 (16.0)	125 (17.2)	37 (10.0)
どちらともいえない		756 (33.5)	839 (29.5)	226 (31.1)	112 (30.2)
やや反対		477 (21.1)	710 (24.9)	193 (26.5)	93 (25.1)
反対		310 (13.7)	526 (18.5)	122 (16.8)	95 (25.6)

ソ 「自分の命をどうだめにしようとするの勝手だ」

区	分	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,257 (100.0)	2,846 (100.0)	727 (100.0)	371 (100.0)
賛成		190 (8.4)	242 (8.5)	57 (7.8)	37 (10.0)
やや賛成		184 (8.2)	208 (7.3)	70 (9.6)	28 (7.5)
どちらともいえない		379 (16.8)	352 (12.4)	116 (15.9)	64 (17.3)
やや反対		484 (21.4)	531 (18.7)	125 (17.2)	69 (18.6)
反対		1,020 (45.2)	1,513 (53.2)	360 (49.5)	173 (46.6)

タ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

区	分	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,258 (100.0)	2,845 (100.0)	726 (100.0)	371 (100.0)
賛成		913 (40.4)	1,299 (45.7)	278 (38.3)	153 (41.2)
やや賛成		765 (33.9)	978 (34.4)	259 (35.7)	111 (29.9)
どちらともいえない		480 (21.3)	463 (16.3)	154 (21.2)	85 (22.9)
やや反対		59 (2.6)	56 (2.0)	24 (3.3)	10 (2.7)
反対		41 (1.8)	49 (1.7)	11 (1.5)	12 (3.2)

Q12 あなたは日ごろの生活で、次(ア～シ)のような感じになることがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 世の中には自分しか信じないものがないという感じが・・・

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,260 (100.0)	2,872 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
よくある		229 (10.8)	187 (8.3)	173 (6.0)	45 (6.2)	52 (14.0)
ときどきある		701 (33.1)	727 (32.2)	754 (26.3)	200 (27.6)	140 (37.7)
あまりない		800 (37.8)	845 (37.4)	1,139 (39.7)	257 (35.5)	111 (29.9)
まったくない		385 (18.2)	501 (22.2)	806 (28.1)	222 (30.7)	66 (18.3)

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが・・・

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,260 (100.0)	2,872 (100.0)	725 (100.0)	371 (100.0)
よくある		595 (28.1)	442 (19.6)	558 (19.4)	142 (19.6)	108 (29.1)
ときどきある		988 (46.7)	1,039 (46.0)	1,218 (42.4)	311 (42.9)	150 (40.4)
あまりない		385 (18.2)	579 (25.6)	669 (23.3)	167 (23.0)	76 (20.5)
まったくない		147 (7.0)	200 (8.8)	430 (15.0)	105 (14.5)	37 (10.0)

ウ 心のあたたまらない感じが・・・

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,113 (100.0)	2,261 (100.0)	2,870 (100.0)	725 (100.0)	371 (100.0)
よくある		288 (13.6)	218 (9.6)	246 (8.6)	62 (8.6)	66 (17.8)
ときどきある		881 (41.7)	901 (39.8)	891 (31.0)	206 (28.4)	126 (34.0)
あまりない		817 (38.7)	1,018 (45.0)	1,258 (43.8)	325 (44.8)	118 (31.8)
まったくない		127 (6.0)	224 (9.9)	475 (16.6)	132 (18.2)	61 (16.4)

エ 自分の性格がいやになるという感じが・・・

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,116 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)	726 (100.0)	371 (100.0)
よくある		550 (26.0)	498 (22.0)	707 (24.6)	208 (28.7)	107 (28.8)
ときどきある		1,022 (48.3)	1,124 (49.8)	1,377 (47.9)	326 (44.9)	165 (44.5)
あまりない		412 (19.5)	456 (20.2)	557 (19.4)	143 (19.7)	64 (17.3)
まったくない		132 (6.2)	181 (8.0)	234 (8.1)	49 (6.7)	35 (9.4)

オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じが・・・

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,260 (100.0)	2,874 (100.0)	725 (100.0)	371 (100.0)
よくある		348 (16.5)	239 (10.6)	392 (13.6)	120 (16.6)	56 (15.1)
ときどきある		875 (41.4)	934 (41.3)	1,142 (39.7)	304 (41.9)	138 (37.2)
あまりない		678 (32.1)	767 (33.9)	940 (32.7)	212 (29.2)	115 (31.0)
まったくない		214 (10.1)	320 (14.2)	400 (13.9)	89 (12.3)	62 (16.7)

カ 自分は世の中から取り残されているという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,259 (100.0)	2,871 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
よくある		248 (11.7)	184 (8.1)	266 (9.3)	91 (12.6)	64 (17.3)
ときどきある		642 (30.4)	641 (28.4)	805 (28.0)	175 (24.2)	135 (36.4)
あまりない		861 (40.7)	935 (41.4)	1,171 (40.8)	298 (41.2)	104 (28.0)
まったくない		364 (17.2)	499 (22.1)	629 (21.9)	160 (22.1)	68 (18.3)

キ 自分だけが悪く思われているという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,114 (100.0)	2,260 (100.0)	2,874 (100.0)	726 (100.0)	371 (100.0)
よくある		547 (25.9)	436 (19.3)	485 (16.9)	132 (18.2)	53 (14.3)
ときどきある		902 (42.7)	928 (41.1)	1,083 (37.7)	251 (34.6)	123 (33.2)
あまりない		526 (24.9)	670 (29.6)	918 (31.9)	233 (32.1)	118 (31.8)
まったくない		139 (6.6)	226 (10.0)	388 (13.5)	110 (15.2)	77 (20.8)

ク 自分は素直が難しいという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
よくある		832 (39.3)	791 (35.0)	934 (32.5)	239 (33.0)	161 (43.4)
ときどきある		878 (41.5)	910 (40.3)	1,154 (40.1)	272 (37.6)	132 (35.6)
あまりない		292 (13.8)	383 (17.0)	504 (17.5)	138 (19.1)	41 (11.1)
まったくない		113 (5.3)	175 (7.7)	283 (9.8)	75 (10.4)	37 (10.0)

ケ 自分はものごとに打ち込んでいるという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,115 (100.0)	2,258 (100.0)	2,871 (100.0)	723 (100.0)	371 (100.0)
よくある		313 (14.8)	442 (19.6)	715 (24.9)	155 (21.4)	80 (21.6)
ときどきある		955 (45.2)	1,047 (46.4)	1,307 (45.5)	277 (38.3)	161 (43.4)
あまりない		757 (35.8)	687 (30.4)	723 (25.2)	240 (33.2)	100 (27.0)
まったくない		90 (4.3)	82 (3.6)	126 (4.4)	51 (7.1)	30 (8.1)

コ 自分は頼りにされているという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,112 (100.0)	2,260 (100.0)	2,873 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
よくある		286 (13.5)	259 (11.5)	359 (12.5)	82 (11.3)	55 (14.8)
ときどきある		1,017 (48.2)	1,116 (49.4)	1,473 (51.3)	340 (47.0)	162 (43.7)
あまりない		673 (31.9)	743 (32.9)	844 (29.4)	239 (33.0)	109 (29.4)
まったくない		136 (6.4)	142 (6.3)	197 (6.9)	63 (8.7)	45 (12.1)

サ 自分の努力がだんだん果ててきているという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,112 (100.0)	2,260 (100.0)	2,871 (100.0)	723 (100.0)	371 (100.0)
よくある		212 (10.0)	306 (13.5)	483 (16.8)	112 (15.5)	37 (10.0)
ときどきある		913 (43.2)	1,039 (46.0)	1,273 (44.3)	288 (39.8)	170 (45.8)
あまりない		820 (38.8)	761 (33.7)	875 (30.5)	239 (33.1)	117 (31.5)
まったくない		167 (7.9)	154 (6.8)	240 (8.4)	84 (11.6)	47 (12.7)

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが・・・

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,109 (100.0)	2,258 (100.0)	2,872 (100.0)	724 (100.0)	371 (100.0)
よくある		391 (18.5)	501 (22.2)	783 (27.3)	206 (28.5)	86 (23.2)
ときどきある		833 (39.5)	900 (39.9)	1,121 (39.0)	300 (41.4)	126 (34.0)
あまりない		732 (34.7)	678 (30.0)	774 (26.9)	162 (22.4)	120 (32.3)
まったくない		153 (7.3)	179 (7.9)	194 (6.8)	56 (7.7)	39 (10.5)

Q13 青少年の非行や犯罪についてお聞きします。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア あなたは、青少年が非行や犯罪にまよるのは、どこに主な原因があると思いますか。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,107 (100.0)	2,236 (100.0)	2,812 (100.0)	717 (100.0)	370 (100.0)
自分自身		1,090 (51.7)	1,127 (50.4)	1,489 (53.0)	479 (66.8)	232 (62.7)
家族(親)		326 (15.5)	250 (11.2)	237 (8.4)	51 (7.1)	45 (12.2)
友達・仲間		583 (27.7)	763 (34.1)	920 (32.7)	158 (22.0)	67 (18.1)
その他		108 (5.1)	96 (4.3)	166 (5.9)	29 (4.0)	26 (7.0)

イ あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

区	分	2年調査(少年)	10年調査(少年)	17年調査(少年)	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	2,100 (100.0)	2,229 (100.0)	2,828 (100.0)	713 (100.0)	370 (100.0)
厳しく罰する		279 (13.3)	316 (14.2)	421 (14.9)	176 (24.7)	131 (35.4)
あたたかく指導する		1,821 (86.7)	1,913 (85.8)	2,407 (85.1)	537 (75.3)	239 (64.6)

Q14 次のような人について、あなたの考えをうかがいます。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。
(今回調査新設)

ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	725 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		643 (88.7)	234 (63.1)
気持ちか理解できる		79 (10.9)	131 (35.3)
親しみを感じる		3 (0.4)	6 (1.6)

イ あなたは「覚せい剤」を吸う人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	725 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		662 (91.3)	238 (64.2)
気持ちか理解できる		59 (8.1)	122 (32.9)
親しみを感じる		4 (0.6)	11 (3.0)

ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	726 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		641 (88.3)	233 (62.8)
気持ちか理解できる		79 (10.9)	125 (33.7)
親しみを感じる		6 (0.8)	13 (3.5)

エ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	725 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		434 (59.9)	165 (44.5)
気持ちか理解できる		246 (33.9)	170 (45.8)
親しみを感じる		45 (6.2)	36 (9.7)

オ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	725 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		620 (85.5)	259 (69.8)
気持ちか理解できる		95 (13.1)	95 (25.6)
親しみを感じる		10 (1.4)	17 (4.6)

カ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	724 (100.0)	371 (100.0)
自分には無関係		618 (85.4)	276 (74.4)
気持ちか理解できる		100 (13.8)	91 (24.5)
親しみを感じる		6 (0.8)	4 (1.1)

キ あなたは「振り込め詐欺」をする人についてどう思いますか

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	725 (100.0)	370 (100.0)
自分には無関係		677 (93.4)	303 (81.9)
気持ちか理解できる		46 (6.3)	59 (15.9)
親しみを感じる		2 (0.3)	8 (2.2)

Q15 あなたご自身が非行や犯罪をした原因として、どんなことが影響していたと思いますか。

次の中からあてはまるものを、いくつでも選択、番号に○をつけてください。(今回調査新設)

ア 家庭では・・・

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
家族の愛情やかかわりが不足していたこと		118 (16.2)	103 (27.7)
家族の関心が薄かったこと		124 (17.0)	114 (30.6)
家族からの暴力があったこと		55 (7.5)	47 (12.6)
親の世話をしつづけたことがなかったこと		49 (6.7)	54 (14.5)
何でも自分の思うように自由にできたこと		152 (20.8)	98 (26.3)
その他		66 (9.0)	47 (12.6)
特に問題なかった		378 (51.8)	123 (33.1)

イ 学校では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
勉強が分からなかった・つまらな かったこと		298 (40.8)	167 (44.9)
欠席やさぼりが多かったこと		297 (40.7)	160 (43.0)
先生との間にトラブルがあったこと		178 (24.4)	75 (20.2)
生徒との関係が悪かったこと		106 (14.5)	47 (12.6)
中退したこと		147 (20.1)	103 (27.7)
その他		26 (3.6)	21 (5.6)
特に問題はなかった		191 (26.2)	94 (25.3)

ウ 職場では・・・（仕事の経験のある人だけ回答してください）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
仕事が続けられなかった・転職が多 かったこと		132 (18.1)	178 (47.8)
雇い主との関係が悪かったこと		56 (7.7)	42 (11.3)
職場の同僚との関係が悪かったこと		54 (7.4)	73 (19.6)
仕事の知識や技能が不足していたこ と		54 (7.4)	54 (14.5)
仕事をやる気が不足していたこと		97 (13.3)	118 (31.7)
その他		23 (3.2)	22 (5.9)
特に問題はなかった		259 (35.5)	111 (29.8)

エ 友達関係では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
非行や犯罪をする友人や知人がいた こと		439 (60.1)	198 (53.2)
非行や犯罪をする人の誘惑があった こと		303 (41.5)	163 (43.8)
暴力団、ギャング、暴力団などの集 団に関係していたこと		99 (13.6)	130 (34.9)
まじめな友人や知人があまりいな かったこと		224 (30.7)	100 (26.9)
助けてくれる友人や知人がいなかっ たこと		108 (14.8)	85 (22.8)
その他		18 (2.5)	16 (4.3)
特に問題はなかった		185 (25.3)	98 (23.7)

オ 酒や薬物などでは・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
飲酒が習慣になり生活が乱れていた こと		56 (7.7)	47 (12.6)
飲酒した時に喧嘩などのトラブルが あったこと		53 (7.3)	70 (18.8)
時々薬物を使用していたこと		28 (3.8)	95 (25.5)
薬物をやめられなくなっていたこと		9 (1.2)	62 (16.7)
薬物を手に入れるため非行や犯罪を するようになっていたこと		6 (0.8)	39 (10.5)
その他		9 (1.2)	7 (1.9)
特に問題はなかった		564 (77.3)	197 (53.0)

カ ひまなときの過ごし方では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
部・クラブ活動に参加しなかったこ と		114 (15.6)	41 (11.0)
趣味など打ち込めるものがなかった こと		169 (23.2)	79 (21.2)
退屈してぶらぶらすることが多かつ たこと		330 (45.2)	152 (40.9)
ゲームばかりしていたこと		131 (17.9)	63 (16.9)
賭け事やギャンブルが多かったこと		112 (15.3)	143 (38.4)
その他		35 (4.8)	12 (3.2)
特に問題はなかった		218 (29.9)	103 (27.7)

キ 生活の習慣では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
遊び中心で生活が乱れていたこと		461 (63.2)	217 (58.3)
金づかいが荒かったこと		280 (38.4)	225 (60.5)
ローンや借金が多かったこと		33 (4.5)	102 (27.4)
決まった所で暮らしていなかったこと		101 (13.8)	74 (19.9)
ひきこもりがちだったこと		47 (6.4)	36 (9.7)
その他		20 (2.7)	11 (3.0)
特に問題はなかった		161 (22.1)	45 (12.1)

ク あなた自身の性格では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
すぐかっとなりやすかったこと		256 (35.1)	127 (34.1)
がまんが足りなかったこと		458 (62.7)	295 (79.3)
落ち着きが足りなかったこと		322 (44.1)	162 (43.5)
刺激やスリルが好きだったこと		201 (27.5)	134 (36.0)
悪いことで目立ちたかったこと		134 (18.4)	87 (23.4)
その他		64 (8.8)	37 (9.9)
特に問題はなかった		61 (8.4)	22 (5.9)

ケ あなた自身の態度では・・・

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
規則や注意を軽く考えていたこと		471 (64.5)	266 (71.5)
大人や社会に反発していたこと		223 (30.5)	122 (32.8)
つかまってもあまり反省をしなかったこと		88 (12.1)	127 (34.1)
自分が困っていても素直に助けを求めようとしなかったこと		222 (30.4)	167 (44.9)
他人の気持ちや迷惑に思いやりや関心が足りなかったこと		315 (43.2)	228 (61.3)
その他		17 (2.3)	15 (4.0)
特に問題はなかった		71 (9.7)	22 (5.9)

Q16 あなたは、今回の事件でここに来る前に、別の事件で審判や懲罰を受け、何か処分を受けたことがありますか。
次の中から、あてはまる番号をすべて下の欄に記入してください。（今回調査新設）

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	730 (100.0)	372 (100.0)
ない		478 (65.5)	55 (14.8)
保護観察		220 (30.1)	163 (43.8)
少年院送致		72 (9.9)	114 (30.6)
罰金		~	83 (22.3)
執行猶予		~	247 (66.4)
実刑		~	59 (15.9)
その他		~	~

Q17 Q16で「1 ある 保護観察（家庭裁判所で言い渡されたものに限る）」と答えた方にうかがいます。
（何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。）

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。（今回調査新設）

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	201 (100.0)	139 (100.0)
軽い		34 (16.9)	33 (23.7)
適当		82 (40.8)	88 (63.3)
重い		85 (42.3)	18 (12.9)

イ 保護観察を受けていたときの態度はどうでしたか。

区	分	今回調査（少年）	今回調査（若年）
総	数	202 (100.0)	140 (100.0)
まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた。		108 (53.5)	48 (34.3)
まじめなときと、ふまじめになったときがあった。		84 (41.6)	65 (46.4)
あまりまじめに指導を受けなかった。		10 (5.0)	27 (19.3)

Q18 Q16で「2 ある 少年院送致」と答えた方にうかがいます。
 (何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。(今回調査新設)

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	71 (100.0)	112 (100.0)
軽い		2 (2.8)	5 (4.5)
適当		24 (33.8)	49 (43.8)
重い		45 (63.4)	58 (51.8)

イ 少年院で指導を受けていたときの態度はどうでしたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	71 (100.0)	112 (100.0)
まじめに指導を受け、立ち直ろうと努力していた。		43 (60.6)	73 (65.2)
まじめなときと、ふまじめになったときがあった。		25 (35.2)	27 (24.1)
あまりまじめに指導を受けなかった。		3 (4.2)	12 (10.7)

Q19 Q16で「3 ある 刑事処分(罰金)」と答えた方にうかがいます。
 (何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。(今回調査新設)

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	68 (100.0)
軽い		~	10 (14.7)
適当		~	32 (47.1)
重い		~	26 (38.2)

イ 罰金後の態度はどうでしたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	68 (100.0)
まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。		~	17 (25.0)
まじめなときと、ふまじめになったときがあった。		~	26 (38.2)
あまりまじめに生活していなかった。		~	25 (36.8)

Q20 Q16で「4 ある 刑事処分(執行猶予)」と答えた方にうかがいます。
 (何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。)
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。(今回調査新設)

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	237 (100.0)
軽い		~	33 (13.9)
適当		~	134 (56.5)
重い		~	70 (29.5)

イ 執行猶予中の態度はどうでしたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	236 (100.0)
まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。		~	62 (26.3)
まじめなときと、ふまじめになったときがあった。		~	112 (47.5)
あまりまじめに生活していなかった。		~	62 (26.3)

Q21 Q16で「5 ある 刑事処分(実刑)」と答えた方にうかがいます。
(何回か処分経験のある人はいちばん最近の処分のことを考えて答えてください。)
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。(今回調査新設)

ア 処分を言い渡されたときはどう思いましたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	56 (100.0)
軽い		~	4 (7.1)
適当		~	27 (48.2)
重い		~	25 (44.6)

イ 受刑中の態度はどうでしたか。

区	分	今回調査(少年)	今回調査(若年)
総	数	~	56 (100.0)
まじめに生活し、立ち直ろうと努力していた。		~	36 (64.3)
まじめなときと、ふまじめになったときがあった。		~	12 (21.4)
あまりまじめに生活していなかった。		~	8 (14.3)

Q22 Q16で「(処分を受けたことが) ある(1~5)」と答えた方にうかがいます。
その(それらの)処分を受けてあなたの役にたったことは何ですか。
次の中から、あなたにあてはまるものをすべて選んで、○をつけてください。(今回調査新設)

区	分	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
該当者総数	252	(100.0)	315 (100.0)
処分の厳しさを知ったこと	173	(68.7)	203 (64.4)
社会のルールや責任を考えるようになったこと	191	(75.8)	176 (55.9)
非行や犯罪に陥るパターンが分かったこと	134	(53.2)	148 (47.0)
被害者や自分の与えた被害のことをよく考えるようになったこと	179	(71.0)	169 (53.7)
学業や仕事に関する知識や技能が高まったこと	100	(39.7)	82 (26.0)
学業や仕事の大切さが分かったこと	159	(63.1)	163 (51.7)
生活リズムや金銭の使い方が改善されたこと	124	(49.2)	90 (28.6)
自分の感情や考え方をうまくコントロールできるようになったこと	136	(54.0)	106 (33.7)
我慢強さや辛抱強さが向上したこと	129	(51.2)	150 (47.6)
他人の気持ちを考えて行動できるようになったこと	143	(56.7)	138 (43.8)
家族の大切さや家庭の中での役割が分かったこと	160	(63.5)	176 (55.9)
友達との適切なつきあい方が分かったこと	140	(55.6)	105 (33.3)
健康や体力が向上したこと	88	(34.9)	114 (36.2)
まじめになろうという気持ちが高まったこと	192	(76.2)	200 (63.5)
仕事を探したり、悪い仲間から抜けたりする手助けをもらったこと	110	(43.7)	72 (22.9)
その他	12	(4.8)	15 (4.8)

Q23 Q16で「(処分を受けたことが) ある(1～5)」と答えた方にうかがいます。
処分を受けたあとで、あなたがふたたび非行や犯罪をしてしまったのは、どんなことが影響していたと思いますか。
次の中から、あなたに当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。(今回調査新設)

区 該	分 当	者 者	総 数	分 今 回 調 査	(少年)	分 今 回 調 査	(若年)
				252	(100.0)	315	(100.0)
				67	(26.6)	163	(51.7)
				23	(9.1)	28	(8.9)
				32	(12.7)	67	(21.3)
				42	(16.7)	70	(22.2)
				75	(29.8)	97	(30.8)
				108	(42.9)	130	(41.3)
				79	(31.3)	145	(46.0)
				17	(6.7)	55	(17.5)
				49	(19.4)	60	(19.0)
				42	(16.7)	77	(24.4)
				28	(11.1)	42	(13.3)
				63	(25.0)	135	(42.9)
				23	(9.1)	62	(19.7)
				35	(13.9)	62	(19.7)
				41	(16.3)	82	(26.0)
				32	(12.7)	49	(15.6)
				45	(17.9)	32	(10.2)

Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる
心のブレーキになるのは次のどれですか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総数	数	2,230 (100.0)	2,831 (100.0)	712 (100.0)	368 (100.0)
父母のこと		475 (21.3)	628 (22.2)	321 (45.1)	108 (29.3)
兄弟 (妻子) を含めた家族全体のこ と		856 (38.4)	1,178 (41.6)	165 (23.2)	169 (43.2)
友達から仲間はずれになること		108 (4.8)	104 (3.7)	22 (3.1)	8 (2.2)
学校や職場に対する迷惑のこと		76 (3.4)	94 (3.3)	33 (4.6)	5 (1.4)
社会から白い目で見られること		39 (1.7)	43 (1.5)	7 (1.0)	2 (0.5)
警察につかまること		308 (13.8)	363 (12.8)	80 (11.2)	33 (9.0)
自分で自分がいやになるから		132 (5.9)	135 (4.8)	31 (4.4)	27 (7.3)
その他		183 (8.2)	218 (7.7)	40 (5.6)	11 (3.0)
特に心のブレーキになるものはない		53 (2.4)	68 (2.4)	13 (1.8)	15 (4.1)

Q25 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるものを3つ選んで、番号を記入してください。

区	分	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,897 (100.0)	730 (100.0)	372 (100.0)
規則正しい生活をおくる		1,539 (53.1)	444 (60.8)	207 (55.6)
お金のむだ使いをしない		424 (14.6)	94 (12.9)	111 (29.8)
健全な趣味や遊びをする		403 (13.9)	111 (15.2)	75 (20.2)
学校や仕事を休まずに続ける		1,605 (55.4)	378 (51.8)	151 (40.6)
資格や技術を身につける		532 (18.4)	99 (13.6)	106 (28.5)
知識を身につけて心を豊かにする		350 (12.1)	73 (10.0)	80 (21.5)
親の言うことをきく		608 (21.0)	207 (28.4)	41 (11.0)
家族の人と仲良くやっつけていく		773 (26.7)	153 (21.0)	98 (26.3)
悪い友達や先輩とはつき合わない		1,182 (40.8)	284 (38.9)	90 (24.2)
被害者のために何かお詫言をする		477 (16.5)	150 (20.5)	61 (16.4)
地元の人たちの役に立つことをする		96 (3.0)	22 (3.0)	15 (4.0)
保護観察官・保護司とよく相談する		402 (13.9)	109 (14.9)	38 (10.2)
もう少し要領よくふるまう		90 (2.8)	26 (3.6)	19 (5.1)
その他		68 (2.3)	16 (2.2)	13 (3.5)

Q27 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

区	分	2年調査 (少年)	10年調査 (少年)	17年調査 (少年)	今回調査 (少年)	今回調査 (若年)
総	数	2,111 (100.0)	2,238 (100.0)	2,847 (100.0)	725 (100.0)	370 (100.0)
満足		260 (12.3)	277 (12.4)	402 (14.1)	100 (13.8)	35 (9.5)
やや満足		538 (25.5)	503 (22.5)	700 (24.6)	158 (21.8)	52 (14.1)
どちらとも言えない		658 (31.2)	611 (27.3)	781 (27.4)	222 (30.6)	117 (31.6)
やや不満		354 (16.8)	572 (25.6)	567 (19.9)	134 (18.5)	55 (14.9)
不満		301 (14.3)	275 (12.3)	397 (13.9)	111 (15.3)	111 (30.0)

平成 24 年 6 月 印 刷

平成 24 年 6 月 発 行

東京都千代田区霞が関 1－1－1

編集兼 法 務 総 合 研 究 所
発行人

印刷所 株式会社アライ印刷

リサイクル適性 (B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。